

掘削用機械を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	1	10 ～ 12	発掘調査現場で、被災者は、ドラグ・ショベルの運転者として調査範囲の掘削した土砂の移動や掘削した土砂を積み上げた地山の成形等を行っていた。その際に、地山の頂上の平地の端で作業していたドラグ・ショベルが斜面に向かって転倒し、被災者がドラグ・ショベルのヘッドガードと地面に胸部付近を挟まれた。その後、被災者は、搬送された医療機関で数日後に死亡した。	170209	2	1～9
2022	1	8 ～ 10	災害復旧工事現場の河川において川の流れを変更するため、ドラグショベルによりポリエチレンパイプ（1本当たり200～300キログラム）が2本連結されたものを吊り上げていたところ、当該ドラグショベルの運転者の上着の裾が操縦レバーに引っかかったため意図せず右旋回し吊荷が揺れ、近くにいた被災者の頭部及び顔面と吊荷が接触した（又はブロック擁壁と吊荷の間に挟まれた）もの。	030107	6	1～9
2022	1	8 ～ 10	砂防ダム工事現場内の林道上で車両のすれ違いのため拡幅していた箇所、所にドラグ・ショベルと4トンダンプが停車していた。両車両の間で被災者がダンプの運転手と打ち合わせをしていたところ、ドラグ・ショベルが旋回して、被災者がカウンターウェイトとダンプの車体に挟まれて死亡したもの。	030108	7	30～ 49
2022	1	6 ～ 8	ダンプトラックのあおりに鉄製の仮付けした側板をドラグ・ショベルのバケットで押す作業を複数回行っていたところ、荷台上の鳥居の位置にいた被災者にバケットが接触し、そのまま押されて、被災者がバケットと鳥居の間に挟まれ被災したもの。	030309	7	1～9

2022	1	10 ～ 12	河川改修工事の準備工として、建設機械等が通行する仮設道路の造成に着手し、ドラグ・ショベルを用いて、土手の一部を掘削してスロープをつくり、その上に、当該ショベルにより鉄板を設置する作業を行っていた。2枚の鉄板の敷設が完了し、3枚目の鉄板（重量：800キログラム）を運搬し、設置しようとしたところ、当該ショベルが傾き、被災者は、運転席から飛び降りたが、同じ方向へドラグ・ショベルが倒れ、下敷きとなった。	030107	2	10～ 29
2022	1	8 ～ 10	ドラグショベル（クレーンモード不使用）を用いて荷を吊り、移動させようと走行・旋回した際に、ドラグショベルが転倒。被災者が運転席から投げ出され、ドラグショベルのヘッドガードと地面との間に腹部を挟まれた。直後、病院に搬送されたが、肝臓破裂で搬送先の病院で死亡が確認された。	030201	2	1～9
2022	2	16 ～ 18	ドラグ・ショベルを使用して、河川護岸のブロック積等の裏込め碎石を入れる作業中、下方の状況を確認しようとドラグ・ショベルの運転者が運転席から立ち上がり、確認後に再び運転席に座ろうとしたところ、ズボンのポケットに操作レバーが引っ掛かり、ドラグ・ショベルが不意に旋回し、バケットが近くにいた被災者に激突した。被災者は、右大腿部をバケットと構造物との間にはさまれ、出血性ショックのため死亡した。	030107	6	1～9
2022	3	16 ～ 18	被災者は、土捨て場において、単独でドラグ・ショベル（機体重量120kg）を運転し、法肩周辺の土砂を均す作業を行っていた。同機械の履帯で法肩を締め固める、又は何らかの理由により路肩を走行していたところ、右側の履帯が傾斜面（傾斜角約40°）にはみ出し、バランスを崩して約3.5m下に転落し、被災者が下敷きとなった。	030203	1	1～9
2022	4	10 ～ 12	被災者が事業場内の資材置場にて、ドラグ・ショベルを用いて金属製の円柱型の管を吊り上げていたところ、管が運転席付近に落下し、被災者が運転席と管との間に挟まれ、心肺停止で死亡したものの。	030199	4	1～9

2022	6	6 ～ 8	クレーン機能付きのドラグ・ショベルを用いて、重量1トンのトンパック2つを吊り上げて移動させていたところ、当該ドラグ・ショベルが倒れ、近くにいた作業員（誘導員）が、トンパック及び当該バケットの下敷きとなり死亡したものの。	030199	6	10～ 29
2022	6	8 ～ 10	午前中、砂利採取場予定地において、雨水によりできた水溜り（縦10m×横10m程度、水深1.2m程度）の排水を行うため、ドラグ・ショベルを用いて排水ポンプを吊上げたまま走行していたところ、当該水溜りにドラグ・ショベルごと転落し、運転手が溺水により死亡したものの。	020202	2	1～9
2022	6	10 ～ 12	県発注の河川改修工事において河川敷の整地作業に労働者3名で従事していた。被災者は現場の計測作業を行っていたところ、後進してきたドラグ・ショベルにひかれ、病院へ救急搬送されたが、同日、搬送先において死亡が確認された。	030107	6	1～9
2022	6	16 ～ 18	地上4階建てRC造ビルの解体工事中、同ビルの2階でドラグ・ショベルの作業状況を確認していた被災者が、旋回したドラグ・ショベルのバケットに激突され、地上まで垂直距離で2.2m、水平距離で3.5m跳ね飛ばされて外傷性くも膜下出血等の傷を負った。その後入院治療を続けていたが、後日、災害時の負傷に関連した急性呼吸不全により死亡したものの。	030209	6	50～ 99
2022	7	8 ～ 10	工場新設現場の基礎工事において、ドラグショベルの手元作業を行っていた被災者が突然倒れ、意識不明のまま病院に搬送されたが死亡したものの。被災日10時頃の気温は32℃、湿度は50%でWBGT値は27.3℃であったことから、当初熱中症が疑われたが、被災者のヘルメット後頭部に割れがあり、首と左肋骨（1～12番全て）に骨折、左脛に挫創が認められ、その後、死因は頭部外傷によるものと判明。	030199	6	10～ 29
		16	敷地内での杭工事のため掘削後の穴（エレベータシャフト設置用、深さ1.7m）から地上に上がる際、被災者が転落したものの。昇降に際			10～

2022	7	～ 18	し被災者は、同僚が運転するドラグショベルのバケット部分に搭乗しており、上昇中何らかのはずみでバランスを崩し転落に至った。	030201	1	29
2022	8	～ 14	雨水貯留槽設置工事において、作業が一段落したため片付けや清掃作業を行っていた。被災者は、ドラグ・ショベルの左右クローラーの間で機体に付着した土砂をスコップで除去していたところ、別の作業者がドラグ・ショベルを旋回させたため、上部旋回体と油圧ホースの金属製カバーに頭部を挟まれ死亡した。保護帽は着用していた。	030199	7	30～ 49
2022	10	～ 14 16	台風14号の影響で山林内の作業路に崩土等が生じたため、被災者が一人でドラグショベルを用いて作業路の崩土等を取り除く作業を行っていたところ、路肩からドラグショベルと共に転落し、途中、被災者は投げ出された。当日の夜、帰宅しなかったことから捜索願が出され、翌日の早朝、法面途中に倒れているところを発見された（路肩から約50m下の地点）。	060209	1	10～ 29
2022	10	～ 10 12	被災者はドラグ・ショベルを操縦し、台風15号の影響で谷側が崩壊した幅員約2.43mの農道の補修工事を実施していた。アスファルト舗装直下の土と小石が敷き詰められた地面をドラグ・ショベルのバケットの背で押さえつけながら締め固めていた時、ドラグ・ショベルがのっていた農道の一部が崩壊し、ドラグ・ショベルとともに約2.8m下の地面へ転落し、第3頸椎を損傷した。搬送先の病院で死亡した。	030106	1	1～9
2022	10	～ 10 12	砂防工事の現場入口付近において、被災者が大型トラックの荷台からドラグ・ショベルを降ろそうとして大型トラックの荷台後方を地面に接地するまで傾斜させた後、自らドラグ・ショベルに搭乗し、ドラグ・ショベルを地面まで自走させようとして折り畳まれていたアームを上方に伸ばしたところ、ドラグ・ショベルが下方に滑り落ち、そのまま法面方向へ転落し、更に立木をなぎ倒しながら目測20メートル下の谷底まで転落したものの。	040301	1	1～9

2022	11	14 ～ 16	支店敷地内の建屋前において、ドラグ・ショベル（機体重量1.46 t）が横転し、被災者がドラグ・ショベルと地面の間に挟まれていたところが発見され、搬送先の病院にて死亡が確認されたもの。	030199	7	1～9
2022	11	16 ～ 18	重機レンタル業者の敷地内で、被災者は自社のトレーラーの荷台にドラグショベルを2台積み込む作業を1人で行っていた。2台目のドラグショベルを荷台に乗せ、荷台からドラグショベルのバケットを地面につけて機体を浮かせ、何らかの作業を行っていたところ、ドラグショベルがバランスを崩し転倒、被災者は転倒したドラグショベルのバケットの下敷きとなり死亡したもの。	040301	7	10～ 29
2022	11	16 ～ 18	ミニドラグ・ショベル（機体重量約1.6トン）を移送するため、2トンダンプにアルミブリッジをかけて自走で積み込もうとしたところ、左側のアルミブリッジがずれて落下し、バランスを崩したミニドラグ・ショベルが横転したもの。負傷し、治療していたが死亡したもの。	030201	1	1～9
2022	12	8 ～ 10	被災者は護岸工事現場においてコンクリートブロックを設置作業を行っていたところ、被災者後方約1メートルの距離にいたドラグショベルが旋回したため、機体と設置しようとしていたコンクリートブロックとの間に挟まれ、間もなく死亡したもの。	030107	7	1～9
2022	12	14 ～ 16	道路整備工事において、被災者は埋め戻し作業を行っていた個所を巡视していたところ、後進しながら転圧していたドラグ・ショベルに轢かれたもの。	030106	6	100 ～ 299
2022	12	14 ～ 16	河川整備工事において、小型のドラグ・ショベル（機体重量約3 t）で、川沿いの通路（幅2.0 m、コンクリート舗装）を走行中、路肩から転落（約3.6 m）し、投げ出され頭部が地面（コンクリート）とドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	030199	1	10～ 29
		8	年末年始の降雨に備えて、道路面（法面上）から法面下に繋がる仮設道路を均して固める作業を行うため、被災者がドラグ・ショベルで仮設道路を下り始めた際、道路面と仮設道路の境目付近で、ドラグ・			

2022	12	～ 10	ショベルが前方に転倒し、その反動で約20m下にドラグ・ショベルごと法面を転落したものの。災害発生後、意識不明で入院していたが、死亡したものの。	030106	1	1～9
2021	1	～ 14 16	被災者が1. 7トンドラグショベルを運転してトラックに積載しようとした際に、地上からトラックの荷台にかけていた2つのアルミ製道板のうち、左クローラー側の道板が荷台から外れ、ドラグショベルが横転してキャノピ鉄支柱の下敷きとなった。	30199	1	1～9
2021	2	～ 12 14	橋台工事に伴う深礎工の掘削作業中、構台上東端に設置されたクラムシェルが深礎工事で発生した残土をクラムシェル西側のダンプに積み込むため南回りで旋回した際、クラムシェルの北東角付近にいた被災者がクラムシェルのカウンターウエイトと構台の手すりに挟まれた。被災者は搬送先の病院で死亡。構台上はダンプが出入りするため柵が開放され、クラムシェルの周囲に特に立入禁止措置は講じられていなかった。	30105	7	10～ 29
2021	2	～ 12 14	ドラグ・ショベルを用いて、立坑の掘削土をダンプに積む作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの運転手に指示を出していた作業員が、ドラグ・ショベルの後方に倒れている被災者を発見した。被災者は救急搬送されたが、同日死亡が確認された。本件災害の目撃者はいないが、現場の状況及び剖検から、被災者はドラグ・ショベルの旋回範囲に立ち上がった際、ドラグ・ショベルの後部と土留め壁に身体を挟まれたものと推定される。	30110	7	10～ 29
2021	2	～ 8 10	道路の付け替え工事において、集水枡の床付け、砕石基礎作業として、被災者がコンクリート擁壁の近くで、ドラグ・ショベルのバケットに入った砂利を掻き出した後、運転者がバケットを動かすために、ロックレバーを解除した時、左側の操作レバーが、運転者の服の裾に引っかかっていたため、誤動作し、バケットの爪とコンクリート擁壁との間に腹部を挟まれ死亡した。	30106	7	50～ 99

2021	4	16 ～ 18	擁壁の石積作業終了間際に被災者が擁壁頂部端部より作業箇所を確認中、旋回したドラグショベルの後端部に被災者が接触し、擁壁から転落した。	30199	6	1～9
2021	4	12 ～ 14	災害発生の翌日、斜面の下でドラグ・ショベルの下敷きとなった被災者（現場代理人）が発見されたもの。被災者はドラグ・ショベルを運転し、作業用道路の開設のため地山を掘削していたところ、路肩が崩れたことによりドラグ・ショベルとともに転落し、約50メートル斜面を転落した後、運転席から投げ出されドラグ・ショベルの下敷きになったものと推定される。	30108	1	30～ 49
2021	5	16 ～ 18	工場の増築工事において、ドラグショベルの手元作業を行っていた被災者が、掘削作業中に出てきた埋設管を取除くため、ドラグショベルに近づいた際にドラグショベルが旋回したため、バケット部分に激突され、さらに近くに停車中のダンプカーとの間に挟まれたもの。	30199	6	30～ 49
2021	6	6 ～ 8	トラック荷台に積んであるドラグ・ショベルを被災者が運転して地上に下ろす作業中、運転を誤ってドラグ・ショベルごと転落し、ブームの下敷きとなり死亡したもの。	30199	1	10～ 29
2021	7	12 ～ 14	ガス管配管工事現場において、ドラグ・ショベルの誘導に従事していた被災者が、後進で走行してきたドラグ・ショベルのキャタピラに轢かれ被災したもの。	170201	7	30～ 49
2021	9	14 ～ 16	土石流災害の復旧及び搜索活動において、作業箇所付近にあった穴を塞ごうと、0.022立方メートルのドラグショベルを用いて、80×60×10cmのコンクリート床板のがれき（重量120kg）を移動させようと、バケットにワイヤーでくくりつけ、旋回したところバランスを崩し2m下の川に転落、被災者の上にドラグショベルが落下し、骨盤骨折による失血性ショックにより死亡したもの。	30199	1	1～9
		12	パワーショベルで型枠に生コンクリートを打設する作業を行っていた。当該機械の運転者が途中で代わり、運転操作パターンを自分に合った「モード」に手動で切り変えた。バケットに生コンクリートが			

2021	10	～	入っていなかったため、代わった運転者が機械のアームを手前に動か	30199	6	10～
		14	そうとレバーを操作したところ、思っていた方向とは逆に動き、バ			29
			ケットの前方にいた被災者に当たり、バケットと背後の法面に挟まれ			
			死亡した。			
2021	11	～	作業員4名で、ドラグショベルを使用しブロックの積み替え作業を	150102	7	10～
		10	行っていた。被災者はブロックに付属する吊り上げ用具の清掃作業			29
		12	を行っていたが、ドラグショベルを旋回させた際に、近くで作業をし			
			ていた被災者がブロックとドラグショベルのカウンターウェイトの間			
			に挟まれた。			
2021	11	～	14 砂の採取現場内において、ドラグ・ショベルを使用して採取痕の池	20202	1	50～
		16	(水深3m程度)の埋め戻し作業を行っていたところ、ドラグ・ショ			99
			ベルが池の中に転落して水没し運転者が死亡したもの。			
2021	11	～	8 水道管の敷設工事を行う現場で、代表者の運転するドラグ・ショベル	30199	7	1～9
		10	が道路の掘削作業を行う際に後進したところ、被災者が当該ドラグ・			
			ショベルにひかれ死亡したもの。			
2021	12	～	(単独作業のため発見時の状況からの推測) ドラグショベルを使っ	70101	2	1～9
		16	て、単管パイプの束(約80本)を移動させている途中で、ドラグ			
		18	ショベルが横転した。運転席と単管パイプとの間に身体が挟まった状			
			態で発見された。バケット背面のフックにワイヤロープが掛かってい			
			た。資格は現時点で確認できていない。			
2021	12	～	被災者は残土運搬のため、トラックにて産廃処理業者の残土置き場を	30209	6	1～9
		10	訪問していた。産廃処理業者の事業主は残土を被災者に引き渡すた			
		12	め、バックホウを運転して残土をフレコンバックに入れ、それを吊り			
			上げて旋回を始めたところ、バックホウが横転した。被災者はフレコ			
			ンバックをバケットのフックから外すため付近に待機していたが、フ			
			レコンバックに激突されて足元の瓦礫の上に倒れているのを発見さ			
			れ、同日死亡が確認された。			



2020	1	8 ~ 10	工事現場内で転圧機（重量70kg）を法面下に降ろすため、ドラグショベル（アームより先端をロングアームに取り換えたもの）のバケットとアームの間にワイヤーを掛ける方法で転圧機を吊り上げ、予定の位置まで移動しようとしたところ、ドラグショベルが転倒し、荷下ろし作業のため法面下で待機していた被災者にドラグショベルのバケットが激突した。	30107	6	10~ 29
2020	1	12 ~ 14	被災者は、バックホーをトラック荷台に乗せて災害発生場所に移送した。そして被災者は、バックホーを操作してトラック荷台から地上に降ろそうとしたところ、荷台に掛けた2本の道板のうちの1本がはずれてバックホーが横転したため運転席から投げ出され、付近にあった立木とバックホーに挟まれたもの。	30199	2	10~ 29
2020	2	8 ~ 10	敷地内資材置場において、代表取締役がドラグショベルを操作し残土処理の作業をしていた際に、ドラグショベル後方に被災者がいることに気が付かずそのまま後進し、ダンプトラックとドラグショベルの間に挟まれ受傷したもの。その後入院し、加療していたものの、後日、嘔吐し、誤嚥性肺炎により死亡した。	30199	7	1~9
2020	2	12 ~ 14	被災者の所属事業場が受注した砂防堰堤工事の現場に通じる山林内の坂道において、被災者がドラグ・ショベルの下敷きになって倒れているのを、昼休憩を終えた同僚が発見したものである。被災者は救急隊により心肺停止状態で救出されたが搬送先の病院で死亡が確認された。	30199	1	1~9
2020	2	14 ~ 16	ドラグショベルの旋回範囲内にて二次下請所属の被災労働者に杭打機ドリルの洗浄作業をさせていた際、一次下請労働者がユンボ作業を行うべくエンジンをかけたところ、誤作動によりドラグショベルが旋回し始め、バケットと杭打機車体との間で頭部を挟まれ死亡したもの。	30201	7	1~9
		6	資材置場に土砂を搬入するダンプトラックが通行したことで傷んだ道路に鉄板（縦約1.5メートル、横約3.0メートル、厚さ約8ミリメートル）を敷くため、ドラグ・ショベルのバケットに付属するフッ			

2020	2	8	クに1枚の鉄板をつり下げ、もう1枚の鉄板を同バケットの上に乗せ、同ドラグ・ショベルを走行させて運搬していたところ、同バケットの上に乗せていた鉄板が落下し、付近にいた被災者の頭部に当たった。	170209	4	1～9
2020	4	10	ドラッグストア建設地造成工事現場において、被災者は、基礎工事等に係る掘削を行うため、ドラグショベルを運転し傾斜角約30度の地山スロープを下ろうとしたところ、当該ドラグショベルがバランスを崩し前方へ転倒、被災者が運転席から投げ出され、当該ドラグショベルのアームと地山の間で頭部が挟まれ死亡したものの。	30109	2	1～9
2020	4	12	災害復旧工事において、崖下に設置してあるヒューム管を、公衆用道路からドラグ・ショベルにて引き上げる作業中、同機がバランスを崩して崖下に転落し、運転者が死亡したものの。	30106	1	1～9
2020	4	10	機体重量2.56トンのドラグ・ショベルを用いて、工事用通路に仮設していた養生鉄板の撤去作業を行っていた。重量513キログラムの鉄板をつり上げ旋回したところ、ドラグ・ショベルを運転していた被災者が深さ約4m下の沈砂池にドラグ・ショベルごと墜落した。ドラグ・ショベルには、クレーン機能が備えられていた。	30199	1	30～49
2020	5	14～16	山中にて治山工事中、被災者はドラグショベルを運転し斜面を下ろうとした。被災者はドラグショベルのバケットを斜面下方に接地させ突っ張りとした後、斜面下方に向かってキャタピラを前進させたところ、ドラグショベルが左斜め前に前転するように斜面を転落し、ドラグショベルの下敷きとなった。なお、救助された時点で被災者はシートベルトを着用していなかった。	30199	1	30～49
2020	6	10～12	太陽光発電建設の造成工事で、掘削した岩石を土嚢袋に入れて、ドラグショベルで敷地内の側溝に搬出していた。被災者は岩石を入れる土嚢袋を広げる作業を行っていたが、被災者の判断で空の土嚢袋の上に仰向けで寝てその上に空の土嚢袋を掛けていたところ、それを知らなかった運転者が、土嚢袋が風で飛ばないようにバケットで押さえようと	30199	6	1～9

			したところ、その下にいた被災者に激突して死亡した。			
2020	6	12 ～ 14	上水道の配水弁室（管路の減圧弁等を設置する部屋）の新設工事において、同室を設置するための立坑を地上よりドラグ・ショベルを用いて掘削中、掘削場所を変えるため、機械を前進させたところ、前方にいたダンプトラックに激突しそうになったため、ミッションを中立にしようとしたが、誤って後進に入り、機械が後退して深さ約3.4mの立坑内へ転落したことから、内部で作業していた被災者が下敷きとなったもの。	30110	6	1～9
2020	6	14 ～ 16	高さ10mの電柱の抜柱作業において、台棒を使用して人力で上部から電柱を解体することとなっていたにもかかわらず、電柱をドラグ・ショベルで吊り上げて引き抜き、誘導者の導くロープ方向に倒したところ、電柱が誘導者を直撃したもの。	30301	5	1～9
2020	7	8 ～ 10	河川災害復旧工事において護岸補強のため、被災者がスコップにて砂利を敷き均しをしてところ、約3.5m上の道路に敷かれていた敷鉄板が走行してきたドラグ・ショベルのキャタピラ部分が接触して落下し、被災者に衝突したもの。	30107	4	10～ 29
2020	8	8 ～ 10	施工する工事現場において、交通誘導を行っていた被災者が何らかの理由でドラグ・ショベルの作業範囲に立入った際、バック走行してきたドラグ・ショベル（機体重量1t以上）のキャタピラ部分にひかれて死亡したもの。	170201	7	100 ～ 299
2020	9	16 ～ 18	砂防えん堤の建設工事現場において、えん堤の基礎コンクリート打設後の第1段目のコンクリート型枠（残存型枠）の設置作業中、四方を高さ1.42メートルの残存型枠で囲まれた型枠内部にいた被災者を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルのバケット内に搭乗させて型枠外部へ移動させようとしたところ、高さ2.8メートルの位置から被災者は残存型枠内部の基礎コンクリート部へ墜落したもの。	30108	1	1～9
		8	重機搬入路の敷鉄板の段差の調整作業中、バックホウのバケットの爪に敷鉄板を掛けて動かそうとしたが動かなかったため、被災者がバー			

2020	10	～	10	ルを併用して動かそうとしていたところ、敷鉄板からバックホウのバケットの爪が外れ、バケットがバールに接触し、その反動で被災者の胸部に当たった。	30301	4	10～ 29
2020	10	～	14 16	被災者が、ドラグショベルを運転して作業道の開設を行っていたところ、作業道からドラグショベルとともに約24メートル転落した。	60209	1	1～9
2020	11	～	8 10	同僚1名と被災者で工事で使わなくなったドラグ・ショベルをダンプに積み込み作業中、ダンプの荷台にドラグ・ショベルのクローラ先端をかけ旋回したところドラグ・ショベルがバランスを崩し横転、被災者が運転席から投げ出されドラグ・ショベルのヘッドガードと地面の間に頭部を挟まれたもの	30106	1	1～9
2019	1	～	8 10	学校の建替工事現場において、コンクリートがらの破碎作業のために使用するドラグ・ショベルの点検作業を行っていた被災者が、車体と上部旋回フレームとの間にはさまっているところを発見され、病院に搬送されたが死亡した。	30201	7	30～ 49
2019	2	～	16 18	豪雨災害で流出した道路の復旧工事で、ドラグ・ショベル（0.8立法メートル）のバケットのフックにワイヤロープを掛けて護岸用として設置するブロック（縦1m×横1.5m×長さ1.8m、重量約1.5t）を吊上げて据付ける作業中に、運転手が作業状況を確認しようとして立上って座った際、運転手の着衣に旋回用のレバーが引っ掛かったためアームが旋回し、ブロックがその横で配筋作業中の労働者に接触し被災した。	30107	6	1～9
2019	2	～	10 12	豪雨被害による河川護岸の緊急対策工事において、ドラグ・ショベル（運転質量約7t）で、土嚢袋（約0.9t）をつり下げて配置する作業中、重機ごと河川に転落（高さ4.45m）し、河川内で土嚢袋を誘導、据え付け中の作業者が下敷きになった。	30107	4	10～ 29
			14	自社資材置場においてドラグショベルの旋回中にブームの油圧が抜け			

2019	2	～ 16	ブームが倒れ旋回範囲内にいた被災者にバケットが激突し死亡した	30201	6	1～9
2019	3	～ 12	解体工事のためドラグショベルを運転して敷地内を移動していたところ、ドラグショベルが運転席側からため池に横転して水没し、溺死したものの。	60101	2	1～9
2019	3	～ 18	事業主と被災者が橋台基礎の設置のため掘削と支保工設置を行った後、開口部の周囲にカラーコーンを設置するため、事業主がドラグショベルを別の場所に移動させ、旋回を行った際、被災者がドラグショベルと隣で停車中の平ボディトラックとの間に挟まれて倒れ、腹部内臓圧迫で死亡した。	30105	7	1～9
2019	3	～ 16	賃貸用マンション新築工事現場における外構工事中に、ダンプカーの誘導作業を行っていた労働者が、ドラグ・ショベルに轢かれているところを発見され、病院に搬送されたが、午後に死亡したものの。	30201	6	1～9
2019	4	～ 12	住宅解体工事現場において元請事業場の現場代理人がドラグ・ショベルで転圧作業を行うため後退させたところ、後方でブロック塀の撤去作業を行っていた労働者が当該ドラグ・ショベルにひかれた。	30202	7	1～9
2019	4	～ 10	ドラグショベル（以下、「重機」という。）を使用した土木の地ならし作業中、作業員が後退してきた重機に轢かれたもの。重機オペレーターは事業主で、被災者は事業主に連絡事項があり重機に近寄ったあと、重機の後方で電話連絡していた最中であった。	30209	6	1～9
2019	5	～ 10	下水道工事で汚水管の埋戻し作業中、ドラグショベルの足元の地盤が崩れたため、ドラグショベルが前方に傾き、そのバケットが掘削溝の簡易土止めの中で地ならし作業を行っていた被災者に激突した。	30110	6	30～ 49
2019	5	～ 18	資材置場に仮置きしていた工事で出た残土を移動するよう現場代理人から指示された被災者が本件工事現場の作業終了後に現場で使用していたドラグ・ショベルをトラックに載せて資材置場に向かい、資材置場において、被災者がドラグ・ショベルを運転していたところ、高さ82cmの残土を乗り越えたときにドラグ・ショベルが横転し、ヘッ	30202	2	1～9

			ドガードに頭部を挟まれて死亡した。			
2019	7	10 ~ 12	建屋の基礎コンクリートの解体作業において、解体予定の基礎コンクリート上に、破碎されたコンクリートガラが山状に集積されていたため、車両系建設機械（掘削用）を使用し、コンクリートガラを搬出方向へ移動させるため、当該車両系建設機械を右旋回させた際、右旋回経路上にあった廃鉄筋とバケットが接触、緊張した廃鉄筋が飛散し、約2.2m離れた場所において、散水の準備作業をしていた被災者の胸に激突し、死亡したもの	30209	4	10~ 29
2019	7	8 ~ 10	既存護岸を撤去するためドラグショベルを用いて周囲の堆積土砂の掘削・撤去作業を行っていた。ドラグショベルのオペレーターが掘削土砂を仮置きしている間に掘削指示を行っていた潜水士が掘削箇所確認のため海中の掘削部に入ったが、ドラグショベルのオペレーターは入水に気づかずに掘削を続けたため、ドラグショベルのバケットが被災者に激突した。	30111	6	1~9
2019	9	10 ~ 12	工事現場で、トラックに載せて運搬してきたドラグショベルを下ろし、トラックを移動させたところ、トラックのタイヤが埋まって動けなくなった。このため、ドラグショベルのバケットにワイヤーロープを掛けて、トラックをけん引、移動させた後、バケットに掛けたワイヤーロープを被災者が取外ししていたところ、急に旋回したバケットとトラック後部の間に挟まれ、死亡した。	30309	7	1~9
2019	11	8 ~ 10	造成工事現場において、重機を搬入する仮設道路を作るため、碎石を敷きながら作業中、後退してきたドラグショベルのキャタピラーに下半身を巻き込まれた。	30109	6	1~9
2018	1	8 ~ 9	トンネル坑内切羽付近において、ロードヘッダーでの掘削を終え、ブレーカでこそく作業を行っていた。その後方で、ドラグ・ショベルを用い仮置きした鋼製支保工を切羽に運ぶためにドラグ・ショベルを後退させたところ、切羽の写真撮影のため待機していた被災者に接触したもの。	30102	7	10~ 29

2018	2	10 ～ 11	建設事務所が発注し元請で施工する中小河川改良工事において、二次下請の個人事業主が無資格で運転する機体重量11トンのドラグ・ショベルが後退したところ、鋤簾にて床ならし作業を行っていた一次下請の労働者（外国人技能実習生）が、当該ドラグ・ショベルの左側のクローラに轢かれて、出血性ショックにより死亡したものの。	30107	7	1～9
2018	2	10 ～ 11	国道沿いの道路改良工事現場において、コンクリート擁壁の路肩で作業を行っていたバックホーがバランスを崩して約5m下の川底へ転落し、運転者はバックホーの下敷きとなり、頭部を圧迫されて死亡した。転落の直前まで、バックホーのバケットフックに土砂の入ったワイヤーモッコを掛け、道路上へ吊上げる作業を行っていた。当該バックホーはクレーン機能を備えているが、適切に使用されていなかった。	30106	1	10～ 29
2018	4	14 ～ 15	オペレーターが山腹斜面の倒木を「RCM掘削機」のアームで、山腹斜面の下部に落とそうとしたところ、意に反し、倒木が一回転して、RCM掘削機から目測9m離れた位置を移動していた被災者に激突し、被災者は山腹斜面を目測10m滑落した。同日夕方、被災者は全身打撲による臓器損傷により死亡が確認されたもの。	30199	6	100 ～ 299
2018	7	8 ～ 9	側壁のコンクリート打設作業のため、生コンが0.3立方メートル入っているコンクリートホッパーをドラグ・ショベルで吊り、対岸側の打設位置に移動させたとき、ドラグ・ショベルの前方の路肩が崩れ、ドラグ・ショベルが右側に転倒。えん堤に係る足場上でドラグ・ショベルを誘導していた被災者が、倒れたドラグ・ショベルのバケットとえん堤の間にはさまれた。	30106	6	1～9
2018	7	10 ～ 11	ドラグ・ショベルによる掘削で出た廃土を積んだダンプトラックを運転するため、被災者がドラグ・ショベルとダンプトラックの間を通ったところ、オペレータがドラグ・ショベルを操作したため、ドラグ・ショベルのクローラが後部側から掘削溝に落ち、ドラグ・ショベルのアームとダンプトラックのあいだに頭部及び胸部を挟まれ死亡した	30202	7	1～9

			もの。クローラーは掘削溝と直角に交わるように配置されていた。			
2018	7	10 ～ 11	農業用ビニールハウスの建築工事において、組立中のビニールハウスの周囲に止水シートを埋設するため、被災者はドラグショベル（車幅83.5cm）でビニールハウス周囲の地面を掘削していた。ビニールハウスと敷地南側の水路の間の法肩（幅員130cm）で作業を行っていたところ、ドラグショベルが被災者とともに水路に転落し、被災者が水路の石積とドラグショベルの間に挟まれた。	30209	1	1～9
2018	8	14 ～ 15	被災者は作業場にてドラグショベルの右前方にて廃材分別作業を行っていたところ、ドラグショベルが前進し、ドラグショベルのキャタピラに激突された。	150103	6	10～ 29
2018	9	16 ～ 17	集合住宅新築工事のための宅地造成作業において、後退してきたドラグショベルに被災労働者が轢かれたもの。	30199	7	10～ 29
2018	9	16 ～ 17	被災者は、農場の建設物の基礎工事現場において、スコップで基礎杭周囲の土砂の埋戻し作業を行っていたところ、同じく土砂の埋戻し作業を行っていたドラグ・ショベル（機体重量15.9トン）が約3m後進して轢かれたものである。ドラグ・ショベルの作業範囲の立入禁止は講じられておらず、誘導者も配置されていなかった。当該作業に従事していた当該事業場の労働者は被災者1名のみである。	30209	7	1～9
2018	10	10 ～ 11	勾配が22度から35度程度の地山の法面にて被災者はドラグ・ショベル（※小型移動式クレーン仕様ではない）を運転し、重機搬入路の整形作業を行っていたが、現場監視を行っていた現場代理人が大きな音がしたのを聞き、音のした方を見ると被災者の運転するドラグ・ショベルが転倒していた。その後すぐに被災者がドラグ・ショベルの下から這い出てきて、病院に搬送されたが、搬送先の病院で搬送から約1時間後に死亡した。	30108	1	1～9
			豪雨災害復旧工事現場において、被災者が法面の幅員1.5mこう配約20度のコンクリート舗装の直線路面上においてドラグショベル			



2018	10	10 ～ 11	(機体重量約0.5 t)を運転し、路面に隣接する法面の表面掘削を行っていたところ、路面下り面側に約5 m転落し、当該機械と路面との間に胸部をはさまれたもの。病院で治療を受けていたが、後日死亡した。	30106	2	1～9
2018	10	16 ～ 17	造成工事現場内において、作業が終了し、片付け中に小型ドラグ・ショベルで残ったノロセメントをダンプカーから降ろすため、盛土の上を移動中に盛土が削られた箇所に小型ドラグ・ショベルの履帯が落ち、小型ドラグ・ショベルが回転しながら前のめりに転倒し、振り出された被災者がヘッドガードではさまれ死亡したもの。	30199	7	1～9
2018	12	10 ～ 11	土捨て場において、ドラグショベルを運転していた被災者が、ドラグショベルと一緒に路肩から約15 m (勾配35度) 転落し、背面をドラグショベルで圧迫された状態で頭部が残土に埋もれ、窒息により死亡した。	40301	1	1～9
2017	1	14 ～ 15	工事において、所属事業場の代表者が機体重量16トンのドラグ・ショベルを旋回させたところ、掘削溝内にいた被災者が当該ドラグ・ショベルの上部旋回体の右後部と掘削土壁との間にはさまれて被災し、病院搬送されたが、死亡した。	30106	7	10～ 29
2017	1	14 ～ 15	水産加工場内の設備工事で昼休憩が終わり、作業場所である水産加工場3階へ向かうために階段を上っていたところ、1階と2階の間にある踊り場の端(幅1.75 m、地上高さ2.3 m)から墜落した。	30106	6	1～9
2017	1	8 ～ 9	被災者は、駐車場整備工事において、ドラグ・ショベル(以下重機と言う)のフックで吊っていた地面を固めるセメントを入れたフレコンバッグを切るためのカッターナイフを、重機を運転していた同僚(以下、運転者という)に借りようと、重機に近づいたところ、運転者がカッターナイフを被災者に渡そうと左手をのばした際、重機の操作レバーに触れてしまい、重機が動き、フレコンバッグが被災者に激突した。	30202	6	1～9

2017	1	14 ～ 15	<p>推進工法による下水道管設置工事において、深さ約6m、直径3.5mの到達立坑内で既設下水道管の解体作業を行っていた。既設下水道管の下面部分をクラムシェルで地上に引き上げようとしたが、持ち上がらなかったため、クラムシェルのアームを左右に振ったところ、バケットの爪がはずれ、その反動で振り子のように振れたバケット部が被災者の頭部に激突した。</p>	30110	6	50～ 99
2017	1	14 ～ 15	<p>被災者が移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルを運転してローラーをつり上げようとしたところ、過荷重となり、同ローラーとともに、3m下の川底に落下し、ドラグ・ショベルの下敷きとなり死亡した。</p>	30109	1	10～ 29
2017	1	8 ～ 9	<p>警備業務委託元である食品会社において、被災者は、警備業務研修として教育系の労働者とともに巡回警備業務を行っていた。地下にある排水処理施設の巡回のため、階段を下りていたところ、上から4段目でバランスを崩して前のめりで頭より転落し、頭部を強打した。搬送先の病院で、死亡が確認された。</p>	20201	7	1～9
2017	2	16 ～ 17	<p>0.1立米の掘削用機械を4トントラックの荷台乗せようとしていた。道板は使用していなかった。バケットを地面に接地させアームの力も利用して車体を荷台に走行させようとした。掘削用機械の履帯がトラックの荷台から外れ、掘削用機械が被災者の側に倒れた。被災者がアームの下敷きとなり救出され病院に搬送されたが死亡した。</p>	30110	6	1～9
2017	2	0 ～ 1	<p>舗装工事現場にて、モルタルを用い道路下側面の腰壁の補修作業を行っていた。被災者がドラグショベル（クレーン機能なし）を用いてモルタルの入った金属製の箱を吊り上げ、左に旋回したところ遠心力が加わり路肩から川底へ転落し、被災者は運転席から投げ出され、川岸の岩に頭を打ち付け、死亡した。なお被災者はシートベルトを装着せず、ヘルメットもかぶっていなかった。</p>	30199	1	1～9
2017	2	10 ～ 11	<p>護岸改良工事において、川底の土砂をスコップでドラグ・ショベルのバケットに投入する作業中、運転者がドラグ・ショベルを右旋回させたため、バケットと切梁の間に胸部を挟まれ死亡した。</p>	30107	7	10～ 29

2017	2	16 ～ 17	被災者が車輻系建設機械（ドラグ・ショベル）で土堤の構築作業を行った後、ドラグ・ショベルを所定の場所に戻すため、高さ約10mの法面（勾配38度以上）を登坂したところ、ドラグ・ショベルごと転落した。	20201	1	50～ 99
2017	2	10 ～ 11	根継工の床堀作業において、被災者はドラグ・ショベルへの作業指示のため掘削深さ91cmの掘削場所に入った。ドラグ・ショベルの運転手は被災者の手の合図に従い、作業装置を操作しバケットを押し出したところ、バケットの背が被災者を押す形となり、被災者は背後に設けられていたコンクリート壁とバケットの背にはさまれ死亡した。	30107	7	30～ 49
2017	2	10 ～ 11	ドラグショベルを運転して梅林の整地作業を行って被災者がドラグショベルを後進させたところ、梅木（最大直径22cm）の枝が背部にあたり、当該枝と運転席との間に挟まれた状態で発見された。	60101	7	10～ 29
2017	2	14 ～ 15	斜面に置かれた伐倒木を集積するため、ドラグ・ショベルのバケットの爪にロープを掛け伐倒木を斜面から引き上げる作業を行っていたところ、その過程で、玉掛けを行う労働者がバケットと接触した。	30109	6	1～9
2017	3	16 ～ 17	高速道路に接続するスマートインターチェンジ建設工事現場において、作業員がドラグショベルに轢かれ重体となり、その後死亡が確認された。	30105	7	50～ 99
2017	4	8 ～ 9	ドラグ・ショベルが路肩を踏み外したため調整池に転落し、オペレーターが死亡した。	30302	1	30～ 49
2017	6	8 ～ 9	被災者が法面養生用シートの撤去作業を行っていた際に、背面で地均し作業を行っていたドラグショベルが作業位置を変えるため上部旋回体を90度右旋回したうえで、右方向に横行したところ、横行経路上にいた被災者がドラグショベルの履帯に轢かれた。	30199	7	1～9
		10	雨水排水管を敷設するためにドラグショベルで掘削した全長約4m、全幅約1.5m、深さ約2mの溝内において、作業員2名が排水管の埋戻し作業を行っていたところ、ドラグショベルが掘削溝内へずり落			

2017	7	7	11	ち、それに気付いた作業員1人は溝内から脱出したが、被災者は土砂に足を取られて動けず、ドラグショベルのバケットが被災者の胸部に激突し、バケットと鋼矢板の間に胸部を挟まれ、外傷性血気胸で死亡した。	30199	6	1～9
2017	7	10	11	漁港沖の作業台船上で消波ブロックの撤去作業中、台船上に仮置きされた消波ブロックの向き調整をドラグ・ショベルで行っていた際、車体を旋回したところ、近くにいた被災者がドラグ・ショベルのカウンターウェイトと船倉内の仕切り壁との間にはさまれた。	30111	7	10～29
2017	7	14	15	ドラグショベルを用いて深礎工立坑内の地山の掘削作業を行っていた被災者がドラグショベルを後進させたところ、ドラグショベルの走行レバーと切り梁の間に体を挟まれた。走行レバーを倒す体勢で挟まれたため、ドラグショベルは後進を続ける状態となった。	30105	7	10～29
2017	7	16	17	道路工事現場において、作業に使用していたドラグ・ショベルを駐車スペースに移動させていた際、前方にコーン等が配置されていたため、ドラグ・ショベルを後退させたところ、後方にいた交通誘導員に激突し、交通誘導員がドラグ・ショベルの下敷きになり死亡した。	170201	6	10～29
2017	9	10	11	被災者は、トラックに載せていたドラグショベル（移動式クレーン仕様）を、道板を使用し、降ろしていたところ、道板の片側が掛けていたトラックの荷台から外れ、運転していた被災者とともに転倒、ヘッドカード付近に頭部をはさまれた。	30209	1	1～9
2017	9	8	9	被災者は一人で、トラフ（約54キ口）敷設の作業現場付近の法肩約1.7mのスペースでドラグショベル（バケット容量0.024立米、機体重量1.22t）を運転操作中、何らかの原因により約5メートル下に転落し、先に地面に墜落した被災者の上に当該ドラグショベルが落下し下敷きになった。	30199	1	1～9
		14		建物新築に伴う外構工事において、ドラグショベル（クレーン仕様ではないもの）で、側溝のコンクリートブロックを吊り込み作業中、ド			

2017	10	～	ラグショベルのバケットの直下で、コンクリートブロックを玉掛けし	30199	6	1～9
		15	ていた被災者が、降下してきたドラグショベルのバケットとコンク リートブロックの間に頭部を挟まれ死亡した。			
2017	10	～	岩の小割作業に使用していたブレーカーの履帯が外れたため、ドラグ			
		6	ショベルにて履帯を運搬しようと、バケットに履帯を掛けて走行して	20201	4	10～
		7	いたところ、歩行中の被災者がバケットに近づいてきたのに気づき、 走行を停止したところ、反動で履帯が落下し被災者の頭部にあたっ た。			29
2016	3	8	敷地内において、ドラグ・ショベルを使用して鋼管杭の蓋をつり上げ			
		～	る作業中、ドラグ・ショベルの右脇に近接していた鉄柵を番線で結束	11209	7	10～
		9	していたところ、当該ドラグ・ショベルが左旋回した際、上部旋回体 と鉄柵の間に挟まれた。			29
2016	3	10	作業構台上のドラグ・ショベルを使用し、構台から根切り底へ鉄筋の			
		～	荷卸作業（用途外使用）が行われた。当該作業完了後、所定の置き場	30201	7	50～
		11	所まで自走後、180度時計回りに旋回させ停止させところ、脇に被 災者が倒れていた。			99
2016	4	～	被災者は、自社敷地内の資材置き場にて、トラックの荷台にバック			
		15	フォーを積載しようと、荷台後部に鋼製道板（長さ1.8m、幅0.			
		～	35m）を掛けた後、当該バックフォーを前進走行で荷台に載せた。	30203	1	1～9
		16	荷台に載せ終えたあたりで、機体が滑り、重心が後方に傾いてひっく り返り、道板に接触しながら地上右側面に横転した。これにより被災 者はバックフォー運転席前方のパイプフレームと地面との間に頭部を 挟まれ死亡した。			
2016	4	～	被災者は、元請事業場の社長等と計6人で上下水道の配管設置工事を			
		9	行っていた。設置する配管は（公道下）地中の既設配管に繋ぎこんで			
		～	設置をするため、元請事業場の社長がドラグショベルを運転し公道の	30110	6	10～
		10	掘削をしていた。約1.5mの深さまで掘削を終え、掘削溝内に土止 め用鋼矢板を設置するために鋼矢板の上部をドラグショベルのバケッ			29

			トで押し込んでいたところ、バケットが（鋼矢板から外れ）掘削溝内にいた被災者に激突した。			
2016	5	8 ～ 9	トラック荷台に積み込まれていた小型バックホーを荷台から下ろす作業に際し、バックホーの運転を行っていた被災者が、バックホーごと転落し、バックホーのキャビンに備え付けられたヘッドガードに腕を挟まれた。	30110	1	10～ 29
2016	5	8 ～ 9	用水路浚渫工事の準備作業中、用水路内で準備作業中の被災者がバケットと用水路のコンクリート壁の間を通り抜けようとした際、ドラグショベルのバケットが急に動き、バケットと壁に挟まれ死亡した。	30107	7	1～9
2016	6	8 ～ 9	被災者は、朝礼後、担当現場に向かうため、同方向の別現場へ走行するドラグ・ショベル（機体重量15.4トン）の後方を別事業場の労働者と並んで歩いていたところ、作業開始位置を行き過ぎたドラグ・ショベルが突然停止し、旋回体を10度程左旋回して後進したため、カウンターウェイトに接触し、ドラグ・ショベルの右側履帯に全身を轢かれた。	30106	7	1～9
2016	8	9 ～ 10	道路工事により出た仮置きのアスファルト殻を、被災者がドラグショベルを用いてトラックに積み込み作業中、ドラグショベルがバランスを崩して転倒し、キャビンから投げ出された被災者が転倒した車体の下敷きになった。	30106	2	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	調整池復旧工事において、被災者は、法面の矢板を打つ位置に埋まった石をどけるため、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベルを路肩に据え、当該石にワイヤーロープを掛けて当該ドラグ・ショベルで引き上げたところ、機体の後方が浮き上がり、被災者が誤ってペダルを踏んだため、ドラグ・ショベルが急旋回して法面を転落し、被災者は搭乗席から投げ出された。	30199	1	1～9
2016	9	10 ～ 11	霊園敷地内の雑草対策としてコンクリート床を設ける作業において、小型ドラグショベルで移動中、路肩が崩壊し運転していた作業員が小型ドラグショベルごと高さ約9m崖下に転落し死亡した。	30199	1	1～9

2016	10	15	関係請負人の労働者（1次下請）がドラグ・ショベルを使用し、掘削した埋戻土を足元に敷固めるため、後退したところ、後部を通行していた被災者（元請職員）がクローラに接触し轢かれた。	30201	7	30～ 49
2016	11	10 ～ 11	ドラグ・ショベルで除染廃棄物の仮置き場の整地作業後、ドラグ・ショベルを次の作業場所へ移動するため、高低差70cmの傾斜を下る途中に転倒し、運転室から投げ出され、ヘッドガードの下敷きとなった。	30309	2	10～ 29
2016	11	10 ～ 11	インターチェンジの料金所付近の通路を設ける工事において、掘削箇所での埋戻し作業で、狭隘な場所で、上部旋回体が後ろ向きになった状態の小型ドラグ・ショベルを用いて均し・締固め作業を行っていた際、後進したところ土止め支保工の切梁と操作レバーに胸を挟まれ、2日後に死亡した。	30199	7	30～ 49
2016	12	9 ～ 10	倉庫建築工事の地盤補強作業のため、ドラグショベルを用いて長さ4メートルの丸太の杭をバケットで地面に押し込む作業を行っていたところ、バケットが杭の上面から外れてしまい、バランスを失ったドラグショベルのキャタピラー前部が深さ48センチメートルの溝に落ちてしまった。このとき、被災者は、杭を両手で抱え込んで支えていたため、大きく傾いたドラグショベルのバケットが、被災者の頭部に激突した。	30209	6	10～ 29
2015	7	12 ～ 13	被災者が指揮者となり、石の上に設置された軽油用の燃料タンクをドラグ・ショベルを用い、動かそうとしたところ、燃料タンクが被災者の方向に倒れてきて燃料タンクに胸部を挟まれたもの。	20201	5	1～9
2015	9	14 ～ 15	土砂処分場内で、被災者が大型ドラグショベルを運転して作業道を行行中、路肩が崩れ土砂処分用の穴にドラグショベルごと転落したものの。	20201	1	1～9
2015	12	0 ～ 1	トンネル工事現場において、切羽付近のズリ積込み作業を終了したドラグショベルが、次の作業に向かうため後進したところ、ドラグショベル右後方に立ち入っていた被災者の両足を轢いたもの。	30102	7	100 ～ 299

2015	4	11 ～ 12	被災者がドラグショベルの下敷きになり倒れているのを通行人が発見。搬送先の病院で死亡が確認されたもの。リースしていた1トンド ラグショベルを引き取るため建設現場に出張していた被災者が、当該 ドラグショベルを1.5トントラックへ積み込む際ドラグショベルと 転落し、運転していた被災者がその下敷きとなったものと思われる。 災害調査については、警察署が実施済み。	80409	1	1～9
2015	7	14 ～ 15	現場作業が終了したため運送会社に委託し、ケリーバー（杭打ち機に 装着する部材で長さ12m、重さ約3t）を当該資材置場に搬出し た。ケリーバーを保管するため、被災者がドラグショベル（機体重量 22.5t）を使用し、トラックからケリーバーを下ろした際、ケ リーバーが運転席に激突したものである。	30201	6	10～ 29
2015	5	13 ～ 14	砂利採取の現場において、被災者は1人で2台のドラグ・ショベルを 用いて、砂利を掘削する作業及び掘削した砂利をトラックの荷台に積 み込む作業を行っていた。午後1時過ぎ、当該事業場の労働者がト ラックで現場に行ったところ、湧き水等が溜まっている掘削した穴の 中に、横転した状態で水没しているドラグ・ショベルを発見した。被 災者は、同機械の運転席から救出されたが、病院で死亡が確認され た。	10901	1	10～ 29
2015	3	8 ～ 9	家屋改修工事に附帯する宅地の石垣積み作業において、被災労働者は 小型ドラグショベル（移動式クレーン機能なし）を操作し石垣の石を 吊り上げて移動させていたところ、ドラグショベルが転倒し石垣から 3.4m下の道路に墜落し死亡したもの。	30202	1	1～9
2015	8	9 ～ 10	被災者はダンプの運転者で、廃材など積み込み中に運転席から降り、 粉じん防止のため放水作業を行った。廃材をダンプへ積み込みを行っ ていたドラグショベルが旋回し、被災者はドラグショベルの後部と壁 との間に胸や肩を強くはさまれた。病院へ救急搬送されたが、同日死 亡した。	30209	6	1～9



2015	9	0 ～ 1	給水管敷設工事の準備作業として、工事場所脇の空地に敷鉄板を敷設するため、最大つり上げ荷重0.81tの移動式クレーン機能付きドラグショベル（クレーン機能付きバックホー）で荷重約450kgの敷鉄板を吊り上げ旋回していたところ、ドラグショベルが転倒し、被災者は運転席から投げ出され、運転席のヘッドガードと地面に頭をはさまれた。	30110	2	1～9
2015	8	17 ～ 18	リース用のドラグショベル（機体重量約2t）をトラックの荷台に載せようと既存の傾斜した専用の台を走行中にドラグショベルが転倒しかけたので飛び降りたが転倒したドラグショベルのクローラ部分と専用の台の隣りに置いてあるリース用の歩み板の間に挟まれ病院へ搬送されたが死亡した。	80409	1	30～ 49
2015	7	13 ～ 14	地上3階建てのRC造建築物を新築する工事において、作業員1名の頭部にドラグ・ショベルのバケットが激突した。当該ドラグ・ショベルは基礎工事において地山を設計深さまで掘削する作業に用いられており、掘削作業中にアームを前方へ伸ばした状態で後進したところ、伸びた状態のアームが横振れし、付近で掘削面の深さを測量していた被災者の頭部に激突した。	30201	6	1～9
2015	1	12 ～ 13	公園の整備工事における公園入退出用スロープの修繕作業にて、クローラ式ドラグショベル（機体重量2.26t）を用いて作業を行っていた。ドラグショベルを移動するためスロープ（傾斜角7°）上に仮置きされた厚さ19cmのコンクリートガラ上をスロープ登り方向に進行させ通過しようとしたところ、真後ろの方向に転倒。ドラグショベルの後ろ側で地面のならし作業をしていた被災者がドラグショベルのブームと地面に挟まれたもの	30199	7	1～9
2015	9	13 ～ 14	道路に隣接する個人宅の石垣が崩壊する危険性があったため、機体重量5tのドラグショベルとつり上げ荷重25tの移動式クレーンを用いて、既存の岩を取り外し、組み直す作業を行っていた。昼休憩を終え、石垣裏の土砂を同僚がドラグショベルのバケットですくい右旋回	30199	6	1～9

			したところ、被災者がちょうど旋回範囲である石垣の上にしたため、当該バケットに跳ね飛ばされ、2. 15 m下の地上に墜落したものの。			
2015	10	14 ～ 15	本件労働災害は一般家屋の解体工事現場において伐木後の木をドラグショベル（機体重量10 t以上）で集積していた際に発生したもの。運転者（事業主）がドラグショベルを後退させたところ、右側の履帯に被災労働者の両足が挟まれたもの。死亡日は10月3日。死因は外傷性ショックによる多臓器不良。	30202	7	1～9
2015	6	9 ～ 10	車両系建設機械（移動式クレーン仕様）を使用して鋼材をクランプの1点吊りで水平移動させていたところ、鋼材を誘導していた被災者が地面に置いていた鉄板の段差でつまずき転倒した際、鋼材に手を掛けたことで荷ぶれが発生し、振れた荷に激突されて被災した。なお、被災時、車両系建設機械はクレーンモードに切り替えられていなかった。	30110	6	10～ 29
2015	9	8 ～ 9	道路改良工事現場で、ドラグ・ショベル及び人力による碎石の敷均し作業中、ドラグ・ショベルを後進させたところ、ドラグショベルの後方で作業をしていた被災者を轢いたもの。	30106	7	10～ 29
2015	6	10 ～ 11	河川の護岸の石積みの裏込め作業中、ドラグショベルのバケットにコンクリートを入れ、石積み箇所の近くにバケットを移動させ、被災者が手工具でコンクリートを石積みの裏側に詰めていたところ、ドラグショベルの運転手が作業場所を確認するために立ち上がり、そのまま座った際にズボンのポケットが操作レバーに引っかかったため、バケットが動いて被災者がバケットと地山の間で挟まれたもの。	30107	7	1～9
2015	11	23 ～ 24	ずい道建設工事現場において、発破作業の準備を終え、退避のため、切羽付近の重機4台（ドラグ・ショベル、ドリルジャンボ、ブレーカ、トラクター・ショベル）を順次移動させていたところ、切羽から11 m離れた地点で、ドラグショベルに轢かれた状態の被災者が発見されたもの。	30102	7	10～ 29
			ドラグショベルにより減圧槽基礎の床掘作業中、勾配約20度、高低			

2015	11	14 ～ 15	差最大約50センチの傾斜地で進行方向（ドラグショベルの後方向き）に転倒し、ドラグショベルのキャビンの支柱と地面に、被災者の右肩から胸部あたりを挟まれて死亡したもの。	30110	2	10～ 29
2015	3	0 ～ 1	被災者は、廃レンガの破碎作業において、破碎機から排出される破碎物に混入した鉄くず等を取り除く作業を行っていたところ、破碎機への投入を終え、別場所へ移動させようとしていたドラグ・ショベル（バケット容量0.7m <sup>3</sup> ）に下半身を轢かれた。	10901	7	10～ 29
2014	1	14 ～ 15	被災者は、仮設ヤードで、ヤード造成の伐採時に発生した枝葉等の伐採材を移動するため、集積作業を行っていた。被災者は、ドラグ・ショベルで、約1mの高さに積みあがった伐採材の上を移動したところ、バランスを崩し伐採材から転落した。被災者は運転席から飛び降りたが、そこにドラグ・ショベルが倒れてきて、下敷きになった。	30102	1	100 ～ 299
2014	1	16 ～ 17	路面の高さを揃える路盤生成作業中、ドラグショベルで路面を削ったり盛土したりするため、前進と後進を繰り返していた。被災者は、ドラグショベルの後方でしゃがんでいたところ、（被災者に気づかずに）後進してきたドラグショベルに轢かれた。	30109	7	1～9
2014	2	7 ～ 8	資材置場に放置されていたドラグショベルを他の資材置場に移動させるため、被災者が一人でトラックに載せようとしたところ、トラックに掛けた道板がずれたか、もしくはドラグショベルが道板から外れたため、ドラグショベルがアスファルト路面上に転落し、被災者がドラグショベルの下敷きとなった。	30309	1	1～9
2014	2	10 ～ 11	農業用水路内の土砂を浚渫するため、被災者は小型ドラグショベルの排土板により用水路に架かった橋下の土砂を集積しようとした。橋桁と河床までの高さは140cmと低く、被災者は座席部分を外して運転席に乗り込み、バックしたところ、頭が橋桁に当たり、身体が前のめりになり右肩がアーム操作レバーを前に押したため、アームが押し下がり車体前方が持ち上がり、頭とあご及び胸部を橋桁とレバーの間	30107	7	1～9

			に挟まれた。			
2014	2	8 ～ 9	アースオーガーからロットを取り外して地面に降ろすため、ワイヤーでロットに玉掛けし、バックホウのバケットのフックにアイ2つを掛けて1本吊りで移動させ、ロットの片方を地面に付け、反対側を下げ始めて45度ぐらいの角度の際、フックからワイヤーが外れ、ロットが一気に地面に落下し、その場にいた被災者が下敷になった。	30202	4	10～ 29
2014	2	15 ～ 16	道路整備工事現場にて、ドラグショベルで砂利を敷均す作業中、被災者は、ドラグショベルの後方で、ドラグショベルの通った後の砂利をスコップで均していた。ドラグショベルは前進と後進を繰り返しながら整地し、後進してきたドラグショベルの後方約90cmの位置にいた被災者が轢かれた。	30106	6	30～ 49
2014	3	9 ～ 10	解体工事現場にて、被災者及び運転者他2名にて、ドラグ・ショベルの搬入路として使用する敷鉄板を敷設するため、敷鉄板に横吊り用クランプと吊りチェーンで3点玉掛けし、当該ドラグ・ショベルのバケット吊り具で吊り上げ、敷設予定箇所までアームを伸ばそうとしたところ、ドラグショベルが転倒し、バケットの爪が被災者の頭部を直撃した。	30202	6	10～ 29
2014	3	16 ～ 17	被災者は、砂利を敷く作業を行うためドラグ・ショベルを運転していた際、エンジンを止めずに降りようとしたところ、雨合羽が旋回レバーに引っかかり、ドラグ・ショベルごと旋回した後、クローラーとキャビンとの間に胴体を挟まれた。	30109	7	30～ 49
2014	3	9 ～ 10	事業場の責任者である被災者は、木板20枚（約20キロ）をドラグショベルのバケットに入れ、スロープ（延長約66.5m、勾配13～15度）を前進し下っていたところ、湖岸で停止せず湖内に進入し、溺死した。	20202	10	10～ 29
2014	3	10 ～	施工中の擁壁の裏込め土を転圧しようと、小型ドラッグショベルを被災者が運転し、バケットに取り付けられているフックを用い、転圧機を吊り上げ、擁壁の背面底部に下ろそうとしたところ、機体が安定を	30108	1	1～9

		11	失い、斜面を約2.5メートル転落。被災者は、横転したショベルと擁壁部に挟まれた。			
2014	4	9 ～ 10	栈橋にて、トラックにより搬入された土砂を台船に積み込む作業中、散らばった土砂を土砂貯留地へかき集めようとトラックを降りたところ、旋回中のドラグショベル後部と土砂貯留鋼製枠との間に挟まれ、死亡した。	30107	7	10～ 29
2014	4	16 ～ 17	パワーショベルで未整地の場所を走行していたところ、パワーショベルが転倒し、被災者が運転席から投げ出された。	30109	2	1～9
2014	4	10 ～ 11	重機で地山を掘削していたところ、地山の法面頂部付近にあった木根が落下し、斜面に沿って転がり、被災者に激突した。	30106	4	1～9
2014	4	11 ～ 12	再生材をドラグショベルを使用し、トラックの荷台に載せる作業を行っていたところ、ドラグショベルが転倒し、トラック運転席部分にバケットの根元部分が当たり、トラック運転席にいた被災者は、つぶされた運転席屋根に挟まれ、死亡した。	30199	6	1～9
2014	4	16 ～ 17	ドラグショベルをコンベアの下から通過させようと高さを確認していたところ、運転席左側にあるアーム操作レバーを誤って作動させ、コンベアの下フレームとの間にはさまれた。	20201	7	30～ 49
2014	4	15 ～ 16	廃棄物置場にて、ドラグ・ショベルを運転し、旋回後直進した際、ドラグ・ショベルの前方に被災者が倒れていたのが発見された。	80109	6	1～9
2014	6	16 ～ 17	ドラグ・ショベルを使用し、土間コンクリートを解体する作業を行っていたところ、バケットが被災者に接触した。	30209	6	1～9
2014	6	15 ～	木造家屋の解体工事現場にて、解体した材料の分別作業を行っていたドラグ・ショベルの後方にて、木くずを拾い集めていた被災者が、後	30202	7	10～ 29

		16	退してきたドラグ・ショベルに轢かれた。			
2014	6	14 ～ 15	ドラグショベルで掘削等作業中、掘削面のコンクリートがらが落下し、被災者に激突した。	30109	4	1～9
2014	7	15 ～ 16	ドラグ・ショベルを使用し、林道に堆積していた土砂、枝葉等を除去していたところ、ドラグ・ショベルごと林道脇の谷へ約4.2m転落した。	30199	1	10～ 29
2014	7	8 ～ 9	被災者は、川沿いにコンクリートブロックをドラグショベルにてつり、並べる作業を行っていたところ、旋回したドラグショベルのバケットとコンクリートブロックの間にはさまれた。	30199	6	1～9
2014	8	9 ～ 10	旋回したドラグショベルと電柱との間に挟まれ、死亡した。	30110	7	50～ 99
2014	11	13 ～ 14	斜路をドラグ・ショベルで移動していた際、転倒。ブームの下敷きになった。	30105	2	50～ 99
2014	12	10 ～ 11	河川内を走行中、ドラグショベルが深みにはまり、横転。被災者は運転席内に閉じ込められ、死亡した。	30107	2	10～ 29
2014	12	15 ～ 16	路面舗装作業中、ダンプトラック荷台後部をのぞき込んでいた被災者が、接近してきた車両系建設機械に挟まれた際、同僚が操作レバーを引いたところ、旋回体が走行体後方に向いていたため、操作レバーの方向と車体の進行方向が逆で、被災者が挟まれた。	30106	7	1～9
2014	12	8 ～ 9	法面造成工事にて、バックホウに専用のつり具を用い、ブロックを高さ約4.5m位置から下ろす作業中、重機がバランスを崩し、転落。下方にいた被災者に重機のバケットが激突し、死亡した。なお、当該重機は移動式クレーン仕様であるが、災害発生時はクレーンモードに	30199	6	100 ～ 299

			しておらず、定格荷重0.9t（作業半径7.3m）に対して約1.3tの荷（つり具を含む）を吊っていた。			
2013	6	15 ～ 16	被災者は、工場に置いてあるドラグ・ショベルを操作し、工場から約200メートル離れた作業場所で作業を行い、工場へ戻るため、ドラグ・ショベルを運転して市道を下っていたところ、アスファルト舗装された市道（幅2.9メートル、下り勾配6度）の路肩から4メートル下に転落し、ドラグ・ショベルの履帯の下敷きとなった。	10909	17	1～9
2013	11	0 ～ 1	夜間の道路工事において、ドラグショベルで道路を掘削し、アスファルトのガラを旋回して後方の4トンドンプトラックへ積み込む際、アスファルトのガラが落下して付近で作業を行っていた被災者が下敷きになった（重さ約1.2トン）。	30110	4	1～9
2013	9	9 ～ 10	林道開設工事現場において、被災者はドラグショベルを運転して、作業道（道幅2.8m、上限勾配18%）の掘削作業中、作業道の路肩が崩壊し、28m下の谷へ転落した。	30199	1	1～9
2013	1	9 ～ 10	建築物の解体工事において、ドラグ・ショベル（機体質量約1.4トン）を4階から3階フロアへと屋内階段を使って移動させようとしていたところ、ドラグ・ショベルが前のめりに転落。階段の踊り場で、被災者が4階フロアの鉄骨とドラグ・ショベルの座席背もたれに挟まれた。	30209	1	30～ 49
2013	2	15 ～ 16	ダンプトラックに積み込んで運ばれて来たドラグ・ショベルを、バケット部分を支えとして前進させながら荷台から降ろしていたところ、ドラグ・ショベルが横転して法面下の田圃の中に落ち、投げ出された運転者がアームの下敷きとなった。	30107	1	1～9
2013	1	14 ～ 15	被災者は、他現場で発生した土砂の引き渡しのため、揚土岸壁に接岸したガットバージ船上において、土量検収作業（写真撮影等）を行っていたところ、ガットバージ船が流され、船の位置を修正するために旋回させたクラムシエルのカウンターウエイトと、土砂ボックスとの間にはさまれた。	30111	7	30～ 49

2013	8	14 ～ 15	木造住宅の解体工事現場において、廃材（コンクリート片）をドラグショベルでトラックに積み込んでいたところ、ドラグショベルのバケットから廃材が落下し、被災者が下敷きになった。	30309	4	1～9
2013	4	13 ～ 14	運転していた被災者は、ドラグショベルで法面掘削作業中、ドラグショベルとともに路肩から約1.6m下の地面に転落し、ドラグショベルの下敷きとなった。	30199	1	1～9
2013	6	9 ～ 10	会社資材置き場において、ドラグショベルで塩ビ製のパイプの束の運搬作業をしていた際、被災者はパイプの束から玉掛ロープを外した後、ドラグショベルの操縦者がロープを引き抜くためにブームを上げたところ、パイプの束が運転席方向に少し動いたため、被災者が押さえるためにブームの下に移動した。その直後、ドラグショベルの右履帯が溝に落ち、右前方に車体が傾いて転倒し、被災者はブームと地面に身体を挟まれた。	30108	6	1～9
2013	10	16 ～ 17	被災者は、ドラグショベルで採石場の表土の除去作業を行っていた。数段下のベンチでは同僚がドラグショベルにより採石の選別作業を行っており、終業が近づいたため、同僚はドラグショベルを運転し、採石場下方へ移動を始めたが、いつもなら後を追って降りてくる被災者が降りてこないため、上部方向へ上がってみたところ、被災者が運転していたドラグショベルが転落・横転し、その脇で倒れている被災者を発見した。	20201	1	1～9
2013	3	9 ～ 10	被災者は、ドラグ・ショベルにて鋼製バツカン（400Kg）を移動していたところ、ドラグ・ショベルが横転、2.5m下の河川に転落した。投げ出された被災者は、バケットとバツカンの間に腹部を挟まれた。	30107	1	1～9
2013	12	14 ～ 15	工事現場において、用水路に沿ったかたちの通学用歩道を整備するため、ミニショベルを用いて用水路脇を掘削していたところ、運転手がミニショベルとともに用水路（幅約2.5m、深さ約2.8m）に墜落した。	30106	1	1～9



2013	7	11 ～ 12	残土処分地における流出残土の防止のための沈砂池設置工事において、トラックで運んできたコンクリートブロック（重さ：約3 t）をクレーン機能を有さないドラグ・ショベルのバケットのフックに玉掛用ワイヤロープを掛けて吊り、トラックから作業場へ降ろしていたところ、下方で玉外し作業をしていた被災者に激突し、病院へ搬送したが、死亡した。	30199	6	1～9
2013	9	10 ～ 11	資材置き場（砕石中間処理工場内）において、現場で使用する鉄板を運搬するため、ドラグショベルを使用し、鉄板1枚（800キログラム）をつり上げトラックに積み込み作業中、鉄板が落下し、被災者が下敷きになった。尚、ドラグショベルは用途外使用であった。	30106	4	10～ 29
2013	10	14 ～ 15	公共下水道工事にかかる事前調査として水質調査を行うため、ボーリングマシンを使用しケーシングパイプを地面に挿入する作業を行っていたところ、ボーリングマシンの回転部に作業着が引っ掛かり巻き込まれた。	30110	7	1～9
2013	11	13 ～ 14	解体工事現場で使用した足場用の丸太33本の束（約330kg）を、ドラグショベルのバケット背部のフックにワイヤロープを掛けて吊り上げトラックに積み込む作業中の事故。被災者は、介錯のため丸太束の先端に手を添えて支えながらトラック荷台に上がろうとトラック運転席付近に足を掛けた際、バランスを崩して地面に墜落。同時に吊っていたワイヤロープがフックから外れ、丸太の束が仰向けに倒れた被災者の胸部に落下した。	30209	4	1～9
2013	9	15 ～ 16	アンダーパス道路築造工事における、U字コンクリート擁壁築造工程での事故。コンクリート打設の終了した擁壁裏側の土砂埋戻し工程（裏込め）において、作業従事中のミニバックホーが後進したところ、土止め支保工水平材に激突し、運転手が水平材鉄骨と運転操作レバーに腹部を挟まれた（バックホーは180度回転状態で、挟まれた状態では後進操作が解除されなかった）。	30106	3	50～ 99
		13	新設道路の側溝設置工事現場において、側溝の施工ミスが判明したた			

2013	2	～	めに行っていた手直し作業中に、U字溝接続部のはつり作業を行って	30106	6	1～9
		14	いた被災者が、後退してきたドラグショベルにひかれて即死した。			
2013	7	～	ドラグ・ショベルにて、ダンプに土砂の積み込み作業を行っていた。	30106	1	1～9
		13	次のダンプが来る間に、セット場にいたドラグ・ショベルが何らかの			
		14	原因で、横転し、さらに付近の路肩より約2メートル転落した。運転			
			席が壊れ、被災者が死亡した。			
2013	10	～	会社より歩いて5分ほどの郵便局へ収入印紙を買いに出掛け、押しボ	10806	17	50～
		10	タン式信号の横断歩道にて歩行者信号が青に変わったのを確認して横			99
		11	断していたところ、走行してきたショベルカーにはねられた。			
2013	5	～	作業員2名でドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様とせず使用して	30109	7	30～
		14	いた。）を用いてU字溝を吊って移動させていた。所定の位置におい			49
		15	て、吊っていたU字溝を地面に置き、被災者が玉外しを行っていたと			
			ころ、ドラグ・ショベルの操作を誤り、バケットとU字溝に被災者が			
			はさまれた。			
2013	11	～	コンクリート製造等に用いるため、砂の採取を行うダム作業所の湖面	10901	10	10～
		11	まで取り付けられた作業道において、ドラグショベルを用いて流木の			29
		12	除去作業を行っていたところ、ドラグショベルが転倒し、湖面に水没			
			した。			
2013	9	～	木造家屋の基礎工事において、ドラグ・ショベルを用いて掘削作業を	30202	2	10～
		16	行う被災者は、掘削作業により発生した最大勾配約30度、高さ約9			29
		17	0センチに積まれた残土の頂上まで、上部回転体を反時計回りに90			
			度回転させた状態で後進させたところ、当該ドラグ・ショベルがバラ			
			ンスを崩し転倒し、被災者が地面との間にはさまれた。			
2013	1	～	集合住宅新築工事の外構工事においてドラグショベル（0.1?）を使	30201	7	30～
		9	用し、既存U字溝の撤去作業中、U字溝をアームに玉掛けし、地上に			49
		10	引きずり出そうとしたところ、ドラグショベルが転倒し、補助作業を			
			行っていた被災者が、アームと地面との間に挟まれた。			

2013	10	16 ～ 17	ガス管の敷設工事現場において、誘導員として一般車両の誘導を行っていた被災者は、後退してきたバックホウ右後ろの履帯に轢かれた。	170201	6	30～ 49
2013	9	12 ～ 13	ワイヤー製の網に石4つ（直径50cm～80cm程度）を入れ、ドラグショベルを用いて運搬していたところ、幅約2mの急斜面に差し掛かった際、路肩が崩れたためドラグショベルが転倒し、運転者が当該ドラグショベルの下敷きになった。	30199	2	1～9
2013	12	15 ～ 16	発注者の資材置き場に置かれた廃棄物（コンクリートブロック等、通称「ガラ」）を分類する作業中、バックしてきたドラグショベルの履帯（クローラー部）に轢かれた。	150102	7	1～9
2013	3	10 ～ 11	被災者は、ドラグショベルのバケットに入った生コンをスコップですくい取り、法面下の木枠に敷きならしていた。生コンを積んだダンプを、他の労働者が後退させようとした際、ダンプの荷台にスコップが立て掛けてあるのを発見したドラグショベルの運転手がこれを注意しようとしたところ、ドラグショベルの操作レバーに腕が接触し、アームが動いてバケット脇にいた被災者がバケットと土手の間に挟まれた。	30106	6	1～9
2013	10	11 ～ 12	被災者は、一般住宅の除染工事現場においてドラグショベルを運転し、約1割勾配の法肩から法面に落ちている木の枝などをバケットでかき上げる作業中、ドラグショベルとともに法面を約5メートル下に転落し、腕などがドラグショベルの下敷きとなり、出血死した。	30199	1	100 ～ 299
2013	3	9 ～ 10	被災者は、除染した枝木の仮置場に設置されている圧縮梱包施設ヤード内にトラックで枝木を運搬する作業を行っていた。被災者は、圧縮梱包施設ヤード内で、枝木を運搬したトラックの誘導を行っていたところ、山積みした枝木を掘削するために走行していたドラグショベルにひかれた。	30309	6	30～ 49
2013	12	10 ～	道路舗装工事現場において、取付道路路盤施工で砂利の敷均し作業中、ドラグショベル後方で作業をしていた被災者が、後進してきたド	30106	6	50～

		11	ラグショベルと接触し足から腰部にかけて履帯に轢かれ死亡した。			99
2012	12	16 ～ 17	被災者は産業廃棄物の処理場内において、ドラグ・ショベルを用い瓦礫の山の上でアームで破碎機をつり上げ作業中、ドラグ・ショベルが3.4m下方に転落し、ドラグ・ショベルのキャビンと瓦礫の間に挟まれた。	150102	1	1～9
2012	5	9 ～ 10	不整地運搬車にクローラを取り付けるため、当該クローラをドラグ・ショベル（バケット容量0.45立方m）のバケットで押し込もうとしたところ、当該バケットがアームの先端から外れて高さ約2mの位置から落下し、バケットの下部に居た被災者に激突した。	30108	4	1～9
2012	7	11 ～ 12	ドラグ・ショベルの運転席から降りる際に、被災者が着用していた安全帯のロープ部分が運転席の左操作レバーに引っ掛かり、当該操作レバーを左上方向に動かしてしまったため、ドラグ・ショベルが右旋回して被災者が振り回され、左後方の履帯とキャビンのカウンターウエイト部分との間（約17cm）にはさまれ、救急搬送先の病院で死亡した。	30107	7	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	被災者は木製パレットの上に置いたコンクリートを石垣に打設するため、ドラグ・ショベルを運転し、バケットのフックにワイヤーを掛けて木製パレットを吊り上げていたところ、ドラグ・ショベルが転倒し、被災者が運転席から投げ出され、ドラグ・ショベルの下敷きとなった。	30107	2	1～9
2012	8	2 ～ 3	排水路新設工事の作業現場において、占有区域へダンプカーを誘導していた被災者は、後進してきたドラグ・ショベルに轢かれた。	170201	7	30～ 49
2012	7	14 ～	住宅の浄化槽設備工事において、ドラグ・ショベル（機体重量3t未満）をダンプトラック（最大積載量3,750kg）に積み込む作業中、道板を使用せずにドラグ・ショベルのバケットをダンプの荷台（高さ1.17m）に接地し、アームを支えにしてクローラの前部を浮かせて荷台	30203	2	10～ 29

		15	に斜めに乗せた後、上部旋回体を右旋回させたところ、ドラグ・ショベルがバランスを崩して後方に倒れ、ドラグショベルを運転していた被災者が下敷きになった。			
2012	9	15 ～ 16	国道の新設工事において、ダンプトラックで搬入した碎石をドラグ・ショベル等の重機を用いて締め固めながら地面をかさ上げしていく作業中、碎石を降ろす場所をダンプトラックに指示するため、被災者が締め固め作業をしているドラグ・ショベルの後方に立ち入ったところ、後退してきたドラグ・ショベルのクローラに轢かれた。	30106	7	10～ 29
2012	9	15 ～ 16	被災者はプレートランマーを使用して地表面の締め固め作業を行っていた際、後進してきたドラグショベルに激突され、キャタピラ部分に轢かれ死亡したもの。なお、ドラグショベルの運転手は無資格者であった。	30106	6	10～ 29
2012	1	8 ～ 9	造成地内の道路設置工事において、車両系建設機械（0.25tドラグ・ショベル）を用いて碎石を敷き均す作業中、車両系建設機械後方でのんぼを使って碎石を均していた被災者が、後退してきた車両系建設機械に激突され死亡した。	30106	6	1～9
2012	3	14 ～ 15	被災者は高速道路建設工事現場にてドラグ・ショベルを運転し、法面に生えた木の根を伐根・集積する作業を幅約4mの地山等で行っていたところ、当該地山等が崩落し、ドラグ・ショベルごと約17m下の谷底に転落した。	30106	1	10～ 29
2012	2	14 ～ 15	貯水池底部に堆積した汚泥の浚渫、圧送、搬出し作業に使用する泥上掘削機（フロート構造のドラグショベル）のデモンストレーション作業を行うため、貯水池内（深さ6m）中央部まで進んで上部旋回体を150度旋回させたところ、右前方部から沈み込む形で泥上掘削機が転覆し、運転者と隣にいた被災者が投げ出された。運転室にいた運転者は自力で脱出し無事だったが、被災者は意識のない状態で浮上したところを救出されたが、死亡が確認された。	30199	10	1～9
			護岸ブロック築造のために河川内の土台部を掘削し、掘削部の押さえ			

2012	2	15 ～ 16	のための土のう（フレコンバッグ：1t）をドラグショベル（移動式クレーン仕様）で運搬中、土のうを玉掛けし、玉外し箇所に行こうとした被災者は、旋回体と護岸法面との間に胸部を挟まれた。	30107	7	10～ 29
2012	11	13 ～ 14	被災者は0.1立方メートルのバケットを装着したドラグショベルで、バケットや排土板を使用して散策路の路面を均す作業を行っていたところ、勾配18度の斜面（幅員約3m）において約10m下にドラグショベルごと転落した。	30199	1	10～ 29
2012	2	14 ～ 15	解体工事において、木造平屋の住宅屋根上で作業していた被災者を隣接する同じく木造平屋の住宅屋根上（屋根最上部の棟高約4m）に移動させるために、パワーショベルのバケット（ドラグショベルのバケット逆取付）に搭乗させたところ、労働者がバケットから屋根に完全に乗り移らないうちにバケットを逆方向に旋回させてしまったため、被災者は約4m下の地面に墜落し、死亡した。	30209	1	1～9
2012	6	10 ～ 11	ダンプトラックに積まれたコンクリートの入ったベッセルを地上に降ろそうとドラグショベル（クレーン仕様）で吊り上げ旋回していたところ、ドラグショベルが傾き、荷物もろとも約3m下の斜面に転落した。その際、被災者は運転席から投げ出され、アームに上半身を挟まれ死亡した。また、近くにいた別の作業員は、ドラグショベルを避けようとして約3m下に墜落した。	30106	1	10～ 29
2012	1	15 ～ 16	資材置場を整地するため、労働者数名でドラグショベル等を用いて作業を行っていた。その整地作業中にて、ドラグショベル運転者が後退したところ、ドラグショベルの稼働範囲内に立ち入った被災者と接触してしまった。	30209	6	10～ 29
2012	8	10 ～ 11	掘削作業中に、ドラグショベルのオペレータが転倒した機械の下敷きとなり死亡した。	30105	2	100 ～ 299
		11	擁壁造成工事現場において、移動式クレーン仕様のドラグショベル			10～

2012	7	～	12	(車体重量12.6 t)により、積みブロックを運搬していたところ、丁張の解体作業をしていた被災者が当該ショベルに轢かれた。	30109	7	29
2012	5	～	11 12	下水道工事において、簡易土止めを行い掘削し下水管を埋設した。土を埋め戻すため、簡易土止めをまたぐ形でバックホーを前進させたところ、地盤が陥没しバックホーが前方に傾いた。その際、バックホーのバケットが被災者の背中に激突した。	30110	6	1～9
2012	11	～	8 9	道路災害復旧工事において、整地作業を行っていたドラグ・ショベルが後進した際、当該ドラグ・ショベルの後方にいた被災者がキャタピラに轢かれ、死亡した。	30106	7	1～9
2012	7	～	13 14	ドラグショベルを使用し、石堀を解体撤去する作業をしていたところ、堀全体が倒壊し、当該石堀付近に停車したトラックの運転席から降車した被災者がトラックと石堀の間に挟まれ、脳挫傷により死亡した。	30199	5	10～ 29
2012	12	～	15 16	資材をバックホーのバケットに入れ、資材置場に運搬している際、勾配約18度の坂道を上っている途中でクローラがスリップし、数十cm滑り落ちた。その際、バックホーのすぐ後ろを歩いていた被災者のつま先にクローラが乗り上げたが、運転者はそれに気付かず坂道を登り直すためバックホーを後進させ、つま先をクローラに踏まれ動けない被災者をそのまま轢いた。	30105	7	50～ 99
2012	8	～	15 16	被災者は木くずを堆積保管しているチップヤードにおいて、ドラグショベルの運転業務を行っていたところ、誤ってドラグショベルごと木くずの山の上部から転落し死亡した。	150103	1	30～ 49
2012	10	～	16 17	林道の新設工事において、路面上をドラグショベルが後進しながら地均ししていたところ、同路面横の地山(高さ約1.8m)上を作業終了後の片付け作業のために歩行していた被災者を、ドラグショベルのキャタピラでひいてしまった。	30106	7	50～ 99
				現場の基礎工事において、ドラグ・ショベルによる掘削作業と、掘削後捨コンクリートを打設するため砂利を敷き均し、打ち込んであった			

2011	2	15 ～ 16	杭（パイロ）間の直線を紐で引く等の作業を被災者を含む5名で行っていたところ、ドラグ・ショベルのオペレーターは掘削箇所（地上から約1.5メートル下）で紐で引く作業を屈んで行っていた被災者に気づかず、土砂をすくい取ろうとしたバケットが被災者の右肩から頭部にかけて激突し即死した。	30201	6	30～ 49
2011	2	10 ～ 11	床掘作業中のドラグショベルに被災者が接近（床掘の深さを測るため）したところ、旋回した同ドラグショベルのカウンターウェイト部分が被災者にあたり深さ約2.2mの床掘箇所に墜落被災したもの。搬送先の病院において加療中であったが死亡したもの。	30107	6	1～9
2011	5	8 ～ 9	ドラグショベルでキュービクルをつり上げて移動させる作業中、被災者がキュービクルの天板の上でドラグショベルのフックに当該キュービクルを玉掛けした後、当該キュービクルの天板の上から降りようとした際、当該キュービクルが回転し、その反動で体勢を崩して、当該キュービクルの天板の上から約2.2m下のコンクリート土台上に墜落した。	30209	1	1～9
2011	1	17 ～ 18	当該工事は雨水管及び污水管を約15メートル敷設する工事で、管敷設、埋め戻し後の路盤工事において、路盤材（碎石）をドラグ・ショベルで敷き均していたところ、ドラグ・ショベル後方にいた被災者と後進してきたドラグ・ショベルが接触して被災した。病院搬送後、1月29日に死亡。	30110	6	10～ 29
2011	7	13 ～ 14	豪雨災害関連復旧工事において、崩れた土砂をドラグ・ショベルにて掘削しながら整形作業を行っていた。災害発生時、上部から掘削した土砂が下部へ溜まっており、その溜まった箇所においてドラグ・ショベルで周りを掘削していたところ、その溜まった箇所の一部が崩れ、ドラグ・ショベルがバランスを崩し、咄嗟に運転席から飛び降りた運転手のところにドラグ・ショベルが転倒し、挟まれ死亡した。	30199	2	1～9
		11	被災者は、車両系建設機械を使用して、前日の掘削残土が仮置きされている土止め鉄板部の土砂を掻き出し、残土搬出場所である斜面下方			



2011	4	～	へ落とす作業に従事していたが、当該作業箇所から前方にある斜面から当該機械と共に転落しているところを、別の作業員が目撃したものの。	30106	1	10～ 29
2011	9	～	ずい道建設工事現場の坑内において、被災者を含む5名が坑口から約2、700メートルの切羽付近で掘削作業を行っていた。発破作業が 13 終わり、ドラグ・ショベルとトラクターショベルを切羽近くに配置し 14 て、各機械の運転者以外の被災者を含めた3名は後方で待機し、各機 械によるずり出し作業が行われていたところ、被災者がドラグ・ショ ベルの切羽に向って左側を行き来し、ドラグ・ショベルの左後ろ側の 履帯部分に轢かれたもの。	30102	7	30～ 49
2011	2	～	被災者が生コンが入った「バツカン」と呼ばれる運搬用容器をドラ グ・ショベルにより吊り上げ、コンクリート打設箇所に運搬するため 11 ドラグ・ショベルを右旋回させたところ、ドラグ・ショベルが河川側 12 に倒れ、運転していた被災者とともに、3.9m下の河川に転落し、 ドラグ・ショベルの下敷きになったもの。	30199	1	1～9
2011	2	～	建設会社が請け負う店舗新築工事現場において、下請事業場の被災者 14 は、同僚作業員と共に、機体重量2.8トンのドラグ・ショベルを運 転する現場代理人の指示を受けて、地盤の埋め立て作業を行っていた 15 ところ、バック走行中の当該ドラグ・ショベルにひかれて死亡したも のである。	30199	7	30～ 49
2011	9	～	15 ドラグショベルのバケットにあるフックにワイヤーロープを掛け、鉄 板(約3m×約1.5m板厚約2cm)を吊ろうとしていたところ、 16 バケットが右旋回したため、ワイヤーロープを掛けていた鉄板が倒 れ、被災者がはさまれたもの。	150102	6	1～9
2011	8	～	11 クラムシェルのバケットを交換するため、移動式クレーンを使用して バケットの開閉部材①を吊り、さらに開閉部材①と開閉部材②をL形 アングルで溶接止めや、チェーンブロック等で繋ぎ止めていたが、被	11702	5	1～9

		12	<p>災者が開閉部材②に上って当該アングルをガス溶断したところ、開閉部材②が開閉部材①から離脱し落下したものの。被災者は落下して横倒しになった開閉部材②の下敷きになった。</p>			
2011	7	10 ～ 11	<p>国道において、ドラグショベル2台によりアスファルトの打換工事を行っている傍で、片側交互通行面と工事区画の境に立って交通誘導を行っていた警備員が、後進してきたドラグショベルのクローラに轢かれて死亡したものの。</p>	170201	7	10～ 29
2011	12	11 ～ 12	<p>被災者は作業員3名と河川内の用水路の取水口に堆積した土砂をパワー・ショベルを使用して除去する作業を行い、パワー・ショベルのバケットの届かない場所などの土砂はバケットを下ろし、作業員がスコップで土砂をすくい当該バケットに土砂を入れていた。バケット一杯に土砂を入れ終わったため、パワー・ショベルの運転者が搬出しようとして左に旋回させたところ、旋回内に立ち入った被災者にバケットが激突したものの。</p>	30107	6	10～ 29
2011	4	15 ～ 16	<p>被災者は同僚1名と共に一般道から田んぼへ農耕機械を入れるための農道（道幅約2m）に碎石を敷く作業を行っていた。農道へドラグショベル（機体幅約2m）を入れて作業を行っていたが作業場所を変えるため移動しようとしてドラグショベルを後退させたところ、路肩からドラグショベルごと約5m下の田んぼに転落し、当該ドラグショベルの下敷きとなったものの。</p>	30106	1	1～9
2011	7	9 ～ 10	<p>小高い山の上に設置されたテレビアンテナの撤去工事において、アンテナ基礎の解体に使用したドラグ・ショベル（車体幅約85センチメートル）を下山させるために幅約90センチメートルの林道を走行中に、被災者ごと路肩から転落し、運転席から投げ出された被災者が当該ドラグ・ショベルの下敷きになったものの。</p>	30301	1	10～ 29
2011	11	14 ～ 15	<p>車両積載トラックからドラグショベルを運転し降ろそうとしていたところ、ドラグショベルと共に横転し、当該ドラグショベルの下敷きとなった。</p>	80409	1	1～9

2011	10	8 ～ 9	トラックで運搬してきた車輻系建設機械（バックホウ）を、荷台から降ろす作業中に発生した災害。被災者が自ら車輻系建設機械を運転し、トラックの荷台から道板を使用して地面に降ろそうとしたところ、道板が荷台から外れ、その拍子に被災者が車輻系建設機械とともに地面に投げ出され、直後に転倒した車輻系建設機械に巻き込まれ死亡したものの。	30110	1	1～9
2011	7	10 ～ 11	工事で使用しているバックホー（機体重量11.5トン）の後方で作業を行っていた被災者に気付かずにバックホーをバックさせたため、被災者がバックホーに腰から下を轢かれた。	30107	7	1～9
2011	10	9 ～ 10	港の防波堤拡張工事現場の資材仮置場にて、大型トラック荷台から砂利の入った重さ約1トンの屯袋を、バックホウを用いて吊り卸作業を行っていた。大型トラック荷台で作業を行っていた被災者が、大型トラック荷台に載っている屯袋とバックホウで吊り上げた屯袋に挟まれ腰及び腹部を圧迫し負傷したものの。被災後は入院していたものの、様態が悪くなり、災害発生から54日後に死亡したものの。	30309	6	10～ 29
2011	4	14 ～ 15	配水小管移設工事現場において、重機置場から工事帯に油圧ショベルを移動させる際、誘導のために油圧ショベルのあとを追ったところ、油圧ショベルがバックしたために被災者を轢いてしまったものの。	170201	7	30～ 49
2011	10	11 ～ 12	個人住宅の地盤改良工事現場で、被災者が一人でドラグショベルを使用して残土をダンプトラックの荷台に積み込む作業を行っていたところ、ダンプトラックの後部とドラグショベルの車体に胸部を挟まれ死亡したものの。発見時、ドラグショベルのエンジンは起動したままで、クローラー部分が駆動していた。	30199	7	50～ 99
2011	9	8 ～ 9	道路舗装補修工事において、一次下請の作業員がドラグショベルでマンホール周辺のアスファルトをはぎ取るため後進したところ、後方にいた交通誘導員をひいてしまった。	170201	7	10～ 29
		13	被災者は、歩道側の縁石に「墨出し」をした後、墨の付き具合を見るため屈んでいたところ、路盤を掘削していたバケット容量0.1立方			

2011	8	～ 14	メートルのドラグショベルが後退してきて、轢かれて、7時間30分後に病院で死亡した。	30106	7	1～9
2011	1	～ 11	バックホウ位置よりも低く死角となる箇所の函渠の埋戻し作業において、埋戻しの土量及び他の作業員がいないことを確認した後、バックホウで埋戻しの土砂を3m以上の高さから投入する作業を開始したところ、被災者がなんらかの作業で立入り、埋め戻しの土砂に埋まり死亡した。	30106	4	50～ 99
2011	5	10 ～ 11	給水タンクの新設現場で基礎部分の型枠にパワーショベルでコンクリートを打設中、掘削部分の法肩が崩れパワーショベルが傾き、型枠の外側にコンクリートが飛散するのを防止するためコンパネを持っていた労働者がバケットの下敷きとなった。	30199	6	30～ 49
2011	2	18 ～ 19	橋梁の撤去工事に伴う工事用道路の造成作業に従事していた被災者は、当日の道路造成が終了後、ドラグショベルを運転操作し河川の中州の工事用道路終点側の除雪等を行っていたが、後進したところ覆帯が雪底に乗ったためドラグショベルが転倒、水中に運転席が埋没したため関係者が発見されるまでの間に低体温症となり、病院へ搬送された後に死亡が確認されたもの。	30105	2	10～ 29
2011	9	8 ～ 9	砂利採取場において、被災者はドラグショベル（機体重量15.38t）を運転して埋め戻しおよび転圧作業を行っていた。砂利を降ろしにきたダンプ運転手の同僚が、転圧作業をしていたドラグショベルが2m下の雨水が貯まってできた池（水深1m）に横転しているのを発見した。ドラグショベルは運転席まで水に浸かっていたが、死因は圧死によるものだった。	20202	1	10～ 29
2010	12	～ 16	民家の石垣築造工事において、敷地出入り口の通路で、被災者は路面の泥を片付けていたところ、敷地内から前面道路に向かって進行してきたドラグ・ショベルと、通路脇石垣の間にはさまれた。ドラグ・ショベルは旋回体が走行体の進行方向に対し僅かに左回転しており、	30199	7	1～9

			旋回体の右後部はクローラー一部全幅より突出していた。			
2010	12	11 ～ 12	市発注の汚水管渠築造工事において、被災者は既設雨水管下部付近の土砂を車両系建設機械のバケットに積み込み作業中、当該車両系建設機械に乗り込もうとした労働者が、運転操作方式の切り替えを行うため「マルチレバー」を操作したところ、車両系建設機械のアームが動き、バケットと既設雨水管との間に挟まれたもの。	30110	7	1～9
2010	12	8 ～ 9	学校校舎解体工事において、被災者が機体重量15tのドラグショベルを運転して高さ約3m、角度20度のコンクリートガラの斜面を登っていたところ、ドラグショベルのアームを上げて折り曲げた状態であったため、斜面を登るにつれ重心が後方へ移動し、当該ドラグショベルが後方へ転倒した。この際、背中への損傷し、脳内疾病を併発して3日後に死亡した。被災者は車両系建設機械について3t未満の特別教育を受講していたが、技能講習は修了していなかった。	30201	2	10～ 29
2010	11	17 ～ 18	宅地造成現場へリースしたドラグショベルを引き取りに行き、運搬用トラックに積み込むためドラグショベルのバケットを地面に突いてアームで押しながら後進させて登っていたところ、横転し、キャビンに挟まれ、翌日に死亡したものの。	80409	2	1～9
2010	11	11 ～ 12	ガス管布設工事において、路面掘削のためドラグ・ショベル（機体重量3.24t、標準バケット容量0.1立方m）の運転席に着いて待機をしていた被災者が、ドラグ・ショベルの窓枠（ガラスが破損していた）とブームとの間に頭部を挟まれたもの。	30110	7	10～ 29
2010	11	15 ～ 16	ドラグ・ショベルをダンプカーに積載する作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの荷重がダンプカーの荷台に掛かった際、ダンプカーが移動し、ドラグ・ショベルが荷台から転落したものの。ドラグ・ショベルを運転していた労働者が被災し、病院搬送後に死亡したものの。	30199	1	10～ 29
		15	スーパー駐車場跡地のコンクリート壁撤去作業において、斜めに立っていた電柱を真っ直ぐに立て直すため、ドラグ・ショベルのバケット			

2010	10	～	に電柱を引っ掛け、1 mバックしたところ、電柱が折れドラグ・ショベル側に倒れてきたので、被災者は慌てて運転席から飛び降りたが、電柱の下敷きになり死亡したものの。	30109	6	1～9
2010	10	9 ～ 10	上水道の敷設工事において、土工1名と配管工1名が掘削溝（長さ3.3 m、幅0.7 m、深さ0.9 m）に入り、土工が水道管の周囲を手掘り掘削して土砂をドラグ・ショベルのバケットに入れる作業、配管工が水道管のビニール剥がし等の作業を行っていたところ、不意にドラグ・ショベルの上部旋回体が旋回し、バケットが土工に激突したため、同日死亡したものの。ドラグ・ショベルの操作レバーに、オペレーターの腕に当たったか、ポケットに引っかかるなどして、不意に旋回したとみられる。	30110	6	1～9
2010	9	8 ～ 9	道路舗装工事現場で、砂をいれたフレコンバックをドラグショベル（機体重量2.45 t）で吊り上げ運搬中、高さ2.6 m下の海岸にドラグショベルが転落し、ドラグショベルを運転していた被災者がドラグショベルの下敷きとなり、死亡したものである。	30106	1	1～9
2010	9	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを用いて支障木（長さ14 m）をトラックの荷台上に積み込む作業中、先に積込んだ木の上（長さ約3 m）において人力で積み位置を調整していたところ、玉掛けしていたワイヤーが外れ、吊っていた木に押された被災者が路面に転落した後、さらに崖下まで約7 m転落した。積み込み中の支障木も転落したが、被災者と接触したかどうかは不明。	30108	1	10～ 29
2010	9	16 ～ 17	当該事業場の敷地内において、リース用のドラグショベル（移動式クレーン仕様のもの）を整理のため運転中に当該ドラグショベルの運転室と隣接駐機中の掘削用機械（リース用）の運転室との間に首を挟まれた。運転席から身を乗り出した時に、体の一部が旋回レバーに触れ、ドラグショベルが旋回したとみられる。	80409	7	1～9
		13	被災者は、木造2階建ての解体工事現場でドラグショベルを運転し、解体作業を行っていた。当該ドラグショベルの運転席右側（ブーム			

2010	6	～	側) の窓ガラスが破損しており、被災者が運転席右側面の窓枠から	30209	7	1～9
		14	ブーム側に身を乗り出したところ、降下してきたブームと運転席に胸部を挟まれ死亡した。			
2010	6	～	被災者はSRC7階建の建物の解体工事現場の5階床部分において、	30209	1	1～9
		11	床上に集積したコンクリート廃材をドラグショベルにより階段口に投			
		12	下する作業を行っていたが、アームを右旋回させた際に履帯右下の廃材が滑動してバランスを崩し、同階段口からドラグショベルとともに約16m下の1階まで転落し死亡した。階段口には鉄骨階段が設置されていたが、ドラグショベルとともに転落した際、階段ごと抜け落ちたもの。			
2010	5	～	被災者が1人で、ドラグ・ショベルを使用して、作業道(幅員約4.5m)の開設のため、掘削及び立木の取り除き作業をしていたところ、路肩が崩れ、ドラグ・ショベルとともに約30m下の既設林道まで転落し、立木の中に身体を挟まれた状態で発見されたもの。	30106	1	1～9
		14				
		15				
2010	4	～	ドラグ・ショベルの修理作業を行っていた被災者から約31m離れた箇所	20201	1	10～
		9	で碎石の選別作業を行っていた同僚が、同ドラグ・ショベルの運転席後ろのカウンターウェイトの端から墜落する被災者を目撃した。			29
		10	すぐに被災者は病院に搬送されたが1週間後に死亡が確認された。カウンターウェイト上面から墜落箇所までの高さは2.3mであり、災害発生時、被災者はヘルメットを着用していなかった。			
2010	4	～	被災者(派遣労働者)が護岸の埋め戻しを行うため、ドラグショベルを使用して土砂の積込み作業を行っていたところ、運転を誤りドラグ	30107	1	1～9
		11	ショベルごと川に転落し、ドラグショベルに挟まれ、死亡したもの。			
		12	被災者は技能講習を修了していなかった。			
2010	4	～	河川改修工事後、ドラグ・ショベルを使用して鋼矢板の片づけを行うにあたり、元請のオペレーターがドラグ・ショベルを旋回させたところ、ドラグ・ショベルの横を移動していた下請の従業員であった被災者が、旋回したドラグ・ショベルの後部に激突され、わきに置	30107	6	1～9
		8				

		9	いてあった高密度ポリエチレン管との間にはさまれた状態で死亡したものの。			
2010	3	13 ～ 14	道路建設に伴い発生した路盤廃材を再生材として再加工する工場内において、ドラグ・ショベルを用いて路盤廃材を破砕機に投入する作業を行っていた際に、運転中のドラグ・ショベルの右後方に何らかの理由で立ち入った被災者が、被災者に気付かずに作業を行っていたオペレーターの旋回操作等により接触し受傷したものの。運転交代にかかる作業手順書が確立されておらず、周囲の安全確認が不完全であった。	10909	6	1～9
2010	3	9 ～ 10	油圧ショベルのショベルにワイヤーロープを掛け重さ600kgの手押しローラーをトラック荷台より降ろそうとしたところ（用途外）、油圧ショベルが転倒し、被災者が油圧ショベルの屋根部分の下敷きになったものの。	30109	2	1～9
2010	3	9 ～ 10	工事現場の交通誘導員として交通誘導作業中、工事現場内でダンプトラックが後進しようとしていたため、ダンプトラックの後方に移動し誘導していたところ、被災者の後方で作業を行っていたドラグショベルが後方をよく確認せずに後進してきたため激突され、右足を轢かれたものの。入院加療していたが約1カ月後に死亡した。	170201	6	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	公園造成に伴うフェンス整備工事において、掘削で出たガラを取り除くために被災者がドラグショベルを運転して掘削端部側を移動中、掘削端部の地山が崩れドラグショベルが掘削部に転倒し、被災者が運転席から約1.7m下の掘削底に墜落し死亡した。	30199	1	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	上水道工事現場において、県道の交通誘導を行っていた被災者が、同現場の除雪作業中に後退してきたホイール式ドラグショベルに運転手の後方不確認により轢かれたもの。	170201	7	1～9
2010	2	15 ～ 16	全長400mの道路舗装補修工事において、路盤下地材の再処理作業に従事していた2次下請けの重機オペレーターがドラグショベルを後退させたところ、後方にいた警備員を轢いてしまったもの。	170201	7	10～ 29



2010	2	10 ～ 11	土木工事現場の資材置き場に積み上げたH鋼材（8.25m、1.2t）をクレーン機能付き掘削用機械で吊り上げて、当該鋼材に付着した土砂をスコップで取り除く作業を行っていた。クレーン仕様に切り替えてなく、移動した際にH鋼材が振れて被災者に激突し、後方に仮置きしてあった鋼材との間に挟まれて死亡したものの。	30110	6	1～9
2010	2	13 ～ 14	バックホーを移送し、移送先の現場でユニック車の荷台から被災者が運転してバックホーを降ろす際、ユニックのアウトリガーを上げてユニック車全体を傾け、下り坂道路の地面にバケットをついて機体を動かそうとしていた時に、バックホーのバランスが崩れて荷台から滑り落ち、さらに道路の法面を転落して運転席から放り出され、機体に激突され死亡した。	30106	1	1～9
2010	1	17 ～ 18	事業所（自宅兼用）の敷地内において、被災会社の代表者と被災労働者の2名にて、ドラグショベル（機体重量1.2t）を用いて鉄板（92cm×183cm、厚さ1cm）の吊り込み作業（用途外使用）をしていたところ、代表者が運転するドラグショベルの作業半径内に被災者が入った際、バケット爪の先端とアーム部分に被災者の頭部がはさまれた。12日後に死亡した。	30202	7	1～9
2010	1	13 ～ 14	河川改修工事において、河岸の小径木を根ごとドラグショベルのバケットですくい上げるため、作業し易い位置にドラグショベルを移動させていたところ、ドラグショベルの近くに立ち入った被災者が現場に積んであったコンクリートブロックとドラグショベルとの間に挟まれたものである。	30199	7	10～ 29
2010	1	8 ～ 9	下水道工事の資材置き場で被災者は1人作業でドラグショベルを操作して、アスファルト片の移動作業中、ドラグショベルの左側クローラの傍らで左足を切断し右足を負傷した状態で発見された。ドラグショベルが逸走したとみられる。	30110	7	1～9
			被災者ら派遣労働者3人は作業場（平屋）でドラム缶から汚泥を取り出し石灰と攪拌する作業に従事。被災者はドラム缶8個のふたと中の			

2010	1	9 ～ 10	ビニル袋の開封し終えた時に、同僚がフォークリフトで開封済ドラム缶1個を回転式クランプで挟み運搬してきたので後ろに下ったところ、汚泥と石灰の攪拌作業を行うドラグショベルが被災者に気付かずに1. 1m後退したため、被災者は右側クローラに両足を腰付近まで轆かれたもの。	150102	7	100 ～ 299
2010	1	15 ～ 16	電柱1本（長さ約12m、重さ約850kg）をクレーン機能付きドラグショベルにてバケット背面のフック（外れ止め装置あり）へワイヤロープ1本による1本吊りをして設置位置に建柱作業していた。位置調整時、吊り荷が想定外の方向へ傾き、アイが外れ止め装置とフックとの間隙をすり抜け、吊りワイヤロープがよじれたため、アイがフックから外れた結果、電柱が倒れ、付近にいた電気工が下敷きになったもの。	30201	5	1～9
2009	6	15 ～ 16	草刈り作業中に法面を滑落し、法面下で整地作業をしていたドラグ・ショベルにひかれて死亡した。法面箇所は事業場が意図した草刈り範囲でなく、災害発生直前まで被災者に立ち入らないよう警告していた。	30199	6	1～9
2009	1	14 ～ 15	採石場内において、ドラグ・ショベルを運転して移動中、ドラグ・ショベルごと路肩から斜面を約35m転落した。	20202	1	10～ 29
2009	8	11 ～ 12	杭打工事（全周回転オールケーシング杭口径φ2300）を行っていたところ、クラムシエルのハンマーグラブ（φ2000、重量5t）上部の掘削バケット開閉連結治具（セントラルチェーン）のリンクがねじれ、巻き上げ困難となったため、ハンマーグラブを地面に降下させ、被災者を含め2人で修復作業を行っていたところ、不安定であったハンマーグラブが回転しながら横倒しとなり、付近で作業をしていた被災者が下敷きとなった。	30201	6	10～ 29
		8	会社の駐車場で、2tトラックの荷台に機体重量1.35tの小型ドラグ・ショベルを積み込むため、トラックの荷台の後部に鉄製の歩み板（長			

2009	6	～	9	さ3m) 2枚を掛け渡し、歩み板の上にドラグ・ショベルを前進させていたところ、ドラグ・ショベルが左に傾き、被災者とともに転落、その下敷きとなった。	30309	1	10～ 29	
2009	2	14	～	15	橋台の築造工事において、でき上がった橋台の横で、ドラグ・ショベルのバケットに入れた生コンをシャベルですくって石積みの裏込めコンクリートを打設していたところ、ドラグ・ショベルのバケットと橋台の間にはさまれた。	30106	7	1～9
2009	7	11	～	12	作業道を開設するため、掘削した土砂を下方の作業道へ落としたあと、ドラグ・ショベルを用いてダンプトラックへ積み込んで残土の運搬を行っていたが、作業道が崩壊したため、ドラグ・ショベルごと約50m下の川へ転落した。	20201	1	1～9
2009	9	6	～	7	事業者資材置き場で、当日の工事に使用する住宅基礎用の加工済み鉄筋（長さ5m程度のもの8本、総重量259kg）をトラックに積み込むため、斜面の上端に止めたドラグ・ショベル（機体重量2.9t、平積みバケット容量0.1立方m）でつり上げ、斜面方向へ旋回したところ、クローラが浮いて傾き、そのまま斜面を転落した。被災者（運転者）は脱出を図ったが、機体の下敷きとなった。	30202	1	1～9
2009	2	16	～	17	汚泥配管（φ100×6m）をドラグ・ショベルでつり上げて、土砂ピットに立てかけて清掃していた際、被災者がバケットの下に入って、ドラグ・ショベルの運転手にバケットを下げるように合図を送ったところ、被災者がバケットと土砂ピットの間にはさまれた。	30102	7	30～ 49
2009	2	10	～	11	機体重量3t未満のドラグ・ショベルを用いて椎茸原木搬出用の林道を新設中、路肩を路外して転落した。この時、被災者は運転席から投げ出され、死亡した。	60201	1	1～9
2009	12	13	～		自社の資材置き場において、被災者とドラグ・ショベル運転者2人で、バイパスの構造物工事で使用する鉄板（重さ約1.6t）4枚を、ドラグ・ショベルにてつり上げてトラック荷台へ積む作業を行っていた。1枚目	30106	5	30～

		14	の鉄板をトラック荷台に置いたところ、鉄板が荷台からはみ出したため、再度ドラグ・ショベルにてつり上げて荷台に置いたところ、鉄板に掛けてあった玉掛け用フックが外れて、被災者に激突した。			49
2009	10	14 ～ 15	砂防堰堤建設工事現場において使用されていた敷鉄板を回収し、リース会社まで運搬するため、現場の作業者がドラグ・ショベルを用いてトラックに積み込む作業を行っていた。敷鉄板を積み重ねるような状態でトラック荷台に載せようとした時、つり上げていた敷鉄板がずれたため、慌ててドラグ・ショベルを操作してつり上げようとしたところ、荷台上で荷外しなどの補助を行っていた被災者に激突した。	40301	6	30～ 49
2009	10	9 ～ 10	傷んだ県道の舗装を補修する作業中に、被災者が工事箇所の終点を確認するため、その終点箇所に行った際、元請作業者が運転するドラグ・ショベルが後進し、被災者はドラグ・ショベルにひかれた。	30106	7	10～ 29
2009	3	16 ～ 17	融雪装置の既設制御盤の基礎（コンクリート製、約950kg）の撤去作業中、ドラグ・ショベルのバケットに基礎を乗せ旋回したところ、当該ドラグ・ショベルのクローラがピット開口部に乗っていたため、ドラグ・ショベルが傾き、運転手がとっさにアームを伸ばしたところ、ピット内でバケットが通過するのを待つため屈んでいた被災者が、バケットとピット側壁にはさまれた。	30199	7	10～ 29
2009	2	14 ～ 15	用水路布設工事現場において、掘削用機械（ドラグ・ショベル、機体重量1.5t）を移送させるため、被災者がダンプ（最大積載量3.7t）の荷台に道板（幅50cm、長さ2m）を2本掛け（角度29度）、掘削用機械をダンプの荷台に載せようとした時、片方の道板が外れ、掘削用機械とともに地面に転落し被災者が掘削用機械の下敷きになった。	30199	1	10～ 29
2009	4	10 ～ 11	山林内の整地のために2tトラックから碎石を降ろし、掘削用の車両系建設機械の排土板を使って敷き詰める作業を行っていた被災者が、転倒した当該車両系建設機械のアーム部分にはさまれた。	30199	2	1～9
2009	3	9	3棟の戸建住宅宅地造成工事現場において、集水桝の床掘作業を行っていたドラグ・ショベルのバケットが、現場状況の確認のため、溝（深	30109	6	1～9

		10	さ約1.3m) の付近で写真撮影を行おうとしていた被災者に激突した。			
2009	3	10 ～ 11	木造家屋解体現場において、重機（クラッシャー付き）付近で解体中の建物の散水作業を行っていた被災者が作業中突然倒れ、直ちに病院に搬入されたが、被災当日に死亡した。	30202	7	1～9
2009	3	9 ～ 10	河川の暗渠工事現場において設置されたボックスカルバート両脇の改良土による埋め戻し工（事故発生時の幅約2m、深さ約170cm）に際し、投入された改良土の均し作業を行うため機体重量980kgのミニドラグ・ショベルを運転中、ショベルで均したものを機体後部の排土板により再度均そうと後進した際、川床地面より140cmの高さにある土止め支保工を支えるH鋼の切梁に激突、運転席レバー部と切梁間（約34cm）にはさまれた。	30107	3	30～ 49
2009	2	16 ～ 17	被災者は、宅地造成工事で、配水管等の敷設作業に従事していたが、資材の片付けを行っていた際に、排土板で埋め戻し作業を行っていたドラグ・ショベル（機体重量5.9t）に接触した。	30201	7	50～ 99
2009	10	10 ～ 11	被災者は水路の仮設パイプ（長さ4m×直径30cm）をドラグ・ショベルを使い撤去作業中、トラックに撤去したパイプを積み込み終わり、同僚がトラックを運転してパイプを移動してドラグ・ショベルに戻ってきたところ、被災者は地面から2.7m下がった水路に横向きに倒れていた。	30107	1	10～ 29
2009	10	7 ～ 8	被災者は、林道新設工事において、ドラグ・ショベルを運転して、法面の掘削作業を行っていたところ、作業道から約30m下の斜面にドラグ・ショベルごと転落し、運転席から投げ出された。	30199	1	1～9
2009	2	16 ～ 17	道路改良工事現場において、ドラグ・ショベルを台車に載せて移動する作業中、道板を使用せずにバケットを支えにしてドラグ・ショベルの機体を浮かせて台車に載せようとしたところ、ドラグ・ショベルが台車荷台より転落、そのまま法面を下り、法面下で作業をしていた作業員が下敷きとなった。	30106	6	1～9
		7	採石場の運搬通路の路面補修作業をドラグ・ショベル2台を用い、作業			

2009	12	8	者2人で行っていったところ、被災者がショベルから降りて、もう1台のショベルに近寄り、ひかれた。	10909	7	10～ 29
2009	3	13	採石場の頂上付近で、ドラグ・ショベルを使用して除雪作業を行っていたところ、路肩から約140m下にドラグ・ショベルとともに転落した。	20201	1	1～9
2009	1	8	被災者は作業員3人と埋め戻し作業に従事しており、作業員2人がドラグ・ショベルの前方に位置し、被災者1人だけがドラグ・ショベルの後方の位置で鍬を使い路肩の成形を行っていた。ダンプトラックが土砂を運搬してきたため、ドラグ・ショベルを約70cmほど後進させたところ、被災者はクローラにひかれた。	30107	7	10～ 29
2008	9	9	外構工事において、コンクリート製の暗渠（長さ2m、高さ0.43m、幅0.41m、重量0.5t）の据付けのため、ドラグ・ショベルのバケットに取り付けたフックにワイヤロープを掛けてつり上げ作業をしていた。その際、ドラグ・ショベルの運転者が暗渠をつったまま暗渠接続作業を確認するために運転席から降りようとしてズボンの一部を旋回レバーに接触させ、旋回した暗渠が接続作業をしていた被災者に激突した。	30201	6	1～9
2008	12	11	作業装置が上げられた状態で停止しているドラグ・ショベルに運転者が乗り、アーム、ブームを上げて右旋回の操作をした。その際、当該ドラグ・ショベルの操作方式が切り替えられていたため、アーム、ブーム、バケットが掘削の方向に動作して当該ドラグ・ショベルの機体とバケットとの間を移動中であつた被災者が、地面と当該ドラグ・ショベルのバケットとの間にはさまれた。	30109	7	30～ 49
2008	3	9	林道の建設現場で後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30106	7	30～ 49
		10	山止用H鋼建込み作業において、土砂を埋め戻すためにクレーン機能付きドラグ・ショベルで土砂を入れたホッパー（総重量約2.3t）をつり、			10～

2008	9	～	架設構台上で左旋回した。その際、バランスを崩して架設構台から	30105	1	29
	11		4.1m下に転落した。ドラグ・ショベル運転士は、運転席から車外に投げ出されてドラグ・ショベルの下敷きになり死亡した。			
2008	2	13 ～ 14	被災者は、工事現場内でドラグ・ショベルの周囲で作業を監視していた。被災者がドラグ・ショベルのアームの真下付近に入り掘削位置を指示していたところ、ドラグ・ショベルの運転者がその位置確認のために運転席で立ち上がり、着席した際にアームの操作レバーに運転者のジャンパーが引っかかり、バケットがドラグ・ショベル側に動いたためバケット先端が被災者に激突した。	30107	6	50～ 99
2008	10	13 ～ 14	事務所の新築工事現場において、地盤改良用セメントミルク製造装置のミキサー上のセメント投入口にドラグ・ショベルでトン袋（セメントが1t入った袋）をつり上げてセメントを投入しようとしていた。その際、トン袋の上部が破れてミキサーの操作盤の所にいた被災者の上に落下して下敷きになった。	30201	4	30～ 49
2008	5	16 ～ 17	被災者は、治山工事現場において、機体重量2.9tのドラグ・ショベルを用いて浮石等の除去作業を行っていたところ、路肩から同ドラグ・ショベルと共に約5m下の斜面に転落して死亡した。	30199	1	1～9
2008	8	9 ～ 10	下水道埋設工事において、交通誘導員として工事現場の道路上で交通整理のために自動車を誘導していた。そこで建設会社の作業者が運転する車両系建設機械が後進したところ、被災者をひいて後方に転倒して死亡した。	170201	6	1～9
2008	9	14 ～ 15	污水管の埋設工事現場で立坑掘削作業中、油圧クラムシェルの下部走行体と民家の壁との間に被災者が倒れているのを発見した。工事車両で病院に搬送した後、死亡した。被災者発見直前、現場ではクラムシェルで立坑内の土砂を掘削して4tダンプへの積み込み作業中であり、被災者は施工記録用の現場写真撮影等を実施していた。	30110	7	1～9
2008	5	12 ～	露天風呂の建設のため、海岸から岩石をドラグ・ショベル（機体重量2.48t）で運搬中、ドラグ・ショベルが転倒してヘッドガードと地面の	140101	2	30～

		13	間にはさまれた。			49
2008	11	10 ~ 11	<p>予め掘削したされた穴に、コンクリート製の集水枘（外形寸法1m×1m×2.1m、内径寸法0.6m×0.6m×2.1m、重量約3t）をドラグ・ショベル（バケット容量0.7立方メートル）でつり上げて埋設する作業を行っていた。一旦、枘を着地させたが、若干、着地地点がズレたため、改めて芯出しを行なおうと誘導員の指示で、枘をつり上げた際に、バランスが崩れて、誘導員が集水枘とに激突され、枘と地山の間にはさまれて死亡した。</p>	30106	6	1~9
2008	12	11 ~ 12	<p>住宅新築工事に伴う給水管取出工事現場において、アスファルトの本復旧の作業終了後、使用していたドラグ・ショベルを坂道を利用してトラックに積み込む作業をしている際、左側の道板がトラックの荷台から脱落して同ドラグ・ショベルが横転し、側にいた作業員が下敷きとなり死亡した。</p>	30110	6	10~ 29
2008	3	15 ~ 16	<p>水道管理設工事現場において、作業終了後、クローラ等に付着した土砂を取り払おうとしてドラグ・ショベル（機体重量5660kg）を後進させたところ、ドラグ・ショベルの右後方にいた交通誘導員が巻き込まれて死亡した。</p>	170201	7	50~ 99
2008	6	11 ~ 12	<p>ガス管設置のため掘削していた掘削面に被災者が立ち入って掘削面を確認していたところ、掘削作業用のドラグ・ショベルのバケットが被災者に激突した。</p>	30199	6	30~ 49
2008	7	7 ~ 8	<p>2.9t移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルを車両系建設機械の運転免許を所持した作業員がクレーンモードに切り替えずに2段積み人孔管をトラック荷台に荷積みした。その際、被災者が玉外し作業をしてアームを上げた際、つり具が上部人孔管に引っかかり、上部人孔管のみがずれて中にいた被災者がはさまれ死亡した。</p>	30110	7	1~9
		13	<p>被災者が、自社敷地内の整地工事のため機体重量2.88tのドラグ・ショベルのキャビンに乗りながら、給油のため給油キャップをはずそうと</p>			



2008	5	～	キャビンのフレームから身を乗り出したときに、被災者の身体の一部	30110	7	1～9
	14		が操作レバーに触れて上げたままになっていたアームが油圧により降			
			下してフレームとアームの間に身体をはさみ死亡した。			
2008	12	～	事業場敷地内において、2tトラックの荷台にドラグ・ショベル（機体	30202	1	1～9
	19		重量520kg）を自走させて荷を積み込む際に、ドラグ・ショベルのバラ			
	20		ンスが崩れて地面に転落し、ドラグ・ショベルの運転を行っていた被			
			災者が当該機械と地面にはさまれて死亡した。			
2008	7	～	被災者は、町道舗装復旧工事現場（片側通行）において、警備員とし	170201	7	30～
	10		て一般車両の交通誘導を行っていた。被災者がドラグ・ショベルの後			49
	11		方、センターラインに置かれていたカラーコーンの付近にいたとこ			
			ろ、作業のために後進してきたドラグ・ショベルのクローラの下敷き			
			になり死亡した。			
2008	2	～	被災者は、倒木の撤去の補助作業中にチェーンソーが置かれた場所か	30106	6	10～
	9		ら作業用資材が置かれた場所へ徒歩で移動していた。その際、ドラ			29
	10		グ・ショベルで回転させている倒木に激突された。			
2008	7	～	二級河川の護岸工事（ブロック積み）において、被災者がドラグ・	30107	1	1～9
	15		ショベル（通称ミニショベル（クレーン機能つき））を運転して、ブ			
	16		ロック（重さ1個42kg）をつるための専用用具を使いバケットの爪の先			
			端に約400kg（つり具の重量を含む）のブロック8個をつってアームを			
			川側に回転させたところ、ドラグ・ショベルがバランスを崩して川底			
			幅6m深さ3.4m下の川に転落した。その際、運転室より飛び降りたため			
			身体を石等で強打した。			
2008	11	～	被災者は一人でトレーラーからドラグ・ショベルを地上に降ろす作業	40301	1	1～9
	11		を行っていた。しばらくして、大きな音がしたため土地の所有者らが			
	12		駆けつけたところ、ドラグ・ショベルが荷台後方の地上で横転してお			
			り、被災者がドラグ・ショベルのマストの下敷きになった状態で発見			
			された。			
			埋め立てられた産業廃棄物の撤去に伴う掘削作業において、使用して			

2008	2	10 ～ 11	いた発電機（坑内にたまった水を汲み上げる水中ポンプの電源）をドラグ・ショベルを用いてつり上げ移動させていたところ、発電機にかけていたワイヤロープが切断したため、当該発電機が落下して近くにいた被災者に激突して死亡した。	30199	4	30～ 49
2008	11	11 ～ 12	谷止工のコンクリート打設中、被災者がドラグ・ショベルでコンクリートバケットをつり上げて旋回したところ、車体が傾き、法長11.6mの斜面を転落して運転席から投げ出されて死亡した。被災者がつり上げていたコンクリートバケットは、バケット容量0.5m3のものであった。被災者は当該コンクリートバケットを玉掛用ワイヤロープを使用して、ドラグ・ショベルのバケットのフックに付けてつり上げを行っていた。	30108	1	10～ 29
2008	1	15 ～ 16	トンネル内において、ずり出し作業中に切羽周辺部に立ち入った被災者が、ずり出しに使用していたドラグ・ショベルの後進中にひかれた。	30102	7	50～ 99
2008	3	15 ～ 16	圧送管築造工事現場において、掘削した土砂をポンプ場内広場に仮置きしてドラグ・ショベルにて盛土の上で作業中（高さ約2.5m）に旋回したところ、ドラグ・ショベルが転倒して運転者が下敷きになり死亡した。	30110	1	1～9
2008	6	8 ～ 9	ドラグ・ショベルで掘削作業中、旋回範囲に被災者がいることに運転者が気が付かなくて、ドラグ・ショベルを旋回させたため、バケットと接触して被災した。	30110	6	1～9
2008	12	16 ～ 17	林道工事現場で作業終了後、パワー・ショベルの並べ替え作業をしていた被災者（運転資格有）が、エンジンを止めずに横付けしたもう1台のパワー・ショベルに乗り移ろうとした際、旋回レバーに誤って触れてドア部ともう1台の車体の間にはさまれ死亡した。	30106	7	10～ 29
2008	1	11 ～	同僚と二人で川の左岸法面にコンクリートブロックを設置していた際、同僚がドラグ・ショベルを運転してコンクリートブロックを運搬するために右旋回しようとしたところ、操作を誤り左旋回してしま	30107	6	10～

		12	い、バケットが被災者に当たり、そのままバケットとコンクリートとの間にはさまれた。			29
2008	12	11 ~ 12	上水道工事の準備作業として残土捨て場で積載形トラッククレーン荷台に積んできたドラグ・ショベルを降ろす作業中に積載形トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして荷台を15度に傾斜させてドラグ・ショベルを進行させて荷台から降ろそうとしたところ、ドラグ・ショベルが荷台上で滑走して荷台から外れたはずみでドラグ・ショベルが転倒し、運転していた被災者が振り落とされ、倒れてきたドラグ・ショベルの下敷きとなった。	30309	2	1~9
2008	7	10 ~ 11	道路災害復旧工事現場において、作業の終了後、現場内の後片付けをするために、現場内に設置していたドラグ・ショベルを被災者がトレーラーで別の場所へ移動し、トレーラーの荷台からドラグ・ショベルを降ろそうとしたとき、荷台の脇からドラグ・ショベルが滑り落ちて道路脇の斜面（高さ約17m）を転落し、ドラグ・ショベルを運転していた被災者が死亡した。	30106	1	10~ 29
2008	9	8 ~ 9	ドラグ・ショベルの後部から右脇を通過して作業者に声を掛けようとしたところ、ドラグ・ショベルが左旋回したためカウンターウエイトと仮置きしていたH鋼との間にはさまれ死亡した。	30201	6	50~ 99
2008	8	13 ~ 14	空き地の整地作業が終了してドラグ・ショベルをトラックに積み込むとした際、トラックの荷台に架けた道板上からドラグ・ショベルが横転してドラグ・ショベルの下敷きとなり被災した。	30202	1	10~ 29
2008	10	13 ~ 14	私有林地内において、被災者がドラグ・ショベルを運転して林道を開削中、路肩から転落し、被災者がキャビンから投げ出されたため、転落したドラグ・ショベルの下敷きとなった。	60201	1	1~9
		16	被災者はコンクリート養生に使用するジェットヒーターの燃料タンク（防油堤、架台、タンクで一組）をクレーン機能付きドラグ・ショベルでつり上げ仮置場から所定の場所へ移動する作業に従事していた。			10~

2008	12	～	被災者と作業者が防油堤の対角2隅に玉掛けし、オペレーターが地切り	30105	7	29
	17		したところタンクと架台が転倒したためオペレーターがブームを下げた。その際、作業装置の下にいた被災者がバケットで押しつぶされ、バケットと防油堤の間にはさまれた。			
2007	7	～	ドラグ・ショベルで補強盛土用のシラスを敷きならしていた時にコンクリート擁壁（長さ104cm、幅30cm、高さ約4.5m、背面勾配3分、側面勾配4分）が根元から約2mの部分で折れて後方に倒	30106	7	1～9
	12		れ出したため、擁壁の倒壊を防ぐためにバケットを擁壁の裏側に持ってきて手前側に起こした。この時、被災者は擁壁の裏側でドラグ・ショベルでできない部分の敷きならし作業を行っていたため、擁壁とバケットにはさまれた。			
2007	5	～	水田の区画整理工事においてコンクリート製配水管の設置箇所に盛土	30109	7	10～29
	15		を埋め戻していたドラグ・ショベルが作業中に走行停止不能状態になり、被災者がひかれた。			
2007	3	～	平均勾配20度の作業道に盛土された土砂を、盛土の下方に設置したドラグ・ショベル（機体重量3.77t）により、土砂をドラグ・	30108	1	10～29
	15		ショベルの右側へ運搬する作業中、ドラグ・ショベルのアームを右旋			
	16		回したところ、履帯後部を支点にして後方へ転倒し、更に作業道の路肩から約1.7m斜面（平均勾配43度）を転落した。ドラグ・ショベルを運転していた被災者は、転落途中で運転席から投げ出され、アームと地面にはさまれ死亡した。			
2007	7	～	道路工事においてドラグ・ショベルで路床整形を行っている際に、後	30106	6	30～49
	9		進するドラグ・ショベルの進路上で手作業による路面整形を行っていた被災者が、ドラグ・ショベルにひかれた。			
2007	4	10	自動車道高架橋（下部工）工事現場において、被災者はドラグ・ショベルで擁壁設置予定箇所の仮盛土をダンプトラックに積み込む作業をしていた。何度かの積み込みを終えた後、ドラグ・ショベルが横転し、投げ出された被災者が当該ドラグ・ショベルの下敷きとなった。	30105	2	100～299
	11					

2007	7	14 ～ 15	送電線鉄塔工事現場で深礎掘削作業中、深さ約10.5mの深礎工中において、被災者が掘削した土をアーム伸縮式クラムシェルで排土しようとしたところ、深礎工中に入れたクラムシェルが底部に接地した際、アーム接続部とクラムシェルの接続部が折れ曲がり、被災者に激突し、当該接続部とライナープレートとの間にはさまれた。	30209	6	10～ 29
2007	2	7 ～ 8	事業場の資材置場において、土木工事現場で使用する締固め機をドラグ・ショベルを用いてつり上げ、トラックに積載する作業中、ドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出された被災者が、ドラグ・ショベルの下敷きになった。	30106	2	1～9
2007	8	8 ～ 9	土地区画整理事業整備工事において、交通整理中の警備員が後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	170201	7	1～9
2007	4	11 ～ 12	道路改良工事現場において、法面の地山を掘削するため、ドラグ・ショベルで道路から一段上（高さ約3m、角度40度～45度）に登っていた時、ドラグ・ショベルが後方に転落し投げ出された。	30106	1	1～9
2007	6	8 ～ 9	工場内の建物を新築する工事現場において、杭打ち重機の運転手が同重機アウトリガー近くにいた時、近接するドラグ・ショベルが旋回したため、同カウンターウエイトとアウトリガーとの間にはさまれた。	30201	6	10～ 29
2007	1	8 ～ 9	輸出用の建設機械を駐機場所から岸壁近くに回送準備作業中、回送指示を確認するため運転座席から腰を浮かせてキャビンドアを開け、再び座席に座ろうとしたところ、アームの旋回レバーに着衣（雨具）が引っ掛かったため、アームが旋回し、回送指示者が当該アームと隣駐していた建設機械との間にはさまれた。	50202	7	30～ 49
2007	2	13 ～ 14	水道管布設工事において、幅約1.2m～1.5mの山道を小型ドラグ・ショベルを運転中、路肩より小型ドラグ・ショベルと共に転落し、小型ドラグ・ショベルの下敷きになった。	30110	1	10～ 29
2007	2	12 ～	作業員3名で、農業用水路の橋下の土砂を油圧ショベルで掘り出して	30107	4	10～

		13	いたところ、土中に埋まっていた木片が被災者に飛来した。			29
2007	5	15 ～ 16	火事で焼け残った家屋を解体・撤去し、整地作業をしていたところ、被災者が地面に残った草木の根を枝切りしていたときに、近くで、整地作業を行っていたドラグ・ショベルが後退してきて、ひかれた。	30209	7	1～9
2007	1	13 ～ 14	治山工事現場にて、河床に5名の作業者が入って流路工部の石積みのための間詰めコンクリートの打設作業中に、上部道路の路肩からコンクリートバケットをつって生コンを河床に降ろしていたパワー・ショベルがバランスを崩し、オペレーターごと転落した。その時コンクリート打設のためバイブレーター等を使用して河床で作業していた被災者にパワー・ショベルのアーム部分が直撃した。	30108	6	10～ 29
2007	2	16 ～ 17	ドラグ・ショベルのクローラの上に敷鉄板（1.5m×3.0m）がはさまり走行不能となったため、バケットを地面に当ててアームを伸ばし、片方のクローラ部を浮かして敷鉄板を取り除こうとしたが、機体が上がりすぎていたため少し下げようと運転士がエンジンをかけて安全レバーを解除した際、バケットが機体側へ動いた。その時、被災者がクローラ前面とバケットの間にいたため、バケットとクローラにはさまれた。	30199	7	10～ 29
2007	6	16 ～ 17	砂利採取場において、地上より深さ6.5m下にあるドラグ・ショベルを地上まで上げるため、下部31度～上部38度の勾配の掘削面を登坂し、バケットを地上面に突き刺してバランスを取り、地上に登りきろうとしたところ、安定が保てず、ドラグ・ショベルもろとも転落した。	20202	1	1～9
2007	1	9 ～ 10	下水道工事現場においてクレーン仕様の油圧ショベル（つり上げ荷重2.9tバケット容量0.45立方メートル）でボックスカルバート（幅144cm、高さ100cm、長さ2m、重量2t、以下「B-C」という。）の据付作業を行っていた。基礎コンクリート上に仮置きしていたBCを移動させるため、専用つり金具を取付後、ロックし	30110	4	10～ 29

			ないままつり上げて旋回させようとした際、つり金具からBCが外れが落下し、被災者にあたった。			
2007	2	9 ～ 10	現場に仮囲いを設けるため、ドラグ・ショベルを使って鋼管（長さ1.5m）の打ち込み作業中、15本目の鋼管を打ち込むため、被災者が支えていた鋼管にドラグ・ショベルのバケットを近づけたところ、被災者がバケットの下に身を乗り出してきたため、とっさにオペレーターがバケットを持ち上げようとして、誤ってバケットを下げてしまい、バケットと地面との間にはさまれた。	30209	6	1～9
2007	3	13 ～ 14	間伐材を搬出するための作業道を設置する作業において、ドラグ・ショベルバケット部分設置のフックに、作業道設置の材料である杉丸太（長さ2m直径20cm）約7本をワイヤロープでつり上げ旋回したところ、沢側に転落し被災者は転落途中にドラグ・ショベルの下敷きになった。	60201	1	1～9
2007	5	11 ～ 12	下水道管の敷設工事現場で、掘削を行っていたドラグ・ショベルに、ガードマンがひかれた。	170201	7	10～ 29
2007	7	11 ～ 12	建築工事現場内において、タンクローリー車からドラグ・ショベル（機体重量10.8t）に燃料を補給し、検収のため立会っていた被災者が、検収を終え作業場所に戻る時、後退してきた同僚が運転する当該ドラグ・ショベルと接触し、クローラにひかれた。	30201	7	10～ 29
2007	10	13 ～ 14	道路舗装修繕工事現場において、路面の地均しのため後進してきたドラグ・ショベル（機体重量2.2t）のゴムクローラーにひかれた。	30106	7	1～9
2007	6	9 ～ 10	2tトラックにより運搬されたコンクリート製集水升（約3.2t）を下ろすため、移動式クレーン仕様（つり上げ荷重2.9t）のドラグ・ショベルを用いて、バケットのフックに荷をつり、ブームを左旋回したところ、ドラグ・ショベルが横転した。被災者は測定の準備を行っていたが、背後から横転してきたドラグ・ショベルのバケットと	30106	6	30～ 49

			地面にはさまれた。			
2007	11	15 ～ 16	トラックに積載されたヒューム管の荷卸しのため、高さ約1.4mの荷台上にて、ヒューム管の両端にハッカーを掛け、現場代理人が操作するドラグ・ショベルによりつり上げ、その状態で同僚がトラックを少し前進させたところ、ヒューム管の一部がトラック後部のあおりに引っ掛かり、当該箇所を支点に当該管が横に振れ回転したため、被災者が押し出される形で荷台上から転落し、さらにハッカーから外れた当該管の下敷きとなった。	30106	6	10～ 29
2007	3	11 ～ 12	道路復旧工事において、昼休みに入るためトラッククレーンとクローラ式ドラグ・ショベルを所定駐車位置で縦列駐車しようとした際、前に駐車したトラッククレーン運転手（被災者）が、後から来たドラグ・ショベルにひかれた。被災者は一度ドラグ・ショベルの左側（運転席脇）から後ろを通り右前側に回りこんでおり、ドラグ・ショベルオペレーターからはバケットで死角となる位置であった。	30106	6	1～9
2007	11	9 ～ 10	被災者はD型ハウス（縦5m×横10m）の廃材の回収作業現場に一人だけ先に到着して、ドラグ・ショベルを使用して回収作業前に法面にバケットを押してクローラを浮かして油を差していた。その後、他の作業者が現場に到着した時にドラグ・ショベルの横で倒れている被災者を発見し、病院へ搬送したが、死亡した。	80209	7	1～9
2007	11	15 ～ 16	片側1車線の直線道路で、ホイール式油圧ショベルを運転中、対向車の大型車両を避けようとしてスリップし、路外に落ちて横転した。被災者は運転席に閉じこめられ、救出されたが死亡した。	130309	17	1～9
2006	12	16 ～ 17	田の排水改良のための暗渠掘削排水スコリア埋め戻し作業現場において、作業終了後に不整地運搬車のバッテリーが不具合であったため、0.1ドラッグショベルとブースターで接続することとなり、オペレーターが運転席キャビンから上部旋回体右前方を覗き込んだ際に、腹部で操作レバーを押してしまい、アームが下降して、オペレーターがアームとキャビンの間に挟まれた。	30109	7	1～9



2006	12	14 ～ 15	林道の災害復旧工事現場において、幅約3.2mの林道にL型擁壁を設置するため、ドラグ・ショベルで埋め戻し作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの横を通り抜けようとした被災者が、ドラグ・ショベルの後方部と山の斜面に挟まれた。	30199	7	1～9
2006	12	11 ～ 12	ドラグ・ショベルのバケットのフックで基礎ブロック（約500kg）をつり上げて運搬中、右旋回したところ、ドラグ・ショベルが転倒し、運転者が運転席から約4.4Mの道路下に投げ出され、倒れた被災者に約2Mの鉄筋が落ち、被災した。	30106	2	1～9
2006	10	14 ～ 15	被災者は工事部長と2名で、貨物自動車の荷台に道板を2枚架け、ドラグ・ショベルの積み込み作業を行っていたところ、道板上に当該ドラグ・ショベルが乗った状況で道板の1枚が荷台から外れ、ドラグ・ショベルが右側地面に転倒し、被災者がバケットの下敷きになった。	30110	6	1～9
2006	11	16 ～ 17	ドラグ・ショベル（機体重量約1.4t）を道板（積載重量750kg、2枚）を用いて市道上で2tトラックに積み込む作業を行っていた際に、同ドラグ・ショベルが道板から外れ、市道脇の田んぼに被災者もろとも転落し、被災者は同ドラグ・ショベルの下敷きになった。	30203	1	1～9
2006	10	14 ～ 15	被災者は、資材置き場において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.1トン）の運転席で窓から注油作業を行っていたところ、当該労働者の体がレバーに触れたために降下してきたアームに挟まれた。	30110	7	1～9
2006	10	15 ～ 16	地下連絡通路掘削工事場所において、地上GL上に車両系掘削用建設機械（クラムシェル）を設置し、深さ8.5mの場所の掘削土搬出作業中、水中ポンプの修理作業を終えた被災者が、当該掘削土近くを通り過ぎようとしたところ、降下してきたクラムシェルのバケット（1立方メートル）に、激突された。	30201	6	1～9
2006	9	10 ～	コンクリート製減圧槽（高さ1.3m）の設置工事現場において、槽から1m離れた場所にある石積み（高さ1m）から奥に広がる土の斜面（勾配18度）で、被災者がドラグ・ショベル（機体重量0.7t）を運転していたところ、ドラグ・ショベルが横転して被災者と共	30110	1	10～ 29

		11	に減圧槽と石積みとの間に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きとなった。			
2006	9	15 ～ 16	汚水幹線管渠築造工事において、発進立坑築造完了後、ドラグ・ショベル（0.45m <sup>3</sup> ）を約150m先の現場事務所敷地に移動させるため、交通誘導員を重機の前後2名ずつ計4名配置して、交差点を横断しようとしていた。交差点信号が赤となり、重機前方にいた誘導員がドラグ・ショベルのアームが交差点内に出ているためオペレーターに後進指示をしたところドラグ・ショベル後方にいた被災者がひかれ死亡した。	170201	7	30～ 49
2006	9	13 ～ 14	資材置き場において、配管敷設のため碎石を積んだ後、被災者がトラックに防護シートをかけていたところ、後方から、ならし作業をしているドラグ・ショベルに激突され、トラックとの間に挟まれた。	30110	6	50～ 99
2006	9	16 ～ 17	住宅建築工事現場で2名で整地作業を行っていた。ドラグ・ショベル（機体重量6.2t）を運転し、前進・後進を繰り返し排土板にて整地していたところ、後進時にドラグ・ショベルの進路に入っていた被災者をクローラーで轢いた。	30202	6	1～9
2006	9	16 ～ 17	林道にブレーカを移動させるため、ブレーカにベルトスリングとワイヤロープを取り付け、ベルトスリングを林道上の車両積載形トラックに固定させ、ワイヤロープを林道上のバックホウのバケットに取り付け、バックホウでブレーカを引っ張ると同時に、被災者がブレーカを自走させ、傾斜45度の斜面上を上がっていた。この時、バケットのフックからワイヤロープが外れ、ブレーカーが転倒したため、被災者が運転席から転落した。	30199	1	1～9
2006	9	16 ～ 17	牛舎牛糞置き場の建設中、ドラグ・ショベルを用途外で使用し、重量1トンのコンクリートブロック（以下「ブロック」という。）を吊って、所定位置に敷設するため右旋回したところ、吊ったブロックが大きく揺れた。吊ったブロックの揺れを止めようと左旋回し地面に置こ	30201	6	1～9

			うとしたところ、被災者が見えたので、右に急旋回したところ、吊ったブロックの揺れが加速し被災者にブロックが激突した。			
2006	9	13 ～ 14	ドラグ・ショベルを用途外使用し、山留め鋼板（約600kg）を引き抜き、そのままつり上げ、仮置き場へ移動するため旋回して前進を始めたドラグ・ショベルに被災者が轢かれた。被災者は、山留め鋼板の玉掛け作業の後、当該ドラグ・ショベルの前方を移動していたものである。	30199	7	1～9
2006	7	15 ～ 16	ドラグ・ショベルの用途外使用によりバケットフックで生コンクリートを仮受けしたホッパー（推定600キログラム）を吊り上げ、深さ約3メートルのピット底部に降ろそうとしたところ、ホッパーに取り付けられたワイヤがフックから外れ、ホッパーが落下し、ホッパーの下にいた被災者に激突した。	30201	4	10～ 29
2006	8	14 ～ 15	急傾斜地崩壊対策工事において、落石防護柵を設置するため基礎床堀をしようと法面小段を小型ドラグ・ショベルに乗車して鉄板2枚を交互に敷き詰めながら移動中、鉄板を吊り上げて旋回中にバランスを崩して小段端部より12メートル下の民家敷地へ小型ドラグ・ショベルとともに転落した。	30199	1	10～ 29
2006	8	9 ～ 10	京都府内の国道道路新設改良工事現場において、被災労働者が運転していたドラグ・ショベルが法面から転落し、ドラグ・ショベルのブームで強打された。	30106	2	1～9
2006	8	16 ～ 17	小学校解体工事現場の浄化槽撤去跡の窪地において、ドラグ・ショベルを用いて解体ガラを再利用して底部へ降りるためのスロープを作っているとき、ドラグ・ショベルの運転席後部に鉄筋があたり異音が生じたため、オペレーターが後方を見ながら左旋回させたところ、バケットが被災者に激突し、バケットと壁に挟まれた。	30209	6	30～ 49
2006	8	13 ～	立体交差工事現場に設置されていた仮囲いの解体・撤去作業を、バケット容量0.4立米のドラグ・ショベルを用いて行っていた。仮囲い設置のために設けられた支柱（長さ5m、重量約80kgのH鋼）	30106	6	30～

		14	を地面からドラグ・ショベルを用いて引き抜いた際に、つり具のクランプから当該H鋼が外れて落下し、被災者に激突した。			49
2006	7	9 ～ 10	被災者は、県道直下のブロック積み施工箇所をドラグ・ショベルで掘削していたが、右岸からは下部の掘削ができないため、小型ドラグ・ショベルを左岸から進入させた。ドラグ・ショベルの進入箇所はドラグ・ショベルの機体前方に約35度下がり傾斜で、左方向に約10度下がり傾斜であった。ドラグ・ショベルが前方に約2メートル進んだところで、機体が左に傾き横転して斜面を約15メートル転落、被災者は機体から投げ出された。	30199	1	1～9
2006	7	16 ～ 17	上下水道管布設工事において、土止め支保工の組立作業中、掘削溝内におろしていたドラグ・ショベルのバケットを地上に移動させるためバケットを引き上げ、ドラグ・ショベルを後退させたとき、ドラグ・ショベルの後方にいた被災者（交通整理員）が轢かれた。	170201	7	1～9
2006	7	15 ～ 16	開削溝から撤去した古い鉄製の配水管4本（内径10cm、重量計182kg）を移動させるために機体重量2.57トンのドラグ・ショベル（バケット容量0.11立方m）の専用フックにワイヤロープを掛け、配水管4本を1本づりして約1.2mの高さに上げたときに、反対車線を走行中のトラックのドアミラーがつり荷の先に激突したため、つり荷を支えていた被災者につり荷の先が激突した。	30110	6	10～ 29
2006	7	9 ～ 10	小型のドラグ・ショベル（総重量約3トン）をトラックの荷台から地面に卸す作業において、左右の履帯それぞれに合わせて金属製の道板を敷き、ショベルがその上を移動していたところ、ショベルが横転して近くにいた被災者にショベルのアームが激突し、被害者はアームと建物（店舗ショーウィンドー）の間に挟まれた。	30109	6	10～ 29
2006	6	15 ～ 16	現場は防災用堰堤予定箇所の上面の平らな土場で、側溝の手前に生じた残土をドラグ・ショベルの排土板により均す作業を行っていた。被災者は石を拾い集め片付けていたが、後退するショベルの左側クロー	30109	6	1～9

			ラー後方に轢かれた。			
2006	6	15 ～ 16	法面掘削後の土砂を車両系建設機械（0.7立米ドラグ・ショベル）を用いて運び出す作業中、当該ドラグ・ショベルの停車していた箇所～の地面が崩落し、当該ドラグ・ショベルが崖下約40メートルまで転落。当該ドラグ・ショベルを操作していた労働者もドラグ・ショベルに載った状態で転落した。	30106	5	1～9
2006	6	14 ～ 15	解体工事現場において、再生砕石（廃コンクリートを小割したもの）の山をならす作業を行っていたドラグ・ショベルのバケットが、山中腹で非鉄金属片等を拾っていた労働者に激突した。	30209	6	1～9
2006	5	11 ～ 12	線路下の横断水路新設工事現場において、被災者は深さ4.3mの縦坑内へ搬入されていたドラグ・ショベルを運転し、当箇所から1.6m下の床付け部に移動させようとドラグ・ショベルを方向転換させたとき、段差部の路肩が崩れ、クローラーが横滑りして横転し、運転席から投げ出された被災者は、縦坑鋼矢板とドラグ・ショベル間に挟まれた。	30199	1	1～9
2006	3	17 ～ 18	工事現場において、作業員5名は、通行止めの道路を17時に開放しなければならぬため、後片付けの最中であつた。ドラグ・ショベルのバケットに取り付けたフックで荷（木製矢板）を吊って旋回する間、被災者は旋回範囲外に退避していたが、被災者がドラグ・ショベルの後方に移動しており、約30cm後退した際、被災者を轢いた。	30110	7	10～ 29
2006	5	14 ～ 15	労働者がドラグ・ショベル（クローラー式）で透水層側溝の掘削作業を行い、被災者が掘削壁面を透水シートで覆う作業を行っていた。重機が掘削方向を変えるために掘削面を確認できるだけ右旋回し後進してきたところ、掘削箇所の上で作業を行っていた被災者が右キャタピラで轢かれた。	30109	7	1～9
2006	4	15 ～ 16	分譲宅地側溝等工事現場において、機体重量3.17トンのドラグ・ショベルの排土板による整地作業を行っていた際、被災者がバック走行してきたドラグ・ショベルのキャタピラの下敷きになった。	30109	7	1～9

2006	4	9 ～ 10	護岸工事において、被災者がドラグ・ショベルを運転し、鉄板を吊り上げている際にバランスが崩れ、高さ約2.5メートルの箇所からドラグ・ショベルごと転落し、ドラグ・ショベルと地面との間に挟まれた。	30199	1	1～9
2006	3	14 ～ 15	市道において、歩道改良工事の交通誘導業務を行っていた被災者が転倒し、移動してきたドラグ・ショベルに轢かれた。	170201	7	30～ 49
2006	1	16 ～ 17	県道の拡幅及び歩道の新設工事で、被災者は削り取ったアスファルト片をドラグ・ショベルで寄せ集め、ダンプカーに積み込む作業をしていた。その日の最後の積み込みが終わり、ダンプカーが現場を離れたので当日の作業を終了すべく残塊を寄せ集めていたところ、アスファルト片に乗り上げ、バランスを崩してドラグ・ショベルが転倒し、運転席に挟まれた。	30106	2	10～ 29
2006	1	14 ～ 15	法面整形現場において、トラック運転手（被災者）が、法面整形をしていたドラグ・ショベルの手元作業をするためにドラグ・ショベルに近寄ったところ、ドラグ・ショベルが横移動し、被災者がクローラー部分に轢かれた。	30201	7	1～9
2006	3	11 ～ 12	宅地造成工事現場において、土工事を行っていた被災者が、ドラグ・ショベル（機体重量2トン）を当該現場から別の場所にダンプに載せて移動させるため、ドラグ・ショベルを運転し、当該現場の斜面（約30度）を登っていたところ、ドラグ・ショベルが転倒し、回転した。この時、被災者は運転席から投げ出され、ドラグ・ショベルの下敷きになった。	30109	2	1～9
2006	2	10 ～ 11	ドラグ・ショベルにて残土をダンプに積込み搬出後、ドラグ・ショベルを回転しながら後退させたところ、敷鉄板をクローラーに引っ掛け、敷鉄板を後方に引きずり、近くの1.2mの深さの箇所で、基礎のアンカーボルトを設置していた被災者に敷鉄板が当たり、基礎の型枠との間に挟まれ被災した。（敷鉄板 1.5m×6m）	30201	7	30～ 49

2006	3	15 ～ 16	トンネル坑口から155m付近において、ドラグ・ショベルでインバート埋戻し作業中、移動のためドラグ・ショベルを後退させたところ、ドラグ・ショベルの後方でインバート型枠の修理準備を行っていた被災者が轢かれた。	30102	6	30～ 49
2006	2	17 ～ 18	斜面に設けた茶畑で、茶木の植え替えのために、ドラグ・ショベルで斜面の掘削作業を行っていた際に、ドラグ・ショベルとともに斜面を約30メートル転落した。	10109	1	1～9
2006	2	13 ～ 14	コンクリート揚壁の型枠にコンクリートを打設するため、機体重量8トンのドラグ・ショベルのバケットで生コンを入れたホッパーをつり上げて旋回したところ、ドラグ・ショベルが横転し、型枠付近にいた労働者4名がドラグ・ショベルの下敷きになった。	30199	6	10～ 29
2006	1	2 ～ 3	道路トンネル工事（NATM工法）現場坑内の切羽付近（坑口から360m）において下半鋼アーチ支保工の立て込み作業中、ドラグ・ショベル（クローラー式・0.45立米）が右回り回転を行っていた時、ドラグ・ショベルの後方にいた被災者が回転中のクローラーの内側で被災した。	30102	7	10～ 29
2006	1	13 ～ 14	給水管取替工事で市道をドラグ・ショベル（0.3立米）により掘削し、被災者が掘削溝（深さ1m、幅0.5m、延長5m）内でスコップを使用し本管止水栓を探していたところ、溝手前に位置していた当該ドラグ・ショベルが溝横の土砂搬出用2tトラックの荷台にバケットを掛けていたために、発進したトラックに引きずられて動き、逃げ遅れた被災者が当該ドラグ・ショベルの下敷きとなった。	30110	7	1～9
2005	8	13 ～ 14	ドラグ・ショベルのバケットに溶接されたシャックルにフック付きワイヤロープをかけ、鉄板の穴にフックをかけて、鉄板(重さ800kg)をダンプトラックへ積み込む作業を行っていたところ、鉄板からフックがはずれ、ダンプトラックの荷台上で鉄板を支えていた被災者が下敷きとなった。	30301	6	1～9

2005	1	15 ～ 16	掘削前の伐採作業において、伐倒木をドラグ・ショベルで運搬し、地上方から地上へ伐倒木を下ろす際に、ドラグ・ショベルが勾配が16度の斜面を滑り、法肩から20m転落した。	30106	1	10～ 29
2005	12	9 ～ 10	路盤整備工事の記録写真を撮るため、稼働中のドラグ・ショベルの後に背を向けて立ち、写真を撮っていたところ、後退してきたドラグ・ショベルのクローラー部分でひかれた。	30106	6	10～ 29
2005	10	14 ～ 15	国道改良工事現場において、石積擁壁の施工のため、クレーン使用のドラグ・ショベルでつり上げたポッパーを使って石積後のコンクリート打設作業をしていたところ、コンクリート打設後の側面の均し作業を行っていた被災者に激突した。	30106	7	10～ 29
2005	2	10 ～ 11	道路の側溝敷設工事において、掘削面の上部をドラグ・ショベルで移動中、アスファルト路面の下部が崩壊したため深さ2mの掘削箇所へ転落し、既設のコンクリート擁壁とドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	30110	1	10～ 29
2005	12	14 ～ 15	下水道工事現場において、下水道管を埋設した掘削箇所をドラグ・ショベルで埋め戻し作業中、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	170201	7	30～ 49
2005	6	17 ～ 18	中間処理施設内において、産業廃棄物の分別作業に使用するドラグ・ショベルを移動させるため旋回し走行させたところ、被災者が右クローラーに巻き込まれた。	170101	7	1～9
2005	4	16 ～ 17	盛土の上で作業していたドラグ・ショベルを下ろそうと勾配が30度の斜面を下っていたところ、機体が転落し、被災者が機体の下敷きとなった。	30201	1	50～ 99
2005	4	10 ～ 11	ドラグ・ショベルを使用して斜面の掘削を行っていたところ、高さ10mの法面上からドラグ・ショベルごと転落し、運転席ごと潰された。	30109	1	1～9
			ドラグ・ショベルにて、発電機をつってトラックに積み込み、つって			



2005	6	8 ～ 9	いたワイヤロープの一端を外し、ドラグ・ショベルを旋回させたところ、ワイヤロープが発電機から外れず、発電機はそのまま荷台より落下、ワイヤロープを外す作業を行っていた被災者とともに転落し、落ちた発電機に挟まれた。	30201	4	1～9
2005	4	8 ～ 9	鋼管杭の周辺の土砂を寄せる作業中で、ドラグ・ショベルを後進させていたところ、後方にある移動式クレーンのカウンターウエイトの下部に潜り込む状態となり、カウンターウエイトとドラグ・ショベルの運転席との間に挟まれた。	30199	3	10～ 29
2005	2	11 ～ 12	ため池周辺の農道の災害復旧工事において、重機の搬入路確保のため、ドラグ・ショベルにて農道を拡幅作業中、路肩からドラグ・ショベルとともに勾配が40度の斜面を8m転落した。	30106	1	10～ 29
2005	8	16 ～ 17	アタッチメントを改造したドラグ・ショベルでアルミ材をつかみ、旋回してプレス機の開口部に入れる作業を行っていたところ、プレス機の開口部で作業を行っていた被災者にドラグ・ショベルが激突した。	11101	7	1～9
2005	3	10 ～ 11	ドラグ・ショベルで勾配が20度の斜面を上ろうとしたが自走できなかったため、玉掛用ワイヤロープの一端を切株に巻き付け、もう一端をドラグ・ショベルのバケットの爪に引っかけて上ろうとしたところ、爪に引っかけていたワイヤロープが外れ、ドラグ・ショベルごと4m転落した。	60209	1	10～ 29
2005	2	8 ～ 9	ダンプトラックを移送するため、ステップ及びミラーを取り外す作業中、すぐ横で作業中のドラグ・ショベルが旋回したため、ドラグ・ショベルのバケットとダンプトラック車体との間に挟まれた。	20209	7	1～9
2005	9	11 ～ 12	ドラグ・ショベルで県道を自走していたところ、道路が陥没してドラグ・ショベルが横転、ガードレールと機械との間に挟まれた。	30199	17	10～ 29
2005	10	11 ～	ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたコンクリートホッパにコンクリートを入れ、アームを旋回させたところ横転し、付近で型枠の建込作業を行っていた被災者が、ドラグ・ショベルの車体に押され	30199	6	1～9

		12	た型枠材との間に挟まれた。			
2005	5	18 ～ 19	庭石用の石をドラグ・ショベルにてつり上げて車両積載形トラックの荷台に積み込んだ後、玉外し作業を行い、バケットを移動しようとしたところ、被災者にバケットが激突した。	20209	6	1～9
2005	11	11 ～ 12	農地災害復旧工事現場において、ブロック積み作業を行うためドラグ・ショベルの運転の業務を行っていたところ、4m下の地面にドラグ・ショベルとともに墜落した。	30109	1	10～ 29
2005	12	6 ～ 7	河川敷道路においてトラックにドラグ・ショベルを後進させながら積み込み作業中、クローラが荷台から外れ、5m下の川に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きとなった。	40302	1	1～9
2005	7	8 ～ 9	工場の新築工事現場において、基礎杭の打設のために掘削した縦穴から染み出てきた湧水をドラグ・ショベルで掬い、現場内の別の場所へ移動させる作業を行っていた。被災者は工場の窓ガラスを清掃していたが、ドラグ・ショベルの稼働区域に立ち入り、突然旋回してきたドラグ・ショベルのバケットに強打された。	30201	6	1～9
2005	5	7 ～ 8	材料置き場で、丸太の束を別の材料置き場に移動させるため、ドラグ・ショベルにて丸太の束をつり上げ、トラックに載せる作業中、トラックの荷台に乗っていたところ、つり上げていた荷の玉掛け用ワイヤロープが切れ、被災者の上に落下した。	170209	4	1～9
2005	4	13 ～ 14	河川の側壁にブロックを積み上げる作業を行うため、ドラグ・ショベルの後方に回り作業場所へ移動していたところ、ドラグ・ショベルが方向転換のため後退し、被災者をクローラでひいた。	30107	7	1～9
2005	10	13 ～ 14	マンホール設置工事現場で、ヒューム管をつり上げ、運搬しようとしていたドラグ・ショベルが敷き鉄板の段差でバランスを失ってヒューム管が深さ2.3mの縦坑内に落ち、縦坑底部で作業中の被災者に激突した。	30110	6	1～9
		11	民家の石積み補強工事で、トラック荷台上の生コンをドラグ・ショベ			

2005	7	～ 12	ルのバケットですくい、型枠へと注ぎ込む作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルもろとも2m下へ転落した。	30199	1	1～9
2005	5	～ 1	0 砕石貯蔵タンク下の基礎部へ小型ドラグ・ショベルで入り、タンク脇の堆積粉じんを除去しようとしたが、現場が狭いためバックしたときにケーブルラックに激突した。	20201	3	10～ 29
2005	2	～ 11	10 農業用水路補修工事現場の進入用雪道において、ドラグ・ショベルの操作をしていたところドラグ・ショベルが横転し、当該ドラグ・ショベルの運転席出入り口側の天井フレームと雪道との間に挟まれた。	30199	7	30～ 49
2005	2	～ 15	14 川堤整備工事現場において、ドラグ・ショベルを使用して型枠を支えるための土嚢を型枠の横に設置しようとしていたところ、土嚢が、型枠に釘を打ち付けていた被災者に接触し、被災者が土嚢と型枠との間に挟まれた。	30107	7	30～ 49
2005	10	～ 12	11 集水井掘削工事において、作業終了後に作業床を支えていた棒鋼の抜き取り作業中、最後の棒鋼を抜き取った際、ワイヤロープのつりリングがクラムシェルから外れ、深さ7mの井戸底部に当該作業床もろとも墜落した。	30199	1	1～9
2005	1	～ 16	15 コンクリートの堤防の解体工事において、ドラグ・ショベルが横転し、運転席が潰れた。	30107	2	1～9
2005	4	～ 10	9 地下車庫工事のため、ドラグ・ショベルで掘削中、歩行者を誘導していた被災者が、ドラグ・ショベルのカウンターウエイトとトラック荷台のあおりとの間に挟まれた。	30202	7	10～ 29
2005	12	～ 9	8 整地用機械をドラグ・ショベルのバケットのフックでつり上げて地上に下ろす作業をしている最中に、ドラグ・ショベルのアームと運転席ヘッドガード支柱との間に挟まれた。	30110	7	1～9
2005	10	～ 16	下水道工事において、ドラグ・ショベルで掘削した土砂をドラグ・ショベルの後方に駐車させたダンプトラックに積み込むため旋回した	30110	7	10～

		17	ところ、電工ドラムのコードを巻き取る作業をしていた被災者が、ドラグ・ショベルのカウンターウエイトとブロックとの間に挟まれた。			29
2005	4	17 ～ 18	ドラグ・ショベルのクローラを清掃作業中、ドラグ・ショベルが横転し、下敷きとなった。	30199	6	1～9
2005	3	14 ～ 15	道路改良舗装工事において、ドラグ・ショベルにより古い路盤を剥がし、トラックに積み込む作業中に、トラックの後部にいた被災者が旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトとトラックの荷台との間に挟まれた。	30106	7	1～9
2005	6	10 ～ 11	油圧ショベルの側面を移動していたところ、油圧ショベルが旋回し、地山とカウンターウエイトとの間に挟まれた。	30106	7	1～9
2005	1	14 ～ 15	河川に鉄管を河岸から敷設する作業中、ドラグ・ショベルの運転席に運転手が座った際、衣服のポケットバケットの旋回レバーに引っかかり、当該レバーを引いた状態であったが、それに気づかず運転を開始した。そのため、運転開始と同時にドラグ・ショベルのバケットが急旋回し、近くにいた被災者に激突し、被災者は当該バケットと鉄管との間に挟まれた。	30106	6	1～9
2005	8	15 ～ 16	ドラグ・ショベルにより、砂をダンプトラックに積み込む作業中、ドラグ・ショベルを左旋回させた時に、被災者がダンプトラック後部とドラグ・ショベル後部との間に挟まれた。	40301	7	1～9
2005	11	10 ～ 11	ドラグ・ショベルの旋回範囲内に被災者が立ち入った際に、当該ドラグ・ショベルが旋回し、すぐ脇に停車中の他のドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	20201	6	10～ 29
2005	10	17 ～	作業を終えドラグ・ショベルを運転し、規制帯の中を通過して現場事務所のある土場に戻る途中、道路に電光掲示板が設置されているため、一度対向車線にはみ出し規制帯側に戻った。その際、ドラグ・ショベルの後方に一般車両が走行してきていることに気づき、一般車両を通	170201	7	10～ 29

		18	過させるため3m後退した。この時、ドラグ・ショベルの後方で一般車両の誘導を行っていた被災者がドラグ・ショベルにひかれた。			
2005	5	10 ～ 11	国道の交通規制をしていた区域内において、被災者は運転してきた4トンダンプトラックの後方に何らかの理由で立ち入り、この時、同ダンプトラックに積込みを行うために前進してきたホイール式ドラグ・ショベルの左前輪でひかれた。	30106	7	10～ 29
2004	11	8 ～ 9	車両系建設機械のバケットに乗り、型枠材を取り外す作業をしていたところ、バケットから墜落し、さらに谷に転落した。	30106	1	1～9
2004	12	15 ～ 16	水道管敷設工事現場において、掘削した溝内に水道管敷設後、水道管上に砂を敷き、その上に栗石を入れ、ドラグ・ショベルの排土板でならず作業をしていた際、運転手が当該ドラグ・ショベルを数メートル後退させたところ、交通誘導をしていた被災者をひいた。	170201	7	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	張ブロック（コンクリート製、1枚50kg）を側溝へ据付けるため、ドラグ・ショベルで張ブロック15枚をつり、約4.2m下の土手に下ろそうとしていたところ、ドラグ・ショベルが転倒し、運転していた被災者がドラグ・ショベルの下敷きになった。	30107	1	10～ 29
2004	12	16 ～ 17	コンクリート会社敷地内において、余剰となった生コンクリートにより作成したコンクリートブロックを仮置き作業していたところ、このブロック塊の間に挟まれた。	10901	6	10～ 29
2004	9	9 ～ 10	砂採取場所にできた池の端にドラグ・ショベルを設置し、掘削作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルごと池に転落した。	20202	1	1～9
2004	3	10 ～ 11	新築工事のために既存の2階建て木造家屋を解体し、残骸の運搬準備作業中、トラックの側面にいた被災者が、他の作業者が運転するドラグ・ショベルのバケット部分とトラックのアオリ部に挟まれた。	30202	7	1～9
		10	自社所有地から出た土砂をダンプ3台で災害発生地まで運搬、災害発生			

2004	5	～	地内にある池を埋め立てる作業を、ドラグ・ショベル（車重35t）を運	20202	1	1～9
		11	転し行っていたところ、ドラグ・ショベルごと池に転落した。			
2004	2	～	農道の道路改良工事現場において、作業終了前に路面の凹凸の整地作	30106	7	10～
		17	業を行っていたドラグ・ショベルの後進中に、人力整地作業中の作業			29
2004	1	～	宅地造成現場において、ドラグ・ショベルの移動中、仮栈橋の段差を	30109	6	10～
		10	乗り越えるため、バケットを地面に押し付けて本体を浮かそうとして			29
2004	9	～	ドラグ・ショベルの操作者が運転席の扉を開けようと左手にて内側か	30106	6	10～
		13	ら扉を押して開けていたところ、運転席左側にある操作レバーに誤っ			29
		14	て腕が接触し当該機械のバケット部が前方に動き、作業中の被災者が			
			当該機械のバケット部と既設擁壁との間に挟まれた。			
2004	9	～	高炉内の通路を被災者が小型ドラグ・ショベルで移動中、通路の柱と	11001	6	1000
		13	ドラグ・ショベルが激突し、その音を聞きつけてきた他の作業者がド			～
			ラグ・ショベルの左後方で倒れている被災者を発見した。			9999
2004	5	～	自社の資材置場から水路に土砂が流れることを防止するため、敷地と	30199	2	1～9
		16	水路の境界にコンクリートブロックを設置する作業において、ドラ			
		17	グ・ショベル（機体重量5.3t）を用いてブロック（重量約1.5t）1個を			
			つり上げ、左に旋回中、ドラグ・ショベルが転倒し、その下敷きにな			
			った。			
2004	2	～	2tトラックに鉄板を積み込もうとして、ドラグ・ショベルのエンジン	30199	6	1～9
		9	を始動したところ、突然アームが回転し、近くでトラックに乗ろうと			
			していた被災者がアーム先端のバケットとトラックの間に挟まれた。			
2004	7	～	よう壁ブロックの積み上げ工事において、ドラグ・ショベルを用いバ	30199	1	1～9
		11	ケットに生コンクリートを入れ、現場まで走行し型枠内に生コンク			
		12	リートを流し込もうと旋回したところ、バランスを崩し重機ごと転落			
			した。			

2004	12	14 ～ 15	鉄骨2階建の解体工事にて、床の穴空けでドラグ・ショベルに装着していたブレーカーアタッチメントを、再びバケットに取り替えた被災者が、バケット装着ピンのズレに気づき、調整するためにショベル座席にいた運転者に声をかけ、運転者が被災者の話を聞こうと座席を立ったところ、誤ってレバーに当たりバケットが動きだし、被災者がバケットと背後の壁に挟まれた。	30209	7	1～9
2004	7	18 ～ 19	積載荷重4 t のダンプトラックの荷台（床面から荷台までの高さ101cm）に機体重量2.5 t のドラグ・ショベルを自走により荷積み作業中、被災者が掛けた2枚の道板（2.9m×50cm）の内の1枚が外れ、ドラグ・ショベルが横転し、運転していた被災者が投げ出され、ドラグ・ショベルと横に置いてあった発電機に挟まれた。	170209	2	1～9
2004	12	13 ～ 14	被災者は、補助者を付けて、機体重量8.39tのドラグ・ショベルを運転し鉄板の移動作業に従事していた。補助者が作業場所を離れた時、異常な音が発生したため補助者が振り返ると、旋回レバーに被災者の安全帯のロープが引っかかり宙つり状態で振り回されているのを発見した。	30201	3	30～ 49
2004	2	9 ～ 10	道路改良工事現場において、測量用木杭を一輪車に載せ、ドラグ・ショベルの近くを通行中、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30106	7	1～9
2004	5	11 ～ 12	側溝の撤去および設置工事で、ドラグ・ショベルを使用して既設の側溝（コンクリートの塊）をつり上げて旋回したところ、当該側溝が玉掛けしたワイヤーから抜け落ち、道路に落下し被災者に当たった。	30106	4	1～9
2004	10	17 ～ 18	ドラグ・ショベルを用いて作業をしていた被災者が、作業を終了しようとして、直前まで作業をしていた積み上げられた残土の上（傾斜角約18度）からアームを持ち上げた状態のまま下ろうとした際、バランスを崩したドラグ・ショベルが傾き、被災者が前方へ放り出され、その上から転倒してきたドラグ・ショベルのヘッドガード部支柱と地面に挟まれた。	30199	2	10～ 29

2004	2	15 ～ 16	被災者がドラグ・ショベルの横を通って、後方のトラックへ行こうとした時に、作業中のドラグ・ショベルと横にあった廃材とに挟まれた。	150102	7	1～9
2004	9	16 ～ 17	道路上で、鍬を用いて道路端の地ならし作業を行っていた被災者が、同じく地ならし作業のため後進してきたドラグ・ショベル（機体重量10 t）にひかれた。	30106	7	1～9
2004	7	11 ～ 12	護岸工事現場内でコンクリート打設後の雨天用養生シート（ブルーシート）を運んでいた被災者が、現場内資材の片付け作業を行っていたドラグ・ショベルの付近を通ろうとしたところ、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30107	6	30～ 49
2004	11	11 ～ 12	農道改良工事現場において、被災者は、盛土・転圧を終えた状況をドラグ・ショベルの後方で写真撮影を行っていたところ、被災者の指示により退避させていたドラグ・ショベルが被災者の方向に移動してきてクローラ部分にひかれた。	30209	7	30～ 49
2004	9	13 ～ 14	作業場内でエアーホースの切回し作業をしていたところ、シートパイプに移動式クレーンのワイヤロープを掛けたまま待機していた所へドラグ・ショベルが激突し、シートパイルが振れ、被災者に激突した。	30201	6	30～ 49
2004	9	16 ～ 17	マンション新築工事において、透水枘設置工事の終了後、敷鉄板により枘上部の養生をするため、被災者はドラッグショベルを運転して敷鉄板をつり上げたところ、運転席の左側方向にドラッグショベルが転倒し、ドラグ・ショベルのヘッドガードと敷鉄板の間に挟まれた。	30201	2	10～ 29
2004	8	17 ～ 18	河川の河床部浚渫工事現場において、ドラグ・ショベルを運転し、河川内部に設けた乗入れ構台（高さ1.5m）を後退しながら20度の傾斜面上を上っていたところ、誤って、構台端からドラグ・ショベルごと河川に墜落した。	30107	10	10～ 29
		15	マンション新築工事の掘削作業において、被災者は車両系建設機械（掘削機械）を運転し、GL-2.5m付近を掘削していた。前方のGL-1.5mの高さにある切梁をくぐろうとしたところ、運転席後のヘッド			10～



2004	11	11 ～ 16	ガード取付用支柱受け部がこの切梁に当たった。アームとバケットを動かし、掘削機械前方を上げたところ、機体が傾き運転レバーと切梁に挟まれた。	30201	7	29
2004	8	15 ～ 16	住宅建築工事の杭工事において、ドラグ・ショベル脇にあったスコップを取るためにかがんでいたところへ、ドラグ・ショベルの操作者がドラグ・ショベルを左旋回させたため、立ち上がった被災者がドラグ・ショベルの後部と隣りあった移動式クレーンの間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	ドラグ・ショベルをクレーンとして使用して、トラック等の通行帯用の鉄板を敷く作業中、敷鉄板へフックを掛け外しする作業を行っていた被災者が、次の鉄板をフックに掛けるため、鉄板が置いてある場所に向う際に、旋回中のドラグ・ショベルに接触した。	30109	7	1～9
2004	12	8 ～ 9	ドラグ・ショベルを運転中、ドラグ・ショベルのクローラ下の地面が崩落し、滑りをバケットにより止めようとブームを左旋回させたところ、近くで作業中の被災者に激突した。	30107	6	1～9
2004	10	10 ～ 11	下水管敷設工事現場内において、被災者が仮置中の土止め支保工付近で作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルがバックしてきて、ドラグ・ショベルと土止め支保工との間に挟まれた。	30110	7	10～ 29
2004	1	13 ～ 14	管路付設のため掘削した溝に、土止めのための軽量鋼矢板を建て込む作業中、ドラグ・ショベルのバケットで矢板の先端を下方へ押していたところ、矢板が急に曲がり、溝の底で当該矢板を押さえていた被災者に激突した。	30202	6	10～ 29
2004	2	15 ～ 16	道路整備工事において、交通誘導作業中、移動中のドラックショベルのクローラ部にひかれた。	170201	7	50～ 99
2004	2	9 ～ 10	傾斜約3度の工事用道路を移動していたドラグ・ショベルが、方向転換を行おうとして車体を転向させたところ、路面が凍結していたため横滑りを起こして滑走し、道路上に止めていたトラックとドラグ・ショ	30199	7	30～ 49

			ベルの車体との間に挟まれた。			
2004	3	13 ～ 14	河川改修工事において、農業用水路の水門を解体するため、ドラグ・ショベルを使用し、河川内に土嚢を積んでせき止める作業中、土嚢の下の川床に敷くためのブルーシートを持って、ドラグ・ショベル後部と解体中の水門の間を通り抜けようとした際に、水門と旋回したドラグ・ショベルの右カウンターウエイトとの間に挟まれた。	30107	7	10～ 29
2003	12	11 ～ 12	ドラグ・ショベルで水路敷設のためのコンクリート製U字溝をつり上げ旋回していたときに、ドラグ・ショベルが転倒し運転者とともに崖を7.5m下まで転落した。	30110	1	1～9
2003	12	14 ～ 15	砂防ダムの仮設道路整備作業中に、人力により路肩および路床の仕上げを行っていたときに、荒仕上げに使用していた車両系建設機械が後進してきて全身をひかれた。	30199	7	10～ 29
2003	11	17 ～ 18	ずい道内で、油圧ブレーカーを切羽に移動させるため建設機械の入れ替えの打合せをしていたときに、後退してきたドラグ・ショベルのクローラに巻き込まれ下敷きになった。	30102	7	10～ 29
2003	11	16 ～ 17	砂防ダム工事において、ドラグ・ショベル2台の作業位置を入れ替えるため、アームを伸ばしたまま斜面をバックしていたドラグ・ショベルが横転し、その反動で振られたバケットが現場を歩行中の者に激突した。	30108	6	1～9
2003	11	14 ～ 15	町道改良工事において、ドラグ・ショベルで幅2.5mの進入道路路盤の整地作業中、ドラグ・ショベルの後方で均し作業をしていた者が、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30106	7	1～9
2003	11	10 ～ 11	砂防ダム改修工事において、ドラグ・ショベルで作業道を造成中に、ドラグ・ショベルの左側（運転席側）と既存のコンクリート擁（よう）壁（高さ約0.86m）の間（約0.78m）を通り抜けようとして、土砂を積み込むため旋回したドラグ・ショベルの左カウンターウエイトと擁（よう）壁との間にはさまれた。	30108	7	1～9

2003	10	11 ～ 12	町道の道路改修工事において、ショベルカーを道路端に寄せようと後退したときに、近くで交通整理をしていた者に気付かなかったためゴミ製クローラ部分でひいた。	170201	7	30～ 49
2003	10	11 ～ 12	道路建設工事において、ドラグ・ショベルのバケット上に鉄板（約1.6t）を載せて旋回させたときに、法肩から約4m下の道路にショベルとともに転落しクローラ部の下敷きになった。	30106	1	50～ 99
2003	9	8 ～ 9	事業場敷地内で、ドラグ・ショベル（機体質量0.98t）をトラックの荷台に乗せようとしていたときに、バランスを崩して機械とともに転落した。	80209	2	10～ 29
2003	9	11 ～ 12	国道沿いの排水路に堆積した土砂を取り除く作業で、単独でドラグ・ショベルを運転して暗渠（きよ）（高さ1.47m、幅1.24m）個所に移動して土砂を取り除いていたときに、ドラグ・ショベルと暗渠（きよ）壁との間にはさまれた。	30199	7	50～ 99
2003	9	14 ～ 15	林道わきに電柱を建てる工事で、試掘のため設置したドラグ・ショベルのエンジンを切り忘れていたのでエンジンを切りに行ったときに、ドラグ・ショベルの車体が右旋回する形で斜面を滑って転覆しその下敷きになった。	30301	1	1～9
2003	8	14 ～ 15	ドラグ・ショベルで敷鉄板（重さ750kg）の中央上部の穴にフック付きワイヤロープを掛けてつり上げたところ、フック付きワイヤロープのフックがはずれて敷鉄板が落下し、頭部および胸部を直撃された。	30201	4	1～9
2003	8	8 ～ 9	掘削個所でズリ出しを行っていたドラグ・ショベル（0.7m <sup>3</sup> ）が旋回したときに、カウンタウエイト部と掘削個所の手すり単管との間にはさまれた。	30199	7	30～ 49
2003	8	10 ～ 11	歩道の拡幅工事において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装をはがすため、舗装にショベルの爪を掛けて斜めに引いたときに、爪がアスファルトから外れた反動でバケットが左側に振れ、舗装ガラの運搬のために待機していたダンプカーの運転手がダンプとバケットの間にはさまれた。	30106	7	1～9

2003	8	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを運転していて道路端に寄ったところ、傾斜地（林）となっていたためドラグ・ショベルとともに約30m下に転落した。	30106	1	10～ 29
2003	7	14 ～ 15	海底に沈められたコンクリート製のケーソンを引き上げる作業において、水深約9mの海底でケーソンの周りを掘削していた水中ドラグ・ショベルと別のケーソンにつり具を取り付けていた潜水士が潮流に流され接触し、頭部および左腕を切断された。	30111	6	30～ 49
2003	7	8 ～ 9	上水道の石綿セメント管更新工事において、資材置場でドラグ・ショベルの排土板とバケットで鉄板（153cm×305cm×2cm）をはさんで移動させるため、ショベルを後進させたときに後方にいた者をひいた。	30110	7	10～ 29
2003	7	10 ～ 11	線路下部の暗渠（きよ）改築工事において、ドラグ・ショベル(機体質量7940kg)で掘削作業中に、ドラグ・ショベルの脇を通り抜けようとした者が切土と旋回したドラグ・ショベルのカウンターウェイトとの間にはさまれた。	30105	7	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	道路工事において、作業用通路の凹凸を平らにするためドラグ・ショベルのバケットでそばの伐倒した木材や土砂をかき落としているときに、付近の作業者をひいた。	30106	6	1～9
2003	7	15 ～ 16	積み重ねた高さ1.5mの敷鉄板上の最上部の1枚の敷鉄板に玉掛けする作業で、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様付：2.9t）のバケットをつり上げ位置に合わせるため運転者がアームを伸ばしたときに、バケットのフックから取付けピンを外そうとしていた者がバケットに接触し敷鉄板上から墜落した。	30199	1	50～ 99
2003	7	14 ～ 15	市道の側溝改修工事において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.1m <sup>3</sup> ）で既設の側溝（質量0.76t）を撤去するため、バケット背部のフックにワイヤロープを掛けてつり上げ右旋回をしたところ、バランスを崩して横転し、近くで補助作業をしていた者がショベルのアーム	30199	7	50～ 99

			と地面との間にはさまれた。			
2003	6	17 ～ 18	道路改良工事において、二人が向かい合わせの体勢で法面（のりめん）養生に使用するシートの両端を持って広げる作業で、一人がシートを広げながら後進していたところへ、付近で砂利の整地作業を行っていたドラグ・ショベル（機体質量24.4t）が後退してきてクローラ部に巻き込まれた。	40301	7	1～9
2003	6	16 ～ 17	消防庁舎の整備工事において、ドラグ・ショベルの運転席から身乗り出して自らが運転するドラグ・ショベルの給油作業を手伝おうとしたときに、ドラグ・ショベルのアームと運転席の窓枠との間にはさまれた。	30106	7	1～9
2003	6	9 ～ 10	ドラグ・ショベルで道路の舗装（アスファルト部分）をはがしダンプに載せるためショベルを後退させたところ、運転席を後方に向けていたため、ショベル自体が前進となって左前方のタイヤでひかれた。	30110	7	1～9
2003	6	16 ～ 17	車両積載型移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台からドラグ・ショベル（バケット容量0.45m <sup>3</sup> ）でH型鋼（300×300、長さ5m、重さ0.47t）の荷卸しを行うため、バケットに取り付けてあるフックにワイヤロープを掛け、H型鋼にはクランプ1個でつり上げて左旋回したところ、クランプがH型鋼から外れて下にいた作業者の頭を直撃した。	30309	4	1～9
2003	6	15 ～ 16	道路舗装工事において、ドラグ・ショベルでダンプ・トラックにコンクリートガラを積み込む作業を行っていたときに、停車していたダンプ・トラックと後進してきたドラグ・ショベルとの間にはさまれた。	30106	6	1～9
2003	6	15 ～ 16	山間部の山止めに用いた型枠部材部をドラグ・ショベルでつり上げて25度の斜面を下に向けて移動中に、バランスを崩して約10m下に転落し、運転席と地面との間にはさまれた。	30108	2	100 ～ 299
2003	5	14 ～ 15	事務所新築に伴う基礎工事において、基礎コンクリート打設のためドラグ・ショベルで生コンクリートの入ったバケット（直径1m、高さ1m）をつり上げて移動させていたときに、ドラグ・ショベルが横転しつり上げていたバケットに直撃された。	30201	6	1～9

2003	5	16 ~ 17	水路工事において、埋設されたヒューム管（全長2.45m、直径1.4m、重さ2.6t）をドラグ・ショベルで掘り起こすため、ヒューム管にワイヤロープ掛けようと近寄ったときに、ヒューム管が倒れてきて地面とヒューム管との間にはさまれた。	30107	7	10~ 29
2003	5	18 ~ 19	植木の植え替え作業をドラグ・ショベルで行い、帰社するためドラグ・ショベルを2tトラックに載せるため、トラックを道路に止めて道路から約65cm高い隣接の空地からトラックの荷台に載せようとしたときに、ドラグ・ショベルが転倒しその下敷きになった。	30110	2	1~9
2003	5	8 ~ 9	治山工事において、勾配約30度、レキ岩混じりの土砂からなる傾斜地を機体質量2.7tのドラグ・ショベルで下る途中で、車体が一回転して傾斜地下方で作業していた機体質量20tのドラグ・ショベルの右前方のクローラに衝突し、転倒の際にオペレーターが運転していたドラグ・ショベルの下敷きになった。	30106	2	10~ 29
2003	4	15 ~ 16	高さ約10mに山積みした廃プラスチック等の廃棄物の上部で、廃棄物をドラグ・ショベルにより均していたときに、ドラグ・ショベルとともに転落し、運転席から投げ出され首を骨折した。	150103	1	10~ 29
2003	4	10 ~ 11	河川堤防上の道路舗装工事において、転圧ローラー（質量950kg）の位置を入れ替えるため、ドラグ・ショベル（バケット容量0.15m <sup>3</sup> 、機体質量3.7t）でつり上げようとしたときに安定を失い、転圧ローラー、ドラグ・ショベルとともに約2.5m下方の河原へ転落し、ドラグ・ショベルのブームが頭部に当たった。	30106	1	10~ 29
2003	4	14 ~ 15	林道開設工事において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.8m <sup>3</sup> ）のバケットを使用して整地作業中に、ドラグ・ショベル右側（谷側）の路肩が長さ約11m、最大で幅2mにわたって崩壊したため、機体が約130m下に転落し、オペレーターが路肩から約70m下方で機体から投げ出された。	30106	1	30~ 49
			道路改良工事で、埋め戻し作業を2台のドラグ・ショベルで行ってい			

2003	4	13 ～ 14	て、上側のドラグ・ショベルの運転手が運転席を降りて下側のドラグ・ショベルと山側の間を通過しようとしたときに、下側のドラグ・ショベルが旋回したため、ドラグ・ショベルの後部と法面（のりめん）との間にはさまれた。	30106	7	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	残土の積込作業で、普段使用しているミニドラグ・ショベル（車体質量2.8t）が他で使用中であったため、責任者の許可を得ずにドラグ・ショベル（バケット容量0.25m <sup>3</sup> 、車体質量6t）に搭乗して道路を移動させていたときに、道路路肩から3m下にドラグ・ショベルごと墜落し、運転席から放り出されて立木とドラグ・ショベルとの間に腹部をはさまれた。	30110	1	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	高速道路用橋脚の立坑（縦約23m、横約24m、深さ約12m）内において、ドラグ・ショベルを用いて掘削作業を行っていて、ドラグ・ショベルを運転して切ばりの下を潜り抜けようとしたときに、切ばりの高さが低かったため左側頭部が切ばりに当たった。	30106	3	10～ 29
2003	4	15 ～ 16	小型ドラグ・ショベルをパイプハウス内に収納するため移動中に、パイプハウス入口の梁に頭部を打ち付け、そのまま頭部を梁に押さえ付けられたままとなって頸椎を損傷した。	120109	3	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	汚染土壌の掘削工事で、敷鉄板をドラグ・ショベルで移動して敷鉄板を前に倒し、地面から約30cmで止めた後に敷鉄板の玉掛け用具を外すため、レンガを敷鉄板と地面との間にはさんでいたときに、ドラグ・ショベルのオペレーターがバケットを下げたため、バケットで押し潰された。	30309	7	50～ 99
2003	3	8 ～ 9	工事現場にドラグ・ショベルを搬入するため、倉庫で4tダンプにアルミ製の道板を掛け積込みをしていたが、真っ直ぐに積込みが出来ないので道板上で少し右に修正したときに、道板が滑り落ちたためドラグ・ショベルとともに転落した。	30199	2	10～ 29
		8	配水管埋設工事において、ミニドラグ・ショベル（機体質量420kg、車幅62cm）で転圧機をつり上げて町道（幅162cm）を移動していたとき			

2003	3	～ 9	に、町道から高さ90cm下の田んぼに墜落してミニドラグ・ショベルの下敷きになった。	30110	1	1～9
2003	2	～ 14 ～ 15	道路工事に使用する土止め用の大型土のう（約1t）をドラグ・ショベルを用いて製作する作業中、製作し終わった土のうをドラグ・ショベルでつり上げ移動させたところ、ドラグ・ショベルが横転しかけたので運転していた被災者が運転席の外に逃げ出したが逃げきれず、横転してきたドラグ・ショベルの下敷きとなった。	30106	2	10～ 29
2003	2	～ 10 ～ 11	歩道橋下部新設工事の橋脚用立坑において、クラム・シェルを用いて基礎碎石を投入して床均し作業を行っていたときに、引き上げようとしていたバケットに頭部をはさまれた。	30105	7	1～9
2003	2	～ 0 ～ 1	上下水道工事の仮置場において、ダンプに積み込む残土をドラグ・ショベルで寄せ集めていたところ、盛土（高さ約90cm）の斜面でドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出されてドラグ・ショベルの下敷きになった。	30110	2	50～ 99
2003	2	～ 8 ～ 9	ドラグ・ショベルをトラックより積みおろすため、トラック後部荷台に掛けた道板上を降りていたとき、機体が前方回転したため機体から投げ出され、機体（機体質量1480kg）の下敷となった。	30109	1	10～ 29
2003	2	～ 8 ～ 9	ドラグ・ショベルを移動しようとしたときに、運行経路の傾斜部で滑ってそのまま路肩から川へ転落し溺死した。	30106	1	10～ 29
2003	1	～ 11 ～ 12	道路改良工事において、ドラグ・ショベルを使用して不整地運搬車に積まれた補強土壁用ブロックをつり降ろすため荷台上で待機していたところ、誤操作によりドラグ・ショベルが旋回したため、バケットで胸部を強打された。	30106	6	1～9
2003	1	～ 8 ～ 9	排水管敷設工事における土止め支保工の解体作業で、矢板をつるために油圧ショベルをバックさせていたところ、油圧ショベルのアームが大きく振れ、その下にいた作業者の頭にバケットが激突した。	30110	3	1～9



2003	1	9 ～ 10	道路路面改良工事で、中層の玉砂利をドラグ・ショベルで大まかに均したのち、トンボでさらに手均しをしていたところへ、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30106	7	10～ 29
2003	1	17 ～ 18	埋め戻し土を、ドラグ・ショベル（バケット容量0.5m <sup>3</sup> ）のバケットで均し作業を行っていたときに、近くで竹ぼうきで道路の清掃作業を行っていた者に気付かずドラグ・ショベルのクローラでひいた。	30110	7	1～9
2003	1	15 ～ 16	工場内にあるアスファルトガラ仮置場で、ドラグ・ショベルを用いて小さいガラと大きいガラに分別していたときに、高さ約7mのガラ山から転落し、運転者が放り出されて下敷きになった。	40309	1	10～ 29
2003	1	8 ～ 9	事業場内で、ドラグ・ショベルにより除雪作業中、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30199	6	10～ 29
2002	10	13 ～ 14	個人住宅の解体工事で出た廃材を約1 km離れた休耕地に2 t ダンプトラックで運搬し、バックホーで掘削した穴に投棄する作業中に、バックホーが休耕地の端の斜面から2.7m下のあぜ道に転落し下敷きになった。	170209	2	1～9
2002	11	13 ～ 14	法面の仕上げに使用する土のうをドラグショベルのバケット（0.45?）で仮置場に移動するためエンジンを始動してロックレバーを解除した瞬間、バケットが法面側に動き出したため退避していた者が左足膝下を挟まれた。	30108	7	30～ 49
2002	12	7 ～ 8	ドラグショベルでトラックに瓦礫等を積載作業中に、身体を車外に乗り出してブームに挟まれた。	150102	7	1～9
2002	11	11 ～ 12	ずい道上部を開削するため、岩盤上の土被り状況調査の掘削をしているときに、作業床端部より重機とともに転落し、車外に放り出されて重機の下敷きとなった。	30102	1	1～9
		8	砕石工場の井戸に設置している水中ポンプを交換するため、ポンプに			

2002	11	～ 9	接続された鉄管（直径15.5 c m、長さ7m）にワイヤーロープを掛けドラグ・ショベルで引き上げ地面に着地させたときに、バケットの吊りフックからワイヤーロープが外れたため鉄管が落下し激突された。	40301	4	10～ 29
2002	11	～ 12	木材用破碎機の片付け作業中、周辺の木屑を均していたドラグショベルが破碎機のベルトコンベアーに当たったため、留金から外れたコンベアーが破碎機の下で木屑を拾っていた者に激突した。	150103	6	10～ 29
2002	11	～ 16	ドラグショベルで採石場への進入路の拡幅作業を行っていたときに、高さ約70m下の土場にドラグショベルとともに転落した。	20201	1	10～ 29
2002	9	～ 8	フェリーで運ばれたドラグショベル2台をトレーラーに積み終えた後に姿がみえなくなったので、別業者のトレーラー運転手が警察署に通報し捜したところ、港の水深約8mの海底で発見された。	40302	10	10～ 29
2002	11	～ 10	水道工事後の舗装復旧工事で、碎石の敷均しのためドラグ・ショベル（0.2t）を後退させたときに、後方で敷均しを手伝っていたダンプ運転手をドラグ・ショベルで轢いた。	30110	7	10～ 29
2002	10	～ 9	ドラグショベル（機体質量12 t）のバケットに取り付けられたフックにワイヤーロープを掛けてコンプレッサーを吊り上げ移動しようとしたときに、ショベルが転倒して運転席から投げ出され頭部を挟まれた。	30106	2	10～ 29
2002	11	～ 11	市道の側溝設置工事において、溝内（深さ65 c m）でスコップを使って掘削した土をドラグ・ショベルのバケットに入れる作業中、ドラグ・ショベル運転者が運転席に乗り込み中腰で安全ロックを解除したときに、着ていた雨衣が旋回レバーに引っかかったため、上部旋回体が旋回しバケットと溝脇の擁壁との間に挟まれた。	30106	6	1～9
2002	11	～ 10	工事現場の交通誘導を行っていて、何らかの理由でドラグショベル後方に立ち入ったためバックしてきたドラグショベルに轢かれた。	170201	7	50～ 99

2002	10	16 ～ 17	河川改修工事において、降雨のため軟弱化した作業用道路をドラグ・ショベル（クローラ式）で整地するため、作業用道路を下流側から上流側に向かって約85m走行して停止し上部旋回体を90度右旋回したときに、右後方（クローラ後端部から約2m）にいた者を轢いた。	30107	7	10～ 29
2002	10	10 ～ 11	2階建の建築工事において、駐車場棟の車の出入口部の既設側溝解体のため、バックホーで解体したコンクリートブロックを2tトラックに積み込んでいるときに、バックホーのバケットの爪に掛けていたワイヤーロープが外れコンクリートブロック（重さ370kg）が落下した。	30201	4	1～9
2002	10	15 ～ 16	建売住宅建設現場工事において、基礎コンクリートの配筋に使用する鉄筋の束（約220本：600kg）をトラックの荷台からドラグショベルで吊り降ろす作業中に吊荷が振れたため、振れを止めようと吊荷に近寄ったときドラグショベルが転倒しその下敷きになった。	30202	2	1～9
2002	9	11 ～ 12	建設会社の資材置場の水はけが悪いので、3mほど掘削して地盤の改良（表土返し）作業中に、ドラグ・ショベルが滑って掘削した穴に転落し運転席に挟まれた。	30199	1	10～ 29
2002	9	17 ～ 18	農道新設工事で、重機と人力により道路盛土の敷き均し作業中、バックしてきた重機のキャタピラに押し倒され右足及び腰部を轢かれた。	30106	7	10～ 29
2002	8	15 ～ 16	庭園築造工事において、石（縦130cm、横110cm、厚さ50cm）をドラグショベルで移動させるため、事業者がドラグショベルを運転し2人で石のワイヤーロープ掛け作業を行っていたところ、ドラグショベルが左旋回してきたためカウンターウェイトと石との間に体を挟まれた。	30199	7	1～9
2002	8	8 ～ 9	病院の増築工事で、車両系建設機械で整地作業を行っていたときに、重機の作業範囲内に立ち入った者が重機のクローラに巻き込まれた。	30201	7	50～ 99
2002	8	7 ～	玉掛ワイヤーロープが掛けられた丸太（直径15cm、長さ1.8m）約50本を移動させるため、ドラグショベルのバケットのフックを使用して丸太を吊上げた状態で谷側に旋回したところ、ドラグショベルが横転	30201	2	1～9

		8	しキャビンに頭部を挟まれた。			
2002	7	11 ～ 12	残土の整地及び周囲の草刈り作業で、整地のためにドラグショベルを後退させたときに刈った草の取りまとめ作業をしていた者を轢いた。	30199	7	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	伐採した雑木を搬出するため、山の斜面にある伐木をドラグ・ショベルのバケットで道路上に引き落とす作業を行っていたときに、監視員が落下してきた伐木に激突された。	30106	4	1～9
2002	6	13 ～ 14	病院の工事において、作業構台上で掘削した土砂を運び出すダンプトラックの誘導を行っていて、土砂をダンプトラックに積み込む作業を行っていたパワーショベルの旋回した上部機構と作業構台の単管手すりとの間に押しつけられ挟まれた。	30201	7	30～ 49
2002	4	22 ～ 23	トンネル掘削工事において、長さ約9m、質量約400kgのアーチ型鋼製支保工をドラグショベルのバケットにワイヤーロープを掛け吊り上げたときに、作業員が吊り荷の下に入ったのでオペレーターが急停止したところ、ワイヤーロープが外れて作業員が鋼製支保工の下敷きになった。	30102	4	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	深さ約5m、幅約3mの掘削溝に雨水管（長さ3.2m、Φ1650mm、約3.8t）を収め、玉掛けに使用したナイロスリング（12m、幅10cm）をドラグショベルで引き上げているときに、スリングの端部が管の下部に引っ掛かったため、簡易土留めの支柱とドラグショベルで引っ張られていたナイロスリングとの間に上半身を挟まれた。	30110	7	10～ 29
2002	5	15 ～ 16	配水管の埋設終了後、仮設鉄板を埋め戻したところに敷き直すため、ドラグショベルを後退させたときに後方にいた者を轢いた。	30110	7	1～9
2002	5	15 ～ 16	林道新設工事において、ミニワイヤーウォール工法を用いて道路谷側壁面の補強作業を行っていた小型のドラグショベルが180度旋回（機体上部のみ）したときに、谷側に転倒しそのまま谷の斜面を約20m転落	30106	1	30～ 49

			した。			
2002	4	8 ～ 9	木造家屋解体工事において、水撒きをしていた者が「がら」を搬出していたバックホーの旋回体後部と民家の壁との間に背中を挟まれた。	30209	7	1～9
2002	4	14 ～ 15	河川改良工事で、法面と護岸ブロックとの間を埋め戻すため対岸からドラグショベルで土砂を投入していて、7m余り先にある対岸に投入するためアームを伸ばしたときに、ドラグショベルの安定が崩れて川に転落し、運転者が運転席内で頭部を挟まれた。	30107	1	10～ 29
2002	3	7 ～ 8	岩石破碎機のホッパー内において、ホッパー中央部の溝周辺に詰まった石を手で掻き出してドラグショベルのバケットに入れ、ホッパーの四隅に仮置きする作業をしていたところ、ドラグショベル運転手がバケットを操作して作業員に激突させた。	20201	6	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	農道の排水路工事において、トラックを運転して埋め立て用の土砂を降ろしたのち床均し作業を行っていたところ、近接して重機作業をしていたドラクショベル運転手が気づかずにバケットを旋回させたため、トラックの運転手を直撃しトラックのあおり部分との間に頭部を挟まれた。	30107	6	1～9
2002	3	8 ～ 9	道路を舗装するために幅を計測して赤スプレーでマーキングする作業中、バックホーが作業場に入ってきたので通り過ぎるのを待ち、バックホーが停車した後作業を再開したときに、バックホーがバックしてきたためキャタピラに巻込まれた。	30106	7	1～9
2002	2	10 ～ 11	建物解体工事において、土間の解体ガラの搬出作業をドラグ・ショベルを使用し行っていたときに、作業箇所へ散水をしていた者がドラグ・ショベルの作業範囲内に立ち込んだため旋回したドラグ・ショベルのバケットが頭部に激突した。	30201	6	10～ 29
		6	ドラグショベルを2tダンプに積み込むため、バケットをダンプの荷台に置いて後ろ向きにクローラの後端を浮き上がらせて荷台に載せた後、アームを旋回してバケットを地上に接地させて車体を荷台に積み			10～

2002	2	7	～	込もうとしたときに、クローラの後端がダンプの荷台から外れてドラグショベルが横転し、運転者が運転席から投げ出されヘッドガードと地上との間に挟まれた。	30110	1	29
2002	2	15	～	地下水槽をコンクリートブレイカーで解体中に、幅14m、高さ6m、厚さ0.3mに亘ってコンクリート壁が倒壊し作業員に激突した。	30209	5	1～9
2002	3	11	～	10 t ダンプで運ばれてきた砂利をドラグショベルの後方で鋤簾を使用して均し作業中、後退してきたドラグショベルに轢かれた。	30106	7	10～ 29
2002	3	10	～	県道の舗装修繕工事において、工事用写真を撮影していたところ、背後から後進してきたドラグ・ショベル（機体質量2865kg）のクローラに腰・腹部を轢かれた。	30199	7	10～ 29
2002	3	16	～	下水管布設工事現場において、ドラグ・ショベル（機体質量：2.57t）で埋め戻し後の転圧作業を行っていたときに、交通整理を行っていた者を後進で轢いた。	170201	7	30～ 49
2002	2	13	～	工事現場で使用した鉄板を別の工事現場へ運ぶため、ドラグショベルのバケット背部のフックにワイヤーロープを掛けて吊り上げ左方向に回転させたときドラグショベルが左側に横倒しになり、運転していた者がドラグショベルの下敷きになった。	30106	2	1～9
2002	3	16	～	用水路上を歩道にするため、既設水路の上に敷くコンクリート製床板2枚（約700kg）をドラグショベルに吊り下げて移動していたところドラグショベルが横転し、近くにいた者が車体に押されて水路内に転落した。	30106	6	1～9
2002	2	15	～	車両系建設機械（機体質量380kgのドラグショベル）で橋梁下の土砂を掘削していたときに、橋梁の主桁と車両系建設機械との間に胸部を挟まれた。	30105	7	1～9
		14					

2002	2	～ 15	排水路改良工事現場において、一般車両及び工所用ダンプの誘導を行っていた警備員が、後進したバックホーのキャタピラに轢かれた。	170201	7	10～ 29
2002	1	0 ～ 1	ダム管理用道路の開設工事現場で、切り株（直径30cm、長さ50cm）を機体質量2.48tのドラグ・ショベルで吊り上げて旋回していたところ、バランスをくずしてドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出されて約28m下の谷へ転落した。	30106	1	50～ 99
2002	2	0 ～ 1	激甚災害対策特別緊急河川工事で、ドラグショベルで川の中央部に土嚢を積む作業中、昼休憩のためにドラグショベルを左岸に移動させていたところ川の深みにはまりバランスを崩して転倒し、脱出できずに溺死した。	30107	10	10～ 29
2002	1	13 ～ 14	バックホーによる擁壁周囲の埋め戻し作業中、付近で作業していた者が見当たらないので、もう1台のバックホーで埋め戻し箇所を掘り返したところ、1.5mの深さのところに埋まっていた。	30201	6	1～9
2002	1	14 ～ 15	ドラグショベルのバケットでクラッシュランをブロック積の裏側に入る作業中、コンクリートブロックの写真撮影をしようとした者が移動したドラグショベルに轢かれた。	30106	7	10～ 29
2002	1	10 ～ 11	道路新設工事における水路用ボックスカルバートの設置作業で掘削した盛土の整形のため、盛土の最上部までドラグショベルを進行させたときに、ドラグショベルが盛土を乗り越え反対側で転倒し、ドラグショベルの下敷きになった。	30106	2	1～9
2001	12	9 ～ 10	道路工事現場で道路下の杉のかかり木が作業に支障があるため、道路上からドラグショベルにワイヤーロープを掛けてかかられた木を外そうとしたときに、かかり木は外れずドラグショベルが道路から13.9m下に転落し、その下敷きになった。	30106	1	1～9
2001	12	9 ～ 10	深さ1.2mの用水路内にたまったヘドロを小型ドラグショベル(機体質量980kg)で除去作業中に、用水路に掛けられたコンクリート製の橋とドラグショベルの運転席との間に挟まれた。	30199	7	10～ 29

2001	12	13 ～ 14	道路工事において、ドラグショベルとブルドーザーで砕石を敷き均しているときに、ドラグショベルの後方で作業をしていた者をドラグショベルのクローラーでひいた。	30199	7	10～ 29
2001	11	13 ～ 14	小学校のプール建設工事において、整地運搬車の荷台からU字溝8本(総質量652kg)をパワーショベルを使用して吊上げ、右旋回したときにパワーショベルが転倒し、オペレーターが投げ出されて約9m下の道路に墜落した。	30209	2	1～9
2001	10	17 ～ 18	簡易水道新設工事において、片側交互通行の交通誘導を行っていて作業が終了したので道路上の鉄板を片付けるためにドラグショベルを移動する間、一般車両を止める作業を行っていたときに急に一般車両が進入してきたので誘導するためドラグショベルに接近したところ、ドラグショベルが突然バックしてきてひかれた。	170201	7	10～ 29
2001	12	15 ～ 16	土間で採石の敷き均し作業において、ダンパーで転圧したのちバックホーの後を横切ろうとしたときに、バックしてきたバックホーのキャタピラに下腿部をひかれた。	30201	7	50～ 99
2001	10	16 ～ 17	下水道の築造工事において、質量約800kgの覆工板を開口部に敷くためドラグショベルで約40度吊り上げた状態で覆工板の下にあった木材を取り除こうとしたときに、覆工板が横滑りしたため身体を挟まれた。	30110	7	10～ 29
2001	10	16 ～ 17	銭湯の排水管の修理工事が終わって埋め戻し作業を行っているときにドラグショベルとともに転落した。	30107	1	1～9
2001	10	11 ～ 12	工業用水管の布設工事において、土止め支保工を設けた掘削床に用水管をドラグ・ショベルで降ろし、玉掛け具の繊維スリングを外そうと管の先端部に近づいたとき、運転者が誤ってショベルのバケットを上昇させたため、管と支保工の切梁との間に胸を挟まれた。	30110	7	1～9
2001	10	10 ～ 11	ほ場整備工事において、ドラグショベルで用水路を掘削していたときに、測量のため掘削中の溝に下りていた者の頸部にショベルのバケットが当たり、更に引きずられた。	30107	6	10～ 29



2001	9	16	一般住宅の下水道工事現場において、作業に使用したドラグ・ショベルをダンプカーに自走により積み込む作業を行っていたとき、2枚の道板(アルミ製)のうち1枚が脱落してショベルとともに転落した。	30203	1	10～ 29
2001	8	10	ドラグショベル(機体質量1.5t)で果樹園の鳥獣害防止柵の扉門柱(幅約2m)基礎ブロック埋設のため法尻部分を掘削していたところ、ショベルのキャタピラがアスファルト部から未舗装の部分にかかり、自重により沈み込んで転倒し、ショベルとともに法面下方(約1m)に転落し下敷きになった。	30199	1	10～ 29
2001	9	15	堰堤築造工事の埋め戻し作業において、ドラグショベル(機体重量2.6t)で後進しながら左旋回をしたところ、傾斜地であったためショベルが転倒し、地上に投げ出されてヘッドガードの下敷きになった。	30108	2	10～ 29
2001	9	15	トンネル工事にて、ずりの仮置場からずりをダンプに積み込むため、バックホーで掘削していたところ、バックホーの足元が崩れて横転し下敷になった。	30102	2	10～ 29
2001	8	8	トンネル建設工事現場において、切羽下部に堆積した土砂をドラグショベルで除去して後退させたときに、切羽後方16m付近で排水処理マットの取付けを行っていた者がひかれた。	30102	7	10～ 29
2001	7	9	治山ダムの型枠組立作業のためドラグ・ショベル(機体質量18.8t)を勾配12度の工事用仮設道路を治山ダム現場に向かっていたところ、仮設道路に敷いてあった鋼製ロードマット上でショベルが谷側にスリップし、路肩より3.2m下の仮設道路に転落し、ショベルの下敷きになった。	30108	1	10～ 29
2001	8	11	道道の路肩拡幅工事において、残土をダンプトラックに積み込むため後退してきたドラグショベルにひかれた。	30106	7	10～ 29
2001	7	10	新築マンション建設のための旧建物の解体作業において、使用していたドラグ・ショベルが後退して来たところに粉じん発散防止のために	30209	7	10～

		11	水を散水していた作業者がいて、キャタピラに巻き込まれ、ドラグ・ショベルの下敷になった。			29
2001	4	8 ～ 9	災害復旧現場の土砂を2tダンプトラックにドラグ・ショベルで積み込むため、ドラグ・ショベルを運転して盛土の上から下りようとしたところ、傾斜約30度、高さ0.97mの斜面でドラグ・ショベルが転落し、ドラグ・ショベルの運転席部分と地面との間に胸部をはさまれた。	30108	1	10～ 29
2001	7	14 ～ 15	ドラッグショベルを用いて土盛り作業中、ドラッグショベルを後退させたときにショベルの後方で作業を行っていた者をひいた。	30106	7	1～9
2001	7	13 ～ 14	歩道設置工事現場において、川の上流側の溶接作業をするため下流側においてあった溶接発電機(重さ400kgグラム)をユンボで吊上げ運んでいるときに、路肩から3.9m下の川へ転落し、バックホーの下敷きになった。	30107	1	10～ 29
2001	6	14 ～ 15	道路修復工事に使用したドラグショベルを積載型トラッククレーンに積込む作業中に荷台に掛かったドラグショベルのクローラーが滑って横転し、ブームの下敷きになった。	30109	6	1～9
2001	6	11 ～ 12	国道の工事現場で、作業中のドラグショベル付近を車両誘導のため通行していたところ、ドラグショベルのオペレーターが気づかずにショベルを移動させたためクローラに巻き込まれひかれた。	170201	7	30～ 49
2001	6	13 ～ 14	4t車両積載型トラッククレーン(吊上げ荷重2.93t)に積まれていた鉄板(重量730kg)をバックホーで荷台から降ろすときによそ見をしたため吊り位置にい玉掛者を荷台とバケットとの間に挟んだ。	30107	7	10～ 29
2001	6	8 ～ 9	道路災害復旧工事において擁壁の基礎部分の埋め戻し作業を小型ドラグショベルで行っていたときに、作業端の路肩からショベルとともに転落し下敷きになった。	30106	1	30～ 49
2001	6	11 ～	採石作業場で発破後、作業道を後退してきたドラグショベルに足をひかれた。	20201	7	10～ 29

		12				
2001	6	14	重機運搬車(3.4t)にアルミ製の道板2枚を取付け、ドラグショベル(機体質量990kg)を荷台に積込む作業を行っていたところ、道板からドラグ	30199	1	10～29
		15	ショベルが転落し、その下敷きになった。			
2001	6	13	水道管布設工事において、明り掘削溝に土砂の埋め戻し作業をしてい	30110	7	1～9
		14	たドラグ・ショベルが1mくらい後進したときに、後方で道路面をホウキで掃除していた者を右側履帯でひいた。			
2001	6	17	県道の分割工事において、ドラグショベルと11tダンプを使用して水中	30102	6	50～99
		18	ポンプを設置する釜場と呼ばれる池を掘削したが水中ポンプ接続用ホースが足りなかったため坑口寄りに釜場を掘削しようとドラグショベルを約1.7m後退させるときに、雑役工がドラグショベル後部ウエイトとダンプ荷台との間に頭部を挟まれた。			
2001	5	8	井戸堀工事において、約5m四方、深さ約8mの井戸穴の地下水をくみ	30199	7	10～29
		9	上げるポンプが埋まったため、ドラグ・ショベルで引き抜くためポンプに取り付けたロープをショベルのアームにかけ、ポンプの真上になるよう旋回するとき、オペレーターが操作を誤ったためロープを押さえていた者がバケットに激突された。			
2001	5	14	道幅を確保する工事において、水路を確保するために道路横の側溝に	30105	6	1～9
		15	設置したヒューム管を除去するため、ドラグショベルで一旦ヒューム管を吊り上げて浮かせ角材(7.5cm角、長さ165cm)を入れようとしたときに、ヒューム管が下方にずれて差し込もうとしていた角材がはねて右あごに激突した。			
2001	5	16	道路改良工事において、測定の障害となるドラッグショベル(機体質量	30106	2	30～49
		17	2360kg)を移動させたときに運転を誤りドラッグショベルが転倒して運転席より投げ出され、転倒したドラッグショベルのヘッドカードと地面との間に胸部を挟まれた。			
2001	5	14	農業用水路(深さ1.2m、幅1.2m)に堆積している泥をドラグ・ショ	30106	6	1～9
		15	ベルにより取り除く作業で、水路底でショベルのバケット位置を指示			

		15	していたバケットが頭部に激突した。			
2001	5	13 ～ 14	高圧線の鉄塔工事に部材を運ぶための作業道を開設するため、民有地の竹林をドラグショベル(機体質量1.5t)で掘削していたところ、ドラグショベルが後方に転倒したため現場に自生している竹とドラグショベルとの間に挟まれた。	30199	2	10～ 29
2001	4	14 ～ 15	道路脇の農業用水路をドラグショベルで清掃する作業において、道にキャブタイヤケーブルがあったため、ショベルの運転席から離れて同僚にも手伝ってもらいキャビンの上をまわして移動させ、再び運転席に着いたときにヤッケの裾が旋回レバーに触れていたため右旋回し、傍らにいた者がショベルのアームと管の間にはされた。	30106	7	30～ 49
2001	4	16 ～ 17	流末排水工のパイプ設置部の掘削作業において、バックホーのキャタピラが外れたため6名で修理していて、キャタピラの張りを確認しようとバックホーを旋回したときに、バックホーのカウンターウエイトと近くに置いていた別のバックホーのバケットとの間に挟まれた。	30107	7	30～ 49
2001	4	8 ～ 9	トレーラーにドラグショベルを積み込む作業で、ショベルのアームを支えにして機体を浮き上がらせトレーラーに乗せようとしたところ、ショベルのキャタピラ部分がトレーラーから外れ、その反動でドラグショベルが横転し下敷きになった。	30199	1	10～ 29
2001	4	8 ～ 9	開口面をふさぐ敷鉄板(質量約693kg)をドラグ・ショベル(機体質量2.5tバケット容量0.15立方m)で吊り上げ旋回したところ、機体が横転したためコンクリート壁とヘッドガードとの間に頭を挟まれた。	30201	2	10～ 29
2001	4	15 ～ 16	水道管の修繕作業を終え、使用したドラグショベルをトラックの荷台に載せるため道板上を登っていたところ、ドラグショベルが後ろ向きに転落し、その下敷きになった。	30110	2	10～ 29
2001	2	11 ～ 12	河川災害復旧工事において、バックホーで河川敷側面のブロック積み裏込め作業に使用する砕石を落とす作業をしていたとき、旋回したバックホーの後部が河川敷堰堤上に設置してあった発電機に当たった	30107	4	1～9

			ため河川敷下に落下し、作業をしていた者に激突した。			
2001	4	9 ～ 10	小規模崩壊地復旧工事において、小型パワーショベルで掘削中に法面の切り株にバケットが当たったため、その反動で小型パワーショベルが持ち上がってバランスを崩し、ショベルとともに約3m下に転落した。	30199	1	1～9
2001	1	13 ～ 14	町道改良工事において、石積み作業のため石(質量28.5kg)に玉掛けを行っていたときに、オペレーターが操作を誤ってバケットが接触し、深さ1.2mの溝に転落し、同時に石も落下して腹部を強打した。	30199	6	1～9
2001	3	10 ～ 11	一時仮置した砂をドラグショベルでダンプカーへ積み込むため、搬入道の上から掘削していたときに、約3m下へドラグショベルとともに転落し下敷になったもの。	40302	1	30～ 49
2001	3	13 ～ 14	管路防護コンクリート型枠解体で、ミニバックホーによる木杭の引き抜き作業が終了し、アームを旋回して排土板を上げたときに、ミニバックホーから投げ出され、転落してきたミニバックホーの下敷きになった。	30107	6	1～9
2001	3	13 ～ 14	家屋解体工事現場で、ドラグショベルを運搬するためトレーラーに積載したのち、上部旋回体を旋回させたときにドラグショベルが路上に転落し、ドラグショベルの下敷きになった。	40301	1	1～9
2001	3	16 ～ 17	ドラグショベルによる整地作業が終了したので、約41.7m下の県道に降りているときに、県道上の回し場で方向転換をする際に車体のバランスを崩し、17m(斜距離)下の谷に転落した。	30106	1	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	建設用コンクリートガラ再生処理プラントにおいて、ダンプから卸したガラをガラ山の上部へトラクターショベルを用いて押し上げる作業を行っていたところショベルの作業半径内に立ち入り、ドラグショベルのバケット又はバケットから落下したガラに激突された。	10909	6	10～ 29
2001	2	9 ～ 10	道路改良工事に伴う立木の伐採作業で、木が株から切り離れたときに近くの建物に当たらないようにするためバックホーのバケットの背面に乗り立木にワイヤーロープを掛けていたときに、足が滑って約1.85	30106	1	1～9

			m下に墜落した。			
2001	3	15 ～ 16	営業所構内において、大型トレーラーから重機を降ろしていたところ、重機がバランスを崩したので運転席から地面へ飛び降りたが、倒れてきた重機の運転席部分と近くに横積みしてあった電柱との間に胸部を挟まれた。	40302	1	30～ 49
2001	3	9 ～ 10	ドラグショベルの運転者が後方約70mの位置にいた別の作業員に作業指示をするためエンジンを停止して下車したが、これを見ていたドラグショベルの誘導員が無資格なのにドラクショベルの運転練習をしようとしてドラグショベルに乗車して前方を少し掘削し、後進させたためドラグショベルに戻ろうとしていた運転者を轢いた。	30106	6	30～ 49
2001	3	16 ～ 17	道路災害復旧工事において、積載型トラッククレーンに積んでいた鉄板(重さ1.2t)をドラグショベルでつり降ろそうとしたところ、玉掛用クランプが鉄板の中心に掛っていなかったため同鉄板が傾いてトラックの荷台から滑り落ち、ドラグショベルと鉄板との間に挟まれた。	30199	7	30～ 49
2001	3	13 ～ 14	市道の歩道改良工事において、パワーショベル(機体質量4t)で歩道面に撒いた砂利を均す作業をしていたときに、後進していたのクローラーでひかれた。	30106	6	1～9
2001	2	17 ～ 18	個人住宅の改築工事で、浄化槽を埋めるために使用したドラグショベルをトラックの荷台に積み込んでいるときにドラグショベルが転倒し、下敷きとなった。	30209	2	10～ 29
2001	2	15 ～ 16	マンホール管を据付けた掘削穴内で箱尺を持って写真撮影の補助をしていたところ、隣接する工事現場のバックホーのアームが旋回してきて、そのバケットで穴内のマンホール管を押し動かしたため、マンホール管と掘削面(土留め)の間にはさまれた。	30110	7	1～9
2001	1	13 ～ 14	送水管布設工事において、現場から出た土を一旦仮置きしていたのを別の場所へ搬出するためバックホーを運転していたところ、横転して頭部をはさまれた。	30110	2	10～ 29

2001	1	14 ～ 15	資材置場において、道路改良工事で使用した矢板(192kg)18本をリース会社へ返すため、車両系建設機械のバケットにワイヤロープを掛けクランプで矢板を挟んで1本目を吊り上げたときにクランプから矢板が外れ近くにいた者を直撃した。	30106	4	30～ 49
2001	1	17 ～ 18	片側1車線を交通止めした作業が終了したので、センターライン中央に置いてあったバリケード(H形鋼の上に柵を6枚並べて固定したものを)をドラグショベルで1本吊りし道路端に移動しようとして地切りしたときに、重心がずれてバリケードを保持していた者に激突した。	30110	6	1～9
2001	2	14 ～ 15	道路拡幅工事において、交通整理等の警備業務中に、掘削穴に碎石を入れて表面の均し作業を行っていたドラグショベル(機体質量7.5t)のクローラに頭部をひかれた。	170201	7	10～ 29
2001	1	15 ～ 16	造成工事現場において、工事に使用したパワーショベルを別の現場に搬送するためトラック荷台に積載中に、パワーショベルの下敷きになった。	40301	7	1～9
2001	1	16 ～ 17	採石場の工事用道路をドラグショベルで下っていたときに積雪のため路肩からドラグショベルごと横転し、運転席にはさまれた。	20201	1	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	道路改良工事において、ガラ(コンクリート廃材)を2tトラックに積込んで荷台にシートをかけ運転席に向かっていたときに、右旋回してきたドラグショベルとトラックとの間に挟まれた。	30106	7	1～9
2000	1	11 ～ 12	街路等整地工事において、擁壁背面部の埋め戻しのためドラグショベルで土砂を搬入したときに、敷き均し作業を行っていた者が現場に隣接する建物とバケットとの間に挟まれた。	30109	7	10～ 29
2000	11	14 ～ 15	道路改良工事において、幅4mの道路でドラグショベルを運転していたところ大型ダンプトラックが下ってきたのでショベルを谷川斜面側に寄せたときに、路肩が崩壊したためドラグショベルとともに勾配約40度の斜面を12.4m転落した。	30106	1	10～ 29

2000	3	8 ～ 9	道路改良工事において、ドラグショベル(0.7m <sup>3</sup> )でL型擁壁(重さ3.75t)を吊り上げていたところ、ワイヤロープ(直径16mm)が破断し吊荷の下にいた作業員2名が下敷きになった。	30106	4	10～ 29
2000	12	9 ～ 10	県道拡幅工事において、道路拡幅に伴う水路付替え作業のためパワーショベルのバケットに積んだ栗石を投入しながら横移動していたときに、パワーショベルの進路上で伸縮目地(エラストイト)を手鋸で切断する作業をしていた者をひいた。	30106	7	50～ 99
2000	3	14 ～ 15	油圧ショベルで排水溝のコンクリート打設作業中、油圧ショベルの運転者がジャンバーを操作レバーに引っかけたまま(左旋回状態)ロックレバーを解除したため、バケットのコンクリートをスコップでかき出していた者にバケットが激突した。	30109	6	1～9
2000	2	10 ～ 11	油圧ショベルでよう壁施工のための床掘りを行って移動していたときに路肩が崩壊して油圧ショベルが横転し、床掘り側にいた者の頭部、肩にアームが激突した。	30106	6	30～ 49
2000	3	9 ～ 10	道路に置く縁石の運搬作業で、縁石1個(重さ80kg)をドラグ・ショベルで吊り込んでトラックに載せ、玉掛けされたベルトを外そうとしたが外れなかったため、ドラグ・ショベルの運転手が手伝うため運転席より降りようとしたときに上着が旋回レバーに引っ掛かったため、アームが左旋回してバケット部が作業者に当たった。	30209	6	10～ 29
2000	2	11 ～ 12	水路(幅3.5m)を横切る道路及び歩道部分の函渠工事において、水路に砂が堆積し浅瀬となったのでドラグショベルで均すため、ドラグショベルのアームを伸ばしたが手前までしか届かなかったため車体を浅瀬に近づけようとキャタピラ旋回したときに浅瀬にいた者がバケットと水路の護岸の間に挟まれた。	30106	7	1～9
2000	1	14 ～ 15	ドラグショベルで石積み用の石の運搬と盛土の作業中、石積み作業に従事していた者が後退したドラグショベルのバケットと盛土との間に挟まれた。	30199	6	1～9
		14	資材置場において、コンクリート集水柵をトラック荷台からドラグ			



2000	12	～ 15	ショベルで吊り降ろす作業の合図してバケットに頭部を激突された。	30110	6	1～9
2000	9	7 ～ 8	矢板間に溜まった水をくみ出す水中ポンプを設置するため、ドラグショベルでチェーンを使って吊り上げ、腹起しに取り付けたチェーンブロックに吊り替える作業中にドラグショベルのバケットと腹起しとの間に頭を挟まれた。	30107	7	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	山の斜面に水道パイプを埋め込む作業中、小型ドラグショベルがバランスを崩したので約2m下の山林に飛び降りたが、その上にドラグショベルが落下しその下敷きになった。	30110	2	10～ 29
2000	2	10 ～ 11	バックホーで振動ふるい機を台座に据え付ける作業中に、振動ふるい機が揺れたため乗っていたコンベヤから足をすべらし、その直後に振動ふるい機とコンベヤとの間に腹部を挟まれた。	20201	7	1～9
2000	10	10 ～ 11	漁港に干潟を造成する工事において、海岸で掘削した砂をガット船のハッチに積み込む作業を船尾に係留中の押船上で作業を見守っていた者がグラブバケット付の掘削機械の上部旋回体の底部とハッチコーミングの天端の隙間(6cm)で下腹部を挟まれた。	30111	7	10～ 29
2000	5	11 ～ 12	谷止工の新設工事において、型枠設置のための床掘り作業をドラグ・ショベルで行っていて近くにいた谷止工がショベルに激突された。	30108	6	10～ 29
2000	4	14 ～ 15	ドラグショベルの運転手が運転席から降りようとして誤って旋回用のレバーに触れたため、バケットが旋回し近くに止めてあったトラックの横でガラを整理していた者がバケットとトラックとの間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2000	11	16 ～ 17	宅地造成工事に使用した機体質量5.1tのドラグショベルを8tトラックに積載中、トラック荷台からドラグショベルが転落し、運転席から投げ出されて地面とドラグショベルとの間に胸部をはさまれた。	40301	1	10～ 29
		16	河川災害復旧工事において、排水用鉄管(長さ6m、質量786kg)をワイ			

2000	3	～ 17	ヤーロープ1本でドラグショベルで吊り上げているときに、つり荷のバランスが悪いので下ろしたところ、下ろした鉄管が転がってきて、鉄管と鉄管との間に挟まれた。	30107	7	30～ 49
2000	2	～ 17	ドラグショベル(機体質量15.3t)を移送するためトレーラーの荷台に積載し、据付け位置の微調整のため機体を前・後進(各2回)したときに、気付かぬうちに荷台にあがっていた者がショベル後部と荷台のフレームとの間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
2000	11	～ 14	13 家屋解体現場から4tトラックで廃材置場まで廃材を運搬し、後進で分別作業個所に近づきトラック荷台後部の横開き式のあおりを開けているときに、近くで分別作業をしていたドラグショベルが旋回してあおりを押したため、あおりと車体との間にはさまれた。	30202	7	1～9
2000	9	～ 14	13 無資格者がドラグ・ショベルを移動しているときに溝に転落しそうになりバケットで支えて止まったので、ダンプとドラグ・ショベルにワイヤーを掛け、引き上げようとしたときにショベルと共に転落し、その下敷きになった。	30199	1	1～9
2000	1	～ 10	9 コンクリート擁壁の基礎部分へコンクリートを増し打ちする作業で、擁壁の反対側からドラグショベルでコンクリートを入れたバケットを擁壁を越えて地面に降ろし、その後、同じ場所で作業をしていた作業員がドラグショベルに乗り込もうとしたときに着衣が操作レバーに引っ掛かったためバケットが動き、大腿部がバケットとフーチングの間に挟まれた。	30109	6	1～9
2000	8	～ 14	13 建物の解体工事において、ドラグショベルでコンクリート壁(高さ5m、幅7m、厚さ18cm)を解体しようとしていたところ、急に壁が倒れて	30309	5	1～9
			14 ショベルの運転席にコンクリート塊が直撃してきた。			
2000	4	～ 17	16 宅地造成工事において地山を掘削した土をクローラ式ドラグショベルで移動(旋回)中にドラグショベルが転倒し重機から放り出された。	30109	2	1～9
			プラント新設工事において、ホッパーの補強鉄骨材を溶接中、地なら			

2000	10	11 ～ 12	しを行っていた車両系建設機械が溶接ケーブルが邪魔になるのでバケットで移動しようとして、アームを溶接者に当てたため跳ね飛ばされ、溶接していた鉄骨材に頭部を強打した。	30203	6	1～9
2000	1	9 ～ 10	自動車道の橋桁新築工事で、山側斜面の土砂崩れを防ぐために土砂を入れた袋をドラグショベルで吊り上げているときに、ショベルが谷に転落した。	30105	1	1～9
2000	12	11 ～ 12	農道橋工事において、ドラグショベルで土嚢を吊上げていたときに、同僚ドラグショベルを急に回転させたため巻込まれた。	30105	7	1～9
2000	11	9 ～ 10	アースオーガーで荒堀された穴(縦100cm横75cm深さ220cm)の中で、手掘りで岩石の除去作業を行っていたときに、アースオーガーの運転者が気付かずにドリルを穴の中に入れて掘削させたためドリルに巻き込まれた。	30302	7	1～9
2000	9	16 ～ 17	工場建設予定地の地質にボーリング機械を搬入するための仮設路を造る作業中に転倒したバックホー(機体重量2.8t)とそのキャビンの柱との間に胸部を挟まれた。	30109	2	10～ 29
2000	8	9 ～ 10	トラック(積載荷重2t)に載せていたドラグ・ショベルを地上に降ろす作業をしていたところ、地上から荷台に掛け渡した2本のアルミ製の道板(勾配15度)の1本が外れてドラグ・ショベルが横転し、地面とヘッドガードの柱との間に頭部を挟まれた。	30110	1	1～9
2000	10	16 ～ 17	工事現場内の山腹斜面で、ドラグ・ショベル(機体重量約2t)で刈った草木等を寄せ集める作業をしているときにドラグ・ショベルごと斜面(斜度約50度)を転落し、約14m下の民家に激突した。	30108	1	1～9
2000	4	9 ～ 10	住宅の新築工事に伴う既設建屋の解体後に搬入した土をスコップでならし作業を行っていたが解体等に使用したドラグショベルのバケットが障害になることから、このショベルのバケットを起こしたときにブロック壁前で待機していた者をバケットとブロック壁との間に挟ん	30202	7	1～9

			だ。			
2000	11	16 ～ 17	敷地の中で、ドラッグショベルがバックで法面の均し作業を行っていて、ネコ車で付近の石等を移動させていた者をひいた。	30107	7	1～9
2000	6	9 ～ 10	ドラッグショベルで土砂を掘削し4tダンプへ積込むため左旋回したときに、フェンス側でスミ出しを行っていた者がドラッグショベルのボディと鋼板製フェンスとの間にはさまれた。	30106	7	10～ 29
2000	5	8 ～ 9	引込私道工事において、傾斜地のブロック積みが一段落し、残った生コンをバケットに入れてドラッグショベルで吊上げ旋回中に横転したため、付近で均し作業中の者の右手首を挟んだ。	30106	7	10～ 29
2000	4	20 ～ 21	養鶏場のごみ捨場から出火したので、周囲への延焼を防ぐためパワーショベルで土をかぶせるなどの消火作業を行っていたところ、夜間と煙りにより視界が悪かったため誤って高さ9メートルの崖下に重機とともに転落した。	30199	1	1～9
2000	11	16 ～ 17	ドラグ・ショベルで鉄筋の束(約1.6t)を吊り上げてブームを左旋回させたときに、バランスを崩して約10メートル下に転落した。	30109	1	1～9
2000	5	13 ～ 14	杭打ち工事で、アースオーガーのロッドを取り替えるためロッドをドラッグショベルで吊り、アースオーガー付近まで運んでロッドを建てたところ、ワイヤーロープがバケットのフックから外れてロッドが運転台方向に倒れ、ドラッグショベルの運転者に当たった。	30201	6	10～ 29
2000	3	14 ～ 15	橋脚耐震補強工事に付帯する山留め用擁壁工事において、機体重量6.2tのパワーショベルのバケットに生コンクリートを積み路肩下方の裏込箇所へアームを伸ばしてバケットから生コンクリートを流し込もうとしたときに、クローラ前方の路肩が崩れたためショベルが前方に傾き、裏込めコンクリートの均し作業を行っていた者がバケットの下敷きになった。	30107	6	30～ 49

2000	12	10 ～ 11	林道の災害復旧工事において、地面に置いた枯損木を動かすために誘導者となり、バックホーのバケットで枯損木を押し出したところ、枯損木が右脇腹に当たった。	30106	6	30～ 49
2000	7	8 ～ 9	全長1036mのトンネル工事で、トンネル内壁のコンクリート養生が終了したので移動式の型枠(高さ6M、幅9M、長さ20M)を移動させるため脚部のクサビを取り外していたときに、後進してきたドラグショベル(0.4?)にひかれた。	30102	7	30～ 49
2000	7	9 ～ 10	県営ほ場整備の工事で、未舗装道路に砕石を敷くための丁張り用の板を切っていたときに、後退してきたドラグ・ショベル(バケット容量0.24?)にひかれた。	30109	7	10～ 29
2000	2	10 ～ 11	農地災害復旧工事現場へ機体質量2,8tのドラグショベルを移動する途中で道路脇から重機ごと転落し、ヘッドガードと重機に挟まれた。	30199	1	1～9
2000	2	9 ～ 10	下り坂(勾配13度)でドラグショベル(機体質量6.3t)を用いてコンクリートバケット(重量1180kg)をワイヤーで吊り上げ後進しながら方向転換のためにアームを左旋回させたところ、バケットの重さで水田に転落し、その下敷きになった。	30106	1	1～9
2000	3	7 ～ 8	ドラグ・ショベルで発注者に提出する写真を写す箇所の整地をするため移動したときに、前方より歩み寄ってきた現場責任者をキャタピラでひいた。	30106	7	1～9
2000	7	8 ～ 9	谷止め工施工現場において、床均し作業のためにドラグショベル(機体質量2.865t)を上流側の地山から床掘り面まで降すためドラグショベル(機体質量19t)で吊って前進したところ左前方に横転し、運転席と岩石との間に挟まれた。	30108	2	1～9
2000	10	7 ～ 8	地すべり工事現場の搬入道路において、発電機を撤収するために入ってきた4トントラックがぬかるみにはまって動けなくなったのでドラグ・ショベルで牽引して13mほど後進したときに、ショベルの後方でモルタルの準備作業を行っていた者がキャタピラーに巻込まれた。	30199	7	10～ 29

2000	10	11 ～ 12	工事用道路工事において、ドラグ・ショベル(0.7?)で掘削した伐根を所定の位置に運ぶため玉掛けワイヤーロープを掛けてドラグ・ショベルで平坦な箇所へ移動し、谷側に向けてショベルのアームを約30度旋回させたときに、機体と共に斜面を約26m下まで転落した。	30108	1	10～ 29
2000	9	15 ～ 16	農道整備工事における路面の整地作業において、仮置きしていたU字溝(重量・250Kg)を移動するため専用吊具を用いてドラグショベル(機体質量・2.02t)で吊り上げて旋回中に、ショベルが転倒し機体の下敷となった。	30106	2	30～ 49
2000	8	15 ～ 16	橋梁の解体作業で、ドラグショベルで破碎した床版コンクリート片(約600kg)を吊り上げダンプトラックに積み込むため旋回したときに横転し、ショベルと共に約22m下の川に墜落した。	30199	1	1～9
2000	11	13 ～ 14	平坦地との高低差が3.2mある宅地造成地の端で機体質量2.49tのドラグ・ショベルでコンクリートバケットを吊り上げ型枠にコンクリートを流し込む作業中に、ドラグ・ショベルが平坦地に転落し機体の下敷きになった。	30199	1	1～9
2000	10	16 ～ 17	共同溝工事において、ドラグ・ショベル(機体質量2.83t)を移動するため運転していたときに、上部にある土止めの切りばりとドラグ・ショベルの間に身体を挟まれた。	30102	7	1～9
2000	1	13 ～ 14	宅地造成工事現場において、捨てコン打設のため、生コンを入れたホッパーをドラグショベルで吊り上げて所定位置に降ろそうとしたときに、路肩が崩れてドラグショベルが転倒したため補助作業を行っていた者がコンクリートの擁壁とドラグショベルのアームとの間にはさまれた。	30199	7	1～9
2000	12	11 ～ 12	下水管敷設工事において、掘削溝の中で作業中にドラグショベルのバケットで吊った地盤改良材約1tの袋とコンクリート擁壁との間にはさまれた。	30110	7	1～9
			個人住宅の解体作業を終了し公道上でドラグショベルを2tトラック			

2000	6	16 ～ 17	に積み込むときに、バケットの先端をトラックの荷台に乗せその反力で機体を持ち上げ、バケットを旋回させて路面につけバックで積み込もうとしたときにショベルが傾き、トラックとアームとの間に頭部を挟まれた。	30209	7	1～9
2000	4	13 ～ 14	ドラグ・ショベルへ給油後に燃料タンクのカバーを閉め忘れたことに気づき、運転席からカバーを閉めようとしたときにアームの操作レバーに触れたため上げたままであったバケットアームが下りてきてアームとヘッドガードの支柱との間に挟まれた。	30106	7	1～9
2000	2	14 ～ 15	下水道管敷設現場の残土、ガラ置場で、貨物自動車にガラの積込作業を行うため残土上に停止していたドラッグショベルを移動させたときに、ドラッグショベルが転倒して運転席から放り出され、その下敷きとなった。	30110	2	10～ 29
2000	10	14 ～ 15	駐車場の地均し作業をしていたときに、後退してきたドラッグショベルにひかれた。	30199	7	10～ 29
2000	4	13 ～ 14	単管パイプの打ち込み作業をおこなうに当たり、機体重量5.1tのドラッグショベルのバケットの爪先で、単管パイプ(長さ153cm、直径4.8cm)を打ち付けていたところ、突然単管が倒れ単管を手で支えていた者の右脚付根を強打した。	30201	6	1～9
2000	3	16 ～ 17	ダンプの荷台からローラーをドラッグショベルで吊って地上に降ろすためドラッグショベルを左に旋回したとき、ドラッグショベルが転倒し、運転手が運転席から投げ出されて、転倒してきたドラッグショベルの運転席の左側のフレームと地面との間に挟まれた。	30106	2	10～ 29
2000	3	9 ～ 10	トラック(4t)の後部であおりの補修を行っていたときに、ドラグ・ショベルが後進したためトラックとドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	30199	7	1～9
2000	6	7 ～	パワーショベルを現場に移送するため、機械を自走させて4t貨物自動	30199	1	1～9

		8	車に積み込ませているときに横転し、ショベルの下敷きとなった。			
2000	4	15 ～ 16	梨園において、棚を張るためのアンカー撤去作業を地盤のやわらかな傾斜地(勾配約10度)でバックホーを使用して行っていて、バックホーが突然横転したため、約2m離れたところで次に撤去するアンカーを探していた者にバケット部が接触した。	30199	6	1～9
2000	2	14 ～ 15	歩道設置工事において、歩道の砂利の均し作業中、バックしてきたバックホー(機体重量5.6t)の左キャタピラーにひかれた。	30106	6	30～ 49
2000	1	16 ～ 17	採石現場において、クローラー式のドラグショベルを後退させていたところ、片側クローラーが斜面に乗り上げて横転し、運転席が立木に衝突して潰された。	30199	2	1～9
2000	10	14 ～ 15	下水道管を埋設する工事で、小型バックホー(機械重量920kg)を使用し掘削作業を行っていたところ、掘削箇所にあった石(推定約540kg)を除去するため、ワイヤーを巻いてバケットで吊り上げようとしたときに後部が浮き始め、重し代わりにキャタピラに乗っていた者が垂直状態となったバックホーから転落しバックホーの下敷きとなった。	30110	6	10～ 29
2000	8	16 ～ 17	資材置場工事に伴う取付道路の造成作業で、ダンプで搬送した土を小型ドラクショベルで整地しているときに、作業中路肩が崩れ転落しドラグショベルと地面との間に挟まれた。	30209	1	10～ 29
2000	2	9 ～ 10	林内作業車を10tトラックに、クローラーダンプを5tトラックに積み込んで林業現場へ移送し、林内作業車を荷台から卸していたときに突然進行方向の左側へ滑り出し、運転者はキャビンから飛び出したが、横転した車両に挟まれた。	40309	7	10～ 29
2000	11	15 ～ 16	農業用幹線水路建設工事現場において、作業終了時刻を過ぎても事務所に戻らないので探したところ、工事で埋め戻された現場の土砂に埋まっているのが発見された。	30107	4	1～9
		11	ドラグショベルを用いて敷鋼板を吊り上げて運搬する作業で、荷を集			



2000	10	～	積場所に降ろして吊り上げ位置に戻る途中、玉掛け作業員がショベル	30106	7	50～
		12	のキャタピラに巻き込まれて車体の下敷きとなった。			99
2000	9	～	林道の待避場所の造成工事で、不整地運搬車の運転席に乗込もうとし	30106	7	30～
		17	た時にドラグショベルの運転手が路盤の掘削整地で左旋回したため、			49
			ドラグショベルの右側後部がぶつかり被災者がドラグショベルと不整			
			地運搬車との間に挟まれた。			
2000	4	～	湖岸の土留工事現場において、土止め支保工の腹起こしとして使用する	40301	6	1～9
		9	軌条レール(長さ12.365m、重さ約620Kg)をバックホーで吊上げて			
		10	旋回移動中に軌条レールが上下左右に激しく振れたため、レール端部			
			を両手で押さえていた者が胸を打たれた。			
2000	3	～	看板の設置に伴う基礎工事のため、掘削準備のためバックホーをバック	30209	7	1～9
		8	クで移動中に、ダンプトラックの誘導を終えて歩行中の者をクロー			
		9	ラーベルトでひいた。			
1999	12	～	ドラグショベルで碎石をダンプ(32t)の荷台に積み込むため、ダンプ運	20201	6	10～
		17	転手がバックでドラグショベルに接近していたが、止まれの合図(クラ			29
		18	クションを鳴らす)がないためそのままバックしていたところ、ドラグ			
			ショベルの油圧ホース部分にダンプの荷台が当たったので、ダンプの			
			運転手がダンプを降りて見たところ合図者がドラグショベルのバケッ			
			トの下に倒れていた。			
1999	12	～	砂防堰堤築造工事現場において、ドラグショベルで丸太杭の荷卸しを	30108	7	10～
		9	するため旋回したところ、後方から作業現場へ向かってドラグショベ			29
		10	ルの脇(運転席の反対側)を歩いて来た者が通路脇の立ち木とドラグショ			
			ベルのカウンターウェイトとの間に挟まれた。			
1999	8	～	家屋解体及び竹林の伐採工事現場において、伐採した竹をドラグショ	30109	6	1～9
		14	ベルで集積場所へ移動させるため、右方向へ約170度旋回させたときに			
		15	ドラグショベルの左側後部で作業をしていた者の頭部に激突した。			
		16	バックホーのバケットに入れて運んだランマーを約50cm掘削したのち			

1999	12	～ 17	砕石で締め固められた作業場に置くためアームを旋回したときにバケットが近くの者に激突し、そのはずみで地中に埋め込まれていたH鋼で地上に出た部分に胸部を挟まれた。	30199	6	10～ 29
1999	12	～ 14	排水路工事現場において、掘削溝内に砕石を投入するドラグショベルの足場としていた鉄板をドラグショベルで吊り上げ移動させようとしたときに鉄板の一部をキャタピラで踏んだため、鉄板が反り返り、その反動でドラグショベルが急旋回して傍にいた者が吊り上げていた鉄板とコンクリート擁壁との間にはさまれた。	30110	6	1～9
1999	12	9 ～ 10	下水道管布設工事で、掘削作業を行っていたドラグショベルのアームが過旋回したため掘削孔の脇で掘削作業の確認を行っていた者にバケットが激突して、掘削孔に落下し、さらに掘削孔の中で手掘りで掘削作業を行っていた者の頭に激突した。	30110	6	10～ 29
1999	12	～ 12	橋脚の土台の整正のため、クラムシェルで川砂を掘削・移動させる作業を行っていたときに、誘導を行っていた者がクラムシェルの旋回してきた左後部ボディと構台の鋼管手すりとの間にはさまれた。	30105	7	10～ 29
1999	12	10 ～ 11	河床スロープの護岸ブロックの土台コンクリート打設作業で、コンクリートホッパー(容量0.5t、重量195kg)に生コン(約0.2t)を入れてバックホーで吊り下げて左旋回したところ、バックホーが横転し、バックホー車体と地面との間に挟まれた。	30107	2	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	地下約2.7メートルの掘削床付け工事において、軟弱地盤の改良のためミニバックホー(機体重量760kg)土とセメントを混合する作業を行おうとしていたところ、バックホーが切梁に当たり前のめりになったときに、前進レバーに入り、切梁と操作レバーとの間に胸が挟まれた。	30199	7	0
1999	12	～ 18	資材置場に置いていたドラグショベルを移動させようとしたが動かなかったため、運転席の左側に乗り込み運転者に操作方法を教えて降りようとしたときに、着用していた反射チョッキの胸元が旋回操作レバーに引っ掛かったため、ドラグショベルの上部旋回体が左後方に急旋回し、旋回体と機体との間にはさまれた。	30106	7	100 ～ 299

1999	11	11 ～ 12	6. 3トンのドラグショベルを用いて傾斜角26度の場所においてあった木の枝の除去作業中、ドラグショベルが後方谷川へ転倒し、ドラグショベル運転席フレームと地面との間に挟まれた。	30199	2	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	道路拡幅工事現場において、地下水道管の撤去のため、約1.5mの深さまで掘削された場所でドラグショベルを前進で走行中、軟弱な掘削土の上であったためショベルが左に傾き、その横を通りぬけて退避しようとした者がバケット側面と壁面との間に腰部を挟まれた。	30199	7	10～ 29
1999	11	0 ～ 1	仮設道路脇においてあった岩の写真撮影に邪魔になったドラグショベルを、移動させているときに左後部機体と岩との間に挟まれた。	30108	7	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	下水道汚水管渠整備工事において、バリケードの外で交通整備を行っていたときに、バリケード内で作業を行っていたドラグショベルが後退してきてひかれた。	170201	6	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	砂防ダム工事現場で、ダンプ用仮設搬入路を設けるため路肩でドラグショベルで盛土作業中に、路肩から斜面を約2メートル下に、ドラグショベルとともに転落した。	30108	1	10～ 29
1999	10	13 ～ 14	木造建築の新築工事現場において、バックホーで掘削作業及びダンプへの積み込みを行っていたところ、バックホーの操作を誤り浄化槽の設置のため掘削した縦2.8メートル横2.3メートル深さ2メートルの穴にバックホーごと転落したため、その穴の中で掘削箇所を手直していた者が穴の壁とバックホーのアームとの間に挟まれた。	30202	6	1～9
1999	8	13 ～ 14	橋のたもとに仮置きしてあった鋼矢板(23枚を束ねたもので推定約600kg)を中央橋上に止めた4tダンプトラックに載せるため、ドラグショベルのバケットのフックにワイヤーをかけて吊り上げ左に旋回したところ、機体が傾いたため、合図者が中央橋欄干に激突した。	30110	3	1～9
1999	9	15 ～	同僚と2人でドラグ・ショベルのエンジン部分の修理作業を行っていた、同僚がエンジンをかけドラグ・ショベルを後進させたときにドラ	30106	6	1～9

		16	グ・ショベルのクローラにひかれた。			
1999	9	13 ～ 14	治山のための法面保全工事において、ミニコンボでかき落とした表土によって作業道が通れなくなったので、頂上側を通り反対側へ大きく回り込もうとしたときに法面上を約40m転落した。	30199	1	30～ 49
1999	9	13 ～ 14	ドラグ・ショベルでポリエチレンパイプ(直径60cm、長さ5m、重さ60kg)をダンプトラックに積み込むため、ダンプトラックの荷台に乗って作業しているときに、ドラグ・ショベルのバケットとダンプトラックの車体との間に挟まれた。	30199	6	1～9
1999	7	16 ～ 17	道路復旧工事現場において、法面のコンクリートブロックの隙間に生コンを流し込むため、ドラグショベルで生コンの入ったホッパーを吊り上げて旋回したところ、フックからワイヤーロープが外れてホッパーが落下し、下にいた者にあたった。	30106	4	30～ 49
1999	9	7 ～ 8	道路新設工事の土砂採取場において朝礼が終了した後、土砂の掘削及びダンプトラックへの積込みのためドラグショベルを、路肩方向に旋回したところ、ドラグショベルのクローラが横滑りをおこし、路肩部分から約4メートルの法面下まで転落した。	30106	1	50～ 99
1999	9	13 ～ 14	ドラグショベルで掘削した土砂を段の下部に仮置きしたのち、ダンプトラックに土砂を積み込むため土砂の上を下っていたときに、ドラグショベルが転倒し、下にあった岩と車体との間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
1999	9	11 ～ 12	新築マンション建設の前作業において、現場責任者が自らドラッグショベルに乗って土中の埋設物や廃材の撤去、土の埋め戻し、整地作業を行っていたドラッグショベルの後では、瓦礫等の廃材の分別作業を行っていた者の存在に気づかず、そのまま後進させてキャタピラーでひいた。	30209	7	1～9
1999	9	10 ～ 11	矢板8枚(約3.5t)をバックホーで吊りトラックに積もうとしたときに、路肩から転落しキャタピラの下に頭をはさまれた。	30107	2	10～ 29

1999	9	8 ～ 9	落石防止擁壁工事において、使用したドラグショベルを約1km先の工事現場に移動させるため、トレーラーの荷台にドラグショベルを積み込む作業中、ドラグショベルが転倒しその下敷きになった。	30106	2	30～ 49
1999	7	17 ～ 18	当日の作業終了を確認するため立坑内に入ったとき、立坑上では掘削土をダンプカーに積み込んでいたクラムシェルに気付くのが遅れ、また立坑の手摺の止め金具に作業服が引っ掛かったためクラムシェルと手摺との間に挟まれた。	30199	7	1～9
1999	9	14 ～ 15	産業廃棄物処理作業場のクラッシャーに玉石が詰まったため、ゴミを選別していた作業員とバックホーの運転手が復旧作業を行っていたが、バックホーは別作業の応援要請を受けたので一時的にトラブル処理を中断し、帰ってきたときに選別作業員がクラッシャー投入口内でトラブル処理にあたっていることを知らずに投入口内にバケットを入れ、選別作業員に激突した。	150102	6	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	林道開設工事においてドラグショベルで集めているときに、機械の左側面を通行していた作業員に気づかず機体を右旋回させたため旋回体と機体左側の法面との間に挟んだ。	30106	7	1～9
1999	9	10 ～ 11	バイパス情報ボックス設置工事において4tダンプからバックホーで「塩ビ管(直径30センチ、長さ5メートル)」の荷おろし作業中、バックホーのオペレーターが「塩ビ管」と運転席との後壁のあいだに挟まれた。	30106	7	1～9
1999	8	13 ～ 14	道路横断の排水溝を埋戻した後に埋戻した土砂の上層(土質の悪いもの)をバックホーですき取りダンプに積込み搬出する作業中、すき取り後の地ならしを行っていた者が、旋回したバックホーの右キャタピラにひかれた。	30106	7	10～ 29
1999	8	14 ～ 15	団地の法面修復工事のため勾配約30度の法面をドラグショベルで掘削作業中、ドラグショベルが転落し、その下敷きになった。	30109	1	10～ 29
			ドラグショベルのバケットでコンクリート管を布設し、埋戻した地面			

1999	8	14 ～ 15	を転圧するため後退させたときに路肩からドラグショベルが側溝に転落し、側溝内で張り芝作業中の者がドラグショベルの下敷きとなった。	30106	6	30～ 49
1999	8	16 ～ 17	町道の法面が雨で崩壊したことから、これを復旧するため、コンクリートブロックの擁壁用基礎の打設をドラグショベルで行っていたところ、急にバケットが動いたため、後ろの法面とバケットとの間に腰を挟まれた。	30106	7	1～9
1999	7	14 ～ 15	車両系建設機械で刈り取った草の集積作業をしていて、途中で機械から降車しようとしたときに転倒し、左側頭部を機械に打ちつけた。	30109	3	10～ 29
1999	8	11 ～ 12	資材置場において、軽量鋼矢板約20枚を2列に積み上げ、矢板の片側にワイヤーロープで玉掛けし、続いて反対側も玉掛けするため、先に玉掛けしたワイヤーロープをバックホーのバケットのフックに掛けて約1メートル吊り上げたときに、バケットのフックからワイヤーロープが外れ、落ちてきた矢板の下敷になった。	30199	4	1～9
1999	7	8 ～ 9	積載型トラッククレーンへ車両系建設機械を積込むため、重機置場から道路上へ約1メートル出たところで誘導者をクローラでひいてしまった。	170201	7	30～ 49
1999	7	13 ～ 14	ドラグ・ショベルをバックで次の作業場所に移動中、幅2m、高さ約80cmの盛り土を乗り越えるときに、ドラグ・ショベルが転倒し、運転席の扉が開いていたので外に放り出されて下敷きになり、扉枠と地面との間に頭部を挟まれた。	30110	2	10～ 29
1999	3	17 ～ 18	0.7立方メートルのドラグショベルをアンカーにし、0.035立方メートルのドラグショベルを法面で作業させるために2台を連結するワイヤーロープを探していたときに、0.7ショベルの旋回半径内に立入り、その時旋回したためバケットが体に当たった。	30106	6	10～ 29
		7	倉庫解体工事でドラグショベルを使って廃材を4トンダンプに積込み作			

1999	7	7 ～ 8	業中、ダンプの後方で荷台後部に木製のあおりを取り付けていて右旋回してきたドラグショベルのカウンターウェイトとダンプの左側後部との間に挟まれた。	30209	7	1～9
1999	7	10 ～ 11	採石場において、発破後の切り取り部分の岩をドラグショベルでかき落とすため、まずベンチカットの上部表土を落とそうとドラグショベルを路肩に近づいたときに、ショベルとともに路肩から約15m転落し、機体の下敷になった。	20201	1	10～ 29
1999	7	0 ～ 1	4tダンプで運んできた解体現場の廃材をドラグショベルで焼却穴に落とし込む作業を行なっているときに、廃材の木屑等が穴に落ちた反動で熱気と煙りがドラグショベルの運転席に流れ込んだため、慌てた運転者の手が右旋回レバーに触れ、近くに居た者の頭部にバケットが激突した。	30209	6	1～9
1999	4	15 ～ 16	砂防工事において、道路にドラグショベルを置き生コンクリートの入った容器を吊り上げたところ、バランスをくずしてドラグショベルごと約1.8メートル下の道路上に墜落し、ドラグショベルの下敷きになった。	30108	1	1～9
1999	6	14 ～ 15	農道に置いてあったバックホーを移動するため、4トントラックの荷台に載せ、坂道の農道から国道にでようと右折したが雨で地面がぬかるんでいたためタイヤが空回りして進めなくなったので、バックホーに乗り換えてバケットのツメで地面を突いてトラックを押し出したときに、バックホーとともに地面に転落した。	30106	1	1～9
1999	6	1 ～ 2	道路工事現場のガードレールのところにあった石を片づけるため、ドラグショベルのバケットに石を入れようと近づいていったときに、運転手がそれに気づかずバケットを動かし、ガードレールとバケットの間に挟まれた。	30106	6	30～ 49
1999	6	16 ～ 17	橋台建設工事において、ミニドラグショベルで整地した法面を登坂中にショベルが後転し、その下敷きになった。	30199	2	30～ 49

1999	6	14 ～ 15	原石山から発生する表土等の土捨場において、表土を運搬してきた25トンダンプトラックが盛土の路肩から45度の斜面を約11m墜落したので、ドラグショベル2台で起こそうとしていたところ、1台のドラグショベルが路肩から48度の斜面を約13m墜落したため、運転席から飛び降り、斜面に打ちつけられた。	20209	1	10～ 29
1999	2	15 ～ 16	ドラグショベルで土のう筋工の床堀床均し作業を行っていてアームバケットの下敷きになった。	30108	1	30～ 49
1999	3	9 ～ 10	国道改良工事において、仮設防護柵の支柱であったH形鋼にワイヤーロープを掛けドラグショベルで基礎ごと引き抜いて、地面に立てたところ、その支柱が倒れてきたのでドラグショベル運転席から避難しようと降りたところに支柱が倒れ、H形鋼と地面との間にはさまれた。	30106	5	10～ 29
1999	3	16 ～ 17	選別機械のギアードモーターの故障修理のため高さ6.2mのモーターのところで作業中、モーターを吊るために近づけていたドラグショベルのバケットが、運転席で様子を見て立っていたオペレーターが着座したときに上着の裾が操作レバーに引っ掛かかってアームが下降してしまっただけ、バケットに押さえつけられるようにモーターとの間に挟まれた。	10909	7	10～ 29
1999	2	18 ～ 19	ヒューム管の布設後、埋め戻し作業を行っていたときに後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	30110	7	10～ 29
1999	6	11 ～ 12	バックホウで沈殿池脇の道を移動中に左側キャタピラが池に落ちて機体が約15度傾いてしまったので、運転を交代して機体を旋回させたところ、さらに機体が傾いて横転して運転席が水没し、そのとき操作レバーが足に引っ掛かかって、脱出出来ないまま溺死した。	20202	1	30～ 49
1999	5	9 ～	外壁工事において、バックホーの下に敷く鉄板をトラック荷台から降すためバックホーのバケットにワイヤーロープを取付けて鉄板を吊り旋回したところ、右側のキャタピラが浮き上がって横転し、その下敷	30202	7	1～9



		10	となった。			
1999	5	14 ～ 15	民家の石垣築造工事で、機体重量9.2トンのドラグショベルバケットにより吊り込まれた石をバケットの下部に立ち入って据え付けていて、バケットと据付け中の石との間に頭部を挟まれた。	30199	7	1～9
1999	5	11 ～ 12	電動ウインチを操作中に、旋回してきたクラムシエルのカウンターウエイトと深礎工のライナープレートとの間に挟まれた。	30106	7	30～ 49
1999	5	19 ～ 20	ドラグショベルに付けた排土板で町道の整地作業を行っていたときに、路肩から誤って転落し、運転席と樹木との間に頭部を挟まれた。	160101	1	10～ 29
1999	4	17 ～ 18	解体工事現場で作業終了後に、大型トラックの荷台にドラグショベルをバックで積もうとしたがうまく行かず、次にアタッチメントを外しドラグショベルを荷台に載せ、そのままアームを伸ばしたところドラグショベルが横転し、側にいた者がコンクリート塀とドラグショベルのブーム部との間に胸部を挟まれた。	30209	6	1～9
1999	4	14 ～ 15	木造平屋家屋の解体作業で、ドラグショベルで廃材を集める作業を行っていてドラグショベルと共に転倒し、ショベルのヘッドガードと地面との間に挟まれた。	30109	2	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	ドラグショベルで直径8cm、長さ4mの杉丸太45本を吊り上げ、工事用仮設道路上で旋回させたところ、ドラグショベルが運転席左側方向に転倒し、運転席天蓋支柱と地面との間に胸背部を挟まれた。	30108	2	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	側溝工事で、2トンダンプトラックからボックスカルバートをミニドラグショベルで吊り上げ左旋回したところ、ショベルが左方向に転倒したため、地面と運転席との間に挟まれた。	30110	2	10～ 29
1999	4	15 ～ 16	小型バックホーから身を乗り出したときに、左側間近に停止していた大型バックホーのキャビンのフレーム部分に首を挟まれた。	30106	7	10～ 29

1999	4	23 ～ 24	土止め支保工の設置工事で、マンホール内に設置された移動はしご上で作業中に、ドラグショベルのバケットと移動はしごとの間に挟まれた。	30106	7	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	ドラグショベルで約35度の斜面を下っていたところ、ドラグショベルが前倒しになったため、運転席から投げ出された、側方の法面と傾いたドラグショベルとの間に挟まれた。	30199	7	1～9
1999	3	11 ～ 12	道路舗装工事において、ドラグショベルを用いて地ならし作業を行っていたときに、後進したドラグショベルで補助作業員がをひいた。	30106	7	1～9
1999	3	9 ～ 10	資材置場で下水道用の箱型土止め用簡易パネルを解体する作業で、パネル上部を外すときに上部パネルが落ちないようにドラッグショベルで支持しようと吊り上げたところ、箱型パネルが振れて、近くにいた作業者に当たり、同人は約4メートル後の側溝に転落し、後頭部を打った。	30199	6	10～ 29
1999	3	0 ～ 1	FRP下水管の敷設工事を推進工法で施工中、到達立坑内で推進により湧き出す泥水を排除するためのバキュームホースの取り回し作業を行っていた者が到達坑内にすでに突出していた推進機先端のパイロットドリルに衣服を巻込まれて体ごと回転し、周囲の支保工に頭部を強打した。	30199	7	30～ 49
1999	2	11 ～ 12	井戸掘削作業現場でボーリングマシンのロッドをスパナを用いて取り外していたときに、ロッドが急に回転したため持っていたスパナに腹部を強打された。	30199	6	10～ 29
1999	2	7 ～ 8	圃場整備工事現場に移動式クレーン付セルフローダーでドラグショベルを搬送し、ドラグショベルを自走させて荷台より降す作業中にドラグショベルが横滑りしてバランスを崩し転落しそうになったため運転席より飛び降りたが、転落してきたショベルの下敷きとなった。	40301	1	1～9
		13	建設資材置場で、工事に使用するU字溝蓋を現場まで運ぶため、ドラッグ・ショベルのバケットに取り付けたフックを利用して吊り上げる作			

1999	2	～ 14	業を行なっているときにバケットが突然降下してきて、玉掛者に激突した。	30199	6	1～9
1999	2	～ 12	マンション新築工事における造成中、進入路に仮置きされた敷鉄板をドラグショベルで吊り上げ左旋回したときに、ドラグショベルが転倒し、運転席が土留め杭に潰された。	30201	2	1～9
1999	2	～ 17	16 汚水管布設工事において掘削した溝に布設した塩ビ管を埋め戻すため、トラックで運搬してきた砂をドラグ・ショベルのバケットに入れ約2m後進させたところ、ドラグ・ショベルの後方にいた者を右側のクローラでひいた。	30110	7	1～9
1999	2	～ 16	15 下水管埋設工事の埋め戻し作業で、バックホーが前進したので平スコップで整地するためキャタピラの後方に入ったとき、後退してきたバックホーの右キャタピラにはさまれた。	30110	7	1～9
1999	2	～ 14	13 かんがい排水の配水管布設工事で、鋼矢板上に敷いてあった鉄板を別の箇所に移動させるためドラグショベルでつり上げ走行していたところ、路肩が崩れてドラグショベルが転落し運転席が鋼矢板に当たってつぶれた。	30107	1	10～ 29
1999	1	～ 17	16 工事現場に隣接する田に集積していた杉丸太を他に移動させるため3本をワイヤロープで玉掛けして、バケットのフックに掛け吊り上げたところ、杉丸太の一端が土手に引っかかったため、フックからワイヤロープが外れ、傍にいた者に杉丸太が当たった。	30108	4	10～ 29
1999	1	～ 11	10 ドラグ・ショベルで仮設資材の敷鉄板1枚をつり上げて、左側方へ旋回中にドラグ・ショベルが横転し、ドラグ・ショベルヘッドガードと地面との間に頭部をはさまれた。	30106	2	1～9
1999	1	～ 17	16 河川護岸工事において、事故直前に設置した根固ブロックの向きを変えるためドラグショベルで吊り上げたところ、他の既設ブロックに当たり吊っていたブロックが旋回して胸部に激突した。	30107	6	30～ 49
		11				

1999	1	～ 12	道路新設工事現場で、側溝のふた4個をバックホーで吊り上げて左旋回したところ、バックホーが横転しその下敷きになった	30106	2	10～ 29
1999	1	～ 16	ドラグショベルを50M下に移動させるため、平均斜度35度の斜面を足がかりを作りながら自力で下方に移動中に約30m下に転落、バケットの下敷きとなった。	30106	1	1～9
1999	1	～ 12	工事に使用するパワーショベルを10tトラックに載せて現場に運んで来てトラックから降ろしていたときに、誤ってショベルとともに河川に転落し、ショベルの下敷きになった。	10901	1	10～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_02.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html)